医療法人社団

筑波記念会

2020 年度年報

2020.4-2021.3

筑波記念病院
筑波総合クリニック
つくばトータルヘルスプラザ
つくばケアセンター
つくば訪問看護ステーション
大穂豊里地域包括支援センター

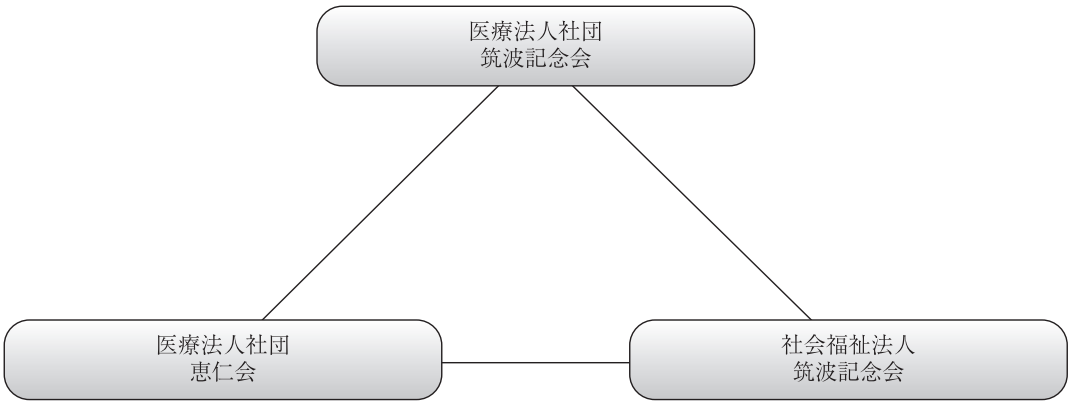
筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

INDEX

Fiscal year 2020

筑波記念グループ 組織図 …… 3
医療法人社団 筑波記念会　概要 …… 4
基本理念・基本方針・組織図 …… 4
筑波記念病院 組織図 …… 5
沿革 …… 6
施設概要 …… 8
筑波記念病院 …… 8
筑波総合クリニック …… 11
つくばトータルヘルスプラザ …… 11
介護老人保健施設 つくばケアセンター …… 12
診療部門 …… 14
循環器内科 …… 14
消化器内科 …… 16
血液内科 …… 18
神経内科 …… 20
糖尿病・内分泌代謝内科 …… 22
呼吸器内科 …… 24
消化器外科 …… 26
呼吸器外科 …… 28
心臓血管外科 …… 30
脳神経外科 …… 32
整形外科 …… 34
形成外科 …… 36
婦人科 …… 38
眼科 …… 40
耳鼻咽喉科 …… 42
皮膚科 …… 44
小児科 …… 45
小児外科 …… 46
精神科 …… 48
麻酔科 …… 50
放射線科 …… 52
病理診断科 …… 54
リハビリテーション科 …… 56
救急科 …… 58
リウマチ・アレルギー科 …… 60
腎臓内科 …… 60
乳腺・甲状腺外科 …… 60
泌尿器科 …… 60
もの忘れ診療科 …… 61
内科 …… 61
筑波記念病院　臨床研修医 …… 62
業績集 …… 64
論文 …… 64
書籍 …… 70
学会・講演・セミナー等 …… 71
診療支援部門 …… 78
看護部 …… 78
薬剤部 …… 82
放射線部 …… 84
リハビリテーション部 …… 86
臨床検査部 …… 90
臨床工学課 …… 92
栄養管理課 …… 94
医療相談室 …… 98
臨床心理 …… 100
地域医療連携部 …… 102
委　員　会 …… 106
病院運営管理会議 …… 106
医療安全管理委員会 …… 107
医療安全対策チーム …… 108
転倒転落対策 WG …… 111
医療放射線管理チーム …… 112
MRI 安全管理チーム …… 113
感染対策管理員会 …… 113
感染対策チーム …… 114
労働安全衛生委員会 …… 117
防火防災管理委員会 …… 118
臨床研修管理委員会 …… 118
臨床研修運営チーム …… 119
医療従事者研修管理委員会 …… 121
職員研修運営チーム …… 121
地域医療研修運営チーム …… 122
診療管理委員会 …… 123
救急診療運営チーム …… 123
手術部運営チーム …… 124
ICU 運営チーム …… 125
シーティング WG …… 125
病院機能改善管理委員会 …… 126
医療ガスチーム …… 127
がん化学療法運営チーム …… 128
輸血運営チーム …… 129
診療録チーム …… 130
臨床検査運営チーム …… 131
栄養チーム …… 132
栄養サポートチーム（NST） …… 133
摂食嚥下ケアチーム …… 134
褥創対策チーム …… 135
クリティカルパス・DPC チーム …… 137
緩和ケアチーム …… 137
地域医療サービスチーム …… 139
企画広報運営チーム …… 140
倫理委員会 …… 141
査定対策委員会 …… 142
薬事委員会 …… 143
筑波総合クリニック …… 144
つくばトータルヘルスプラザ …… 146
介護人保健施設 つくばケアセンター …… 150
つくば訪問看護ステーション …… 151
大穂豊里地域包括支センター …… 152
筑波記念病院 統計 …… 154
患者統計 …… 154
科別外来患者数 …… 154
救急車搬送患者記録 …… 155
ドクターヘリ搬送患者数 …… 156
平均在院日数（一般病床） …… 156
入院延べ患者数 …… 157
入院患者数 …… 158
手術件数（入院・外来） …… 159
手術件数（入院のみ・時間帯別） …… 160
病床利用率 …… 160
主な指導料・管理料 …… 161
地域がん登録部位別件数 …… 162
院内・院外　研修・講演会一覧 …… 163

筑波記念グループ　組織図



医療法人社団 筑波記念会　概要

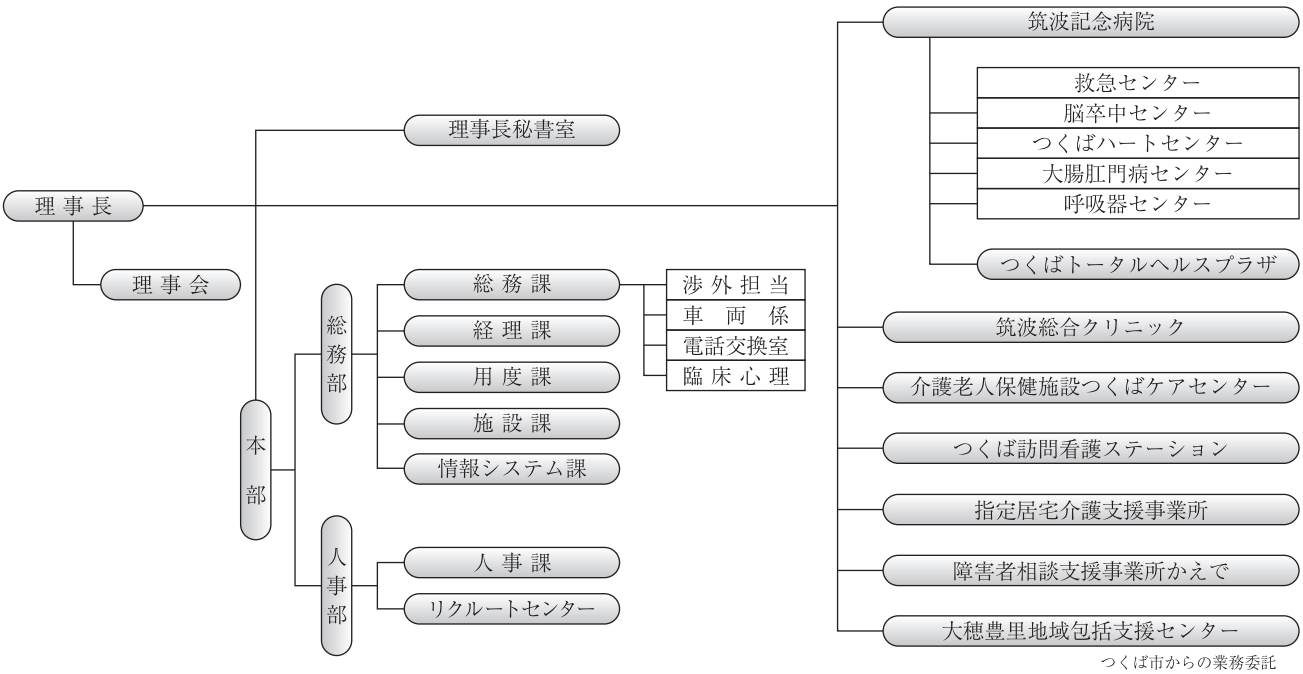
基　本　理　念

誠意を以って最善をつくす

基　本　方　針

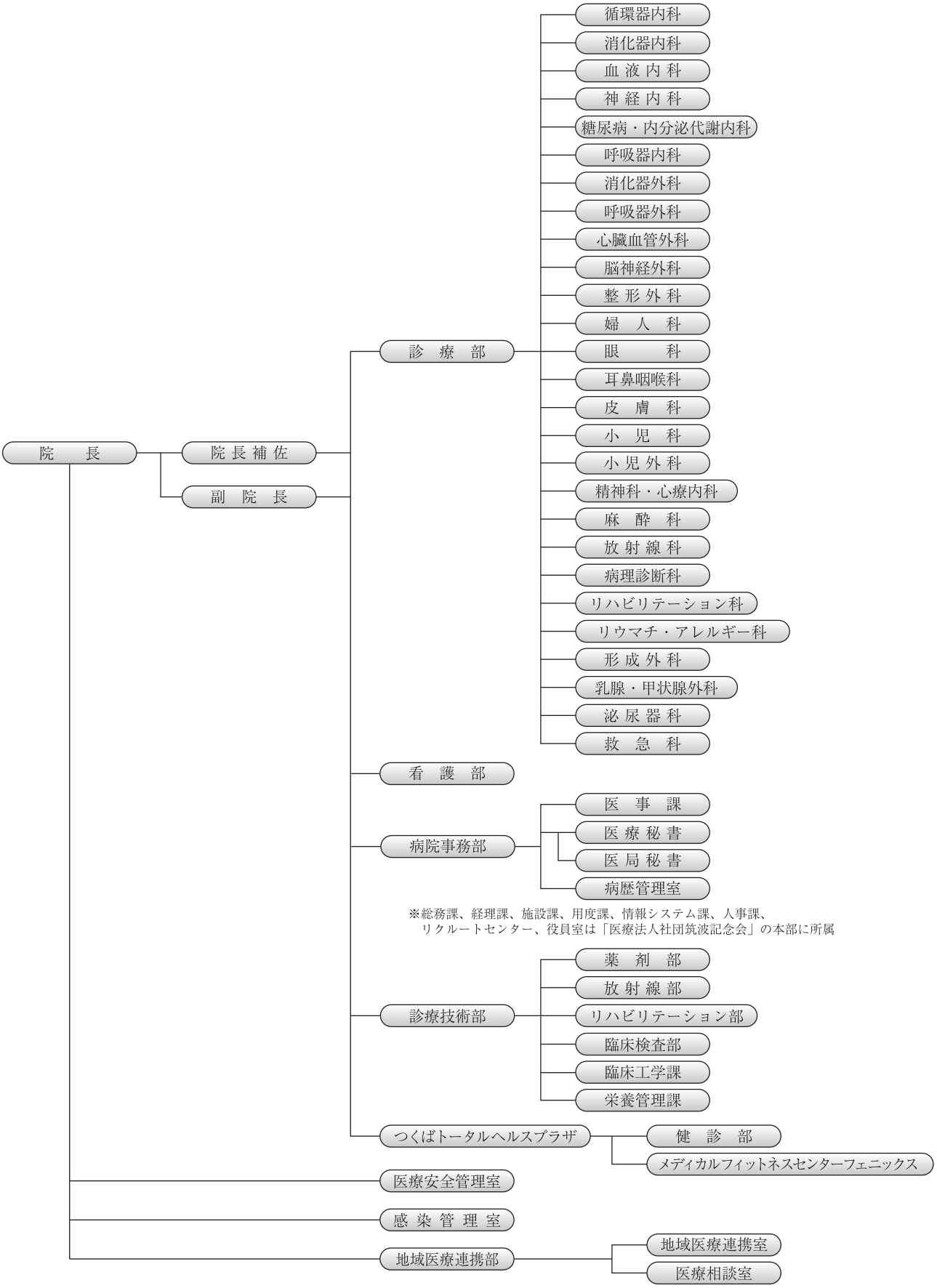
1．患者と社会に奉仕する
2．最新、最高の総合医療を提供する
3．患者の権利と意向を尊重する
4．地域の医療・保健・福祉に貢献する
5．地域社会での良好な職場環境を提供する

筑波記念会　組織図



つくば市からの業務委託

筑波記念病院　組織図


院　長
院長補佐
副院長
診療部
循環器内科
消化器内科
血液内科
神経内科
糖尿病・内分泌代謝内科
呼吸器内科
消化器外科
呼吸器外科
心臓血管外科
脳神経外科
整形外科
婦人科
眼科
耳鼻咽喉科
皮膚科
小児科
小児外科
精神科・心療内科
麻酔科
放射線科
病理診断科
リハビリテーション科
リウマチ・アレルギー科
形成外科
乳腺・甲状腺外科
泌尿器科
救急科
看護部
病院事務部
医事課
医療秘書
医局秘書
病歴管理室
※総務課、経理課、施設課、用度課、情報システム課、人事課、
リクルートセンター、役員室は「医療法人社団筑波記念会」の本部に所属
診療技術部
薬剤部
放射線部
リハビリテーション部
臨床検査部
臨床工学課
栄養管理課
つくばトータルヘルスプラザ
健診部
メディカルフィットネスセンターフェニックス
医療安全管理室
感染管理室
地域医療連携部
地域医療連携室
医療相談室

沿　　革

1982	2	筑波記念病院開設
		保険医療機関指定
	4	生活保護法医療機関指定
	5	第二次救急医療機関指定
	6	労災保険医療機関指定
1983	2	筑波健康推進センター開設
		人間ドック及び健康診断実施
		日本体力医科学研究所開設
1984	8	結核指定医療機関指定
1985	10	託児所「アイビー保育園」開設
1986	1	医療法人社団筑波記念会認可
1987	12	筑波記念病院附属第一病院開設
1989	8	附属第一病院廃止、筑波記念病院に吸収合併
1992	2	中央管理棟完成
	3	在宅介護支援センター開設
	10	つくば訪問看護ステーション開設
1994	11	「つくばトータルヘルスプラザ」、メディカルフィットネスセンター「フェニックス」開設
1996	6	老人デイケア施設「ピンクハウス」開設
1997	7	ホームページ開設
1998	4	老人保健施設「つくばケアセンター（現２号棟）」開所
1999	4	指定居宅介護支援事業所開設
		クリティカルパス導入
	12	難病医療協力病院指定
2000	12	つくば市より事業委託 病後児保育「ピーターパン」開設
2001	3	病児家族宿泊施設「ファミリーハウス」開設
	8	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（一般病院Ｂ（200 床以上））認定取得
	9	茨城県地域リハ・ステーション指定
2002	4	臨床研修病院指定
	7	「つくばクリニック（眼科）」開設
	10	茨城県訪問リハビリテーション・ステーション指定
2003	6	地域医療連携室設置
	7	介護老人保健施設「つくばケアセンター」リニューアルオープン
	8	療養病棟「けやき」開設
	11	開放型病院指定
2004	6	セカンドオピニオン外来開始
	7	DPC（診断群分類・包括評価）開始
	9	回復期リハビリテーション病棟「ひのき」開設
2005	5	外来専門クリニック「筑波総合クリニック」開設
	9	「つくばケアセンター」内に訪問リハビリテーション事業所開設
2006	1	県南スポーツ医科学センター認定
		茨城県地域リハビリテーション研修推進支援センター指定
	9	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（審査体制区分：3）認定更新（ver.5）
2008	4	特定健康診査・特定保健指導機関登録
	5	高機能医療センター開設
2010	7	ドクターヘリ受入開始
2011	10	回復期リハビリテーション病棟リニューアル
	11	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（審査体制区分：3）認定更新（ver.6）
2012	3	「つくばトータルヘルスプラザ」リニューアル
	9	地域医療支援病院　承認
	10	メディカルフィットネスセンター「フェニックス」指定運動療法施設認定
		「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション下妻出張所開設
2013	2	「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション桜川出張所開設
	10	障害者相談支援事業所「かえで」開設
2014	4	筑波記念病院附属「アイビー保育園」新築移転
	5	「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション土浦出張所開設
2015	9	筑波記念病院「Ｓ棟」竣工

2016	4	「つちうらハートクリニック」開設
	8	日本医療機能評価機構認定基準（機能種別版評価項目 3rdG：Ver.1.1）認定更新
		（主たる機能：一般病院 2、副機能：リハビリテーション病院）
2017	1	DMAT 指定医療機関指定
	11	筑波記念グループが誕生し、新たに医療法人恵仁会加わる
2018	10	社会福祉法人　筑波記念会が誕生し、新たに筑波記念グループに加わる
	11	茨城県女性が輝く優良企業認定制度に認定
2019	4	「大穂豊里包括支援センター」開設（つくば市委託）
	9	在宅療養後方支援病院　承認
	9	災害拠点病院　指定
2020	3	新型コロナウイルス感染症患者入院受入開始
	4	電子カルテシステム導入

施　設　概　要

筑波記念病院

管理者：長澤　俊郎

〒 300-2622　茨城県つくば市要 1187-299　　TEL 029-864-1212　FAX 029-864-8135

病床数　487 床　　一般病床:387 床（ICU 8 床　急性期（7 対 1）327 床　回復期リハビリテーション病棟 52 床）
療養病床（医療保険適用）：100 床（療養病棟 51 床　地域包括ケア病棟 49 床）

標榜科目

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、神経内科、糖尿病･内分泌代謝内科、心療内科、アレルギー科、リウマチ科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、 整形外科、形成外科、小児科、婦人科、精神科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科

基準情報

地域医療支援病院	生活保護法第 49 条規定医療機関
DPC 対象病院	難病医療協力病院
日本医療機能評価機構　3rdG:Ver1.1 （主たる機能：一般病院 2，副機能：リハビリテーション病院）認定	原子爆弾被爆者指定医療機関
第二次救急指定病院	自立支援医療機関（精神通院）
臨床研修病院指定（基幹型）	医療機関検診実施指定病院
茨城県指定地域リハ・ステーション	DMAT 指定医療機関・AMAT 病院
労災保険二次健診等給付医療機関	茨城県肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関
特定疾患（一般・小児）治療研究機関	在宅療養後方支援病院

施設基準等（基本診療料）

一般病棟入院基本料　急性期一般 1（7 対 1）	重症皮膚潰瘍管理加算
療養病棟入院基本料 2	栄養サポートチーム加算
地域医療支援病院入院診療加算	医療安全対策加算 1
臨床研修病院入院診療加算 1（基幹型）	感染防止対策加算 1 （地域連携加算　抗菌薬適正使用支援加算）
救急医療管理加算 1，2	患者サポート体制充実加算
超急性期脳卒中加算	後発医薬品使用体制加算 1
診療録管理体制加算 2	病棟薬剤業務実施加算 1
医師事務作業補助体制加算 2 チ（100 対 1）	データ提出加算 2 イ
急性期看護補助体制加算 3（50 対 1）	入退院支援加算 1 イロ
看護職員夜間配置加算 1 ロ（12 対 1 加算 2）	特定集中治療室管理料 3
療養環境加算	回復期リハビリテーション病棟入院料 1
療養病棟療養環境加算 1	地域包括ケア病棟入院料 2（療養病棟）
無菌治療室管理加算 1	

施設基準等（特掲診療料）

がん性疼痛緩和指導管理料	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
救急搬送看護体制加算	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
開放型病院共同指導料	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
がん治療連携指導料	大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）
薬剤管理指導料	補助人工心臓
在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	頭蓋内腫瘤摘出術等
検体検査管理加算（Ⅰ）、（Ⅱ）	肺悪性腫瘍手術等
ヘッドアップティルト試験	経皮的カテーテル心筋焼灼術
画像診断管理加算 1，2	靭帯断裂形成手術等
CT 撮影（64 列以上のマルチスライス CT）	水頭症手術等
MRI 撮影（3 テスラ以上）	肝切除術等
心臓 MRI 撮影加算，乳房 MRI 撮影加算，頭部 MRI 撮影加算，全身 MRI 撮影加算	食道切除再建術等
冠動脈 CT 撮影加算	胸腔鏡又は腹腔鏡を用いる手術
外来化学療法加算 2	人工関節置換術
無菌製剤処理料	冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないものを含む。）及び体外循環を要する手術
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	胃瘻造設術
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	輸血管理料 2　貯血式自己血輸血管理体制加算
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
がん患者リハビリテーション料	麻酔管理料（Ⅰ），（Ⅱ）
集団コミュニケーション療法料	病理診断管理加算 1
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）	

諸指定

日本リハビリテーション医学会研修施設	日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本麻酔科学会認定麻酔科認定	日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部ステントグラフト実施施設
日本脳神経外科学会専門医研修（連携）施設【筑大の連携施設。研究プログラムの１施設】	日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部ステントグラフト実施施設
日本内科学会認定医制度教育関連病院	日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
日本整形外科学会専門医研修施設	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設	日本消化管学会胃腸科暫定指導施設
日本眼科学会認定専門医制度研修施設	一般財団法人日本作業療法士協会　作業療法士臨床実習指導施設
日本内分泌学会認定教育教育施設	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設
日本医学放射線学会認定放射線科専門医修練機関	日本医療薬学会認定日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設	日本医療薬学会認定日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設	日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
日本神経学会専門医准教育施設	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定基幹施設
日本消化器病学会認定専門医制度認定施設	呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設	下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設
日本消化器外科学会専門医修練施設	浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	茨城県肝疾患専門医療機関
日本呼吸器学会認定施設	茨城県指定地域リハ・ステーション
日本血液学会認定血液研修施設	茨城県指定地域リハビリテーション研修推進支援センター
公益社団法人　日本理学療法士協会　生涯学習制度（新人研修プログラム）臨床指導施設	茨城県指定小児リハ・ステーション
日本脈管学会認定研修指定施設	茨城県指定訪問リハビリテーション・ステーション
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設	マンモグラフィ検診施設画像認定施設
日本脳卒中学会専門認定制度研修教育病院	日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター	日本認知症学会教育施設認定
日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設	

筑波総合クリニック

管理者：飯田　要

〒300-2622　茨城県つくば市要65　　TEL 029-877-1221　FAX 029-877-1191

標榜科目

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、血液内科、アレルギー科、リウマチ科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、整形外科、形成外科、小児科、婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、精神科、放射線科

つくばトータルヘルスプラザ

施設長：中原　朗

〒300-2622　茨城県つくば市要1187-299　　TEL 029-864-3588　FAX 029-864-8585

諸指定

厚生労働大臣認定健康増進施設	日本脳ドック学会認定脳ドック施設
全国健康保険協会生活習慣病予防健診実施機関	厚生労働省指定運動療法施設
日本総合健診医学会認定優良総合健診施設	日本総合検診医学会及び日本人間ドック学会認定人間ドック健診専門医研修施設
健康評価施設査定機構認定人間ドック・総合健診・特定健診・特定保健指導施設	

介護老人保健施設 つくばケアセンター

管理者：小關　　迪

〒300-2622　茨城県つくば市要 76　　TEL 029-877-1313　FAX 029-877-1334

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション

〒300-2622　茨城県つくば市要 76（介護老人保健施設 つくばケアセンター内）

TEL 029-877-1313　FAX 029-877-1334

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　下妻出張所

〒304-0051　茨城県下妻市小島 695　ブリランテ下妻 105

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　桜川出張所

〒300-4414　茨城県桜川市真壁町椎尾 1632-1

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　土浦出張所

〒300-0812　茨城県土浦市下高津 1-19-33

サービスの種類

介護保健施設サービス（入所）
介護予防短期入所療養介護・短期入所療養介護（ショートステイ）
介護予防通所リハビリテーション・通所リハビリテーション（デイケア）
介護予防訪問リハビリテーション・訪問リハビリテーション

定員等

入所定員	100 名（介護予防短期入所療養介護・短期入所療養介護も含む） 療養室　　個室　12 室、4 床室　22 室
通所定員	40 名（介護予防通所リハビリテーションも含む）

基準情報

生活保護法等指定介護機関
茨城県指定訪問リハ・老健ステーション
全国老人保健施設協会実地研修指定施設

施設基準等

入所

介護保健施設サービス費（Ⅰ）	再入所時栄養連携加算
サービス提供体制強化加算（Ⅰ）	かかりつけ医連携薬剤調整加算
夜勤職員配置加算	所定疾患施設療養費
短期集中リハビリテーション実施加算	認知症行動・心理症状緊急対応加算
認知症短期集中リハビリテーション実施加算	認知症情報提供加算
療養食加算	入所前後訪問指導加算
経口維持加算	地域連携診療計画情報提供加算
初期加算	褥瘡マネジメント加算Ⅰ～Ⅲ
口腔衛生管理加算	排泄支援加算Ⅰ～Ⅳ
外泊時費用	施行的退所時指導加算
ターミナルケア加算	退所時情報提供加算

入退所前連携加算Ⅰ、Ⅱ	緊急時治療管理
訪問看護指示加算	在宅復帰・在宅療養支援機能加算
介護職員処遇改善加算（Ⅲ）	介護職員特定処遇改善加算（Ⅰ）

短期入所療養介護

介護老人保健施設短期入所療養介護費（Ⅰ）	送迎加算
介護老人保健施設介護予防短期入所療養介護費（Ⅰ）	重度療養管理加算
個別リハビリテーション実施加算	在宅復帰・在宅療養支援機能加算（Ⅰ）
療養食加算緊急	緊急短期入所受入加算
サービス提供体制強化加算（Ⅰ）	緊急時治療管理
夜勤職員配置加算	認知症行動・心理症状緊急対応加算
介護職員処遇改善加算（Ⅲ）	介護職員特定処遇改善加算（Ⅰ）

通所リハビリテーション

通常規模型リハビリテーション費	サービス提供体制強化加算（Ⅰ）
6時間以上8時間未満の前後延長サービス	介護予防通所リハビリテーション費
リハビリテーション提供体制加算	理学療法士等体制強化加算
入浴介助加算（Ⅰ）、（Ⅱ）	重度療養管理加算
リハビリテーションマネジメント加算（A）イ（B）イ	中重度者ケア体制加算
短期集中個別リハビリテーション実施加算	移行支援加算
認知症短期集中リハビリテーション実施加算	運動器機能向上加算
生活行為向上リハビリテーション実施加算	選択的サービス複数実施加算
栄養改善加算	事業所評価加算
口腔機能向上加算	介護職員処遇改善加算（Ⅲ）
介護職員特定処遇改善加算（Ⅰ）	

訪問リハビリテーション

訪問リハビリテーション費	サービス提供体制強化加算（Ⅰ）
介護予防訪問リハビリテーション費	移行支援加算
短期集中リハビリテーション実施加算	リハビリテーションマネジメント加算(A)イ～(B)ロ
事業所評価加算	訪問リハ計画診療未実施減算

協力医療機関

筑波記念病院
筑波総合クリニック
おおさわ歯科医院

診　療　部　門

循環器内科

【総括】

1．2020 年度実績報告

2020 年度は筑波大学から新たな派遣はなく、つくばハートセンター、筑波総合クリニックにも在籍医師の増減はなかった。手術件数は減少した昨年をさらに下回る結果となった。新型コロナウイルス感染による受診自体の差し控え、院内クラスター発生による病棟閉鎖と診療縮小、そして風評被害などが複合的に関与したものと推測している。本年度も新規手術方法の導入はなかった。心臓血管外科との連携は持続的に良好である。病棟、医局など共通であり、緊密な連携がとられている。リハビリテーション部には、新型コロナウイルス感染流行下にもかかわらず多大なるご協力をいただいた。生理検査部門にもお世話になった。新型コロナウイルス感染予防の観点から経食道心エコー検査が困難となりご迷惑をおかけした。感染予防法の確立が待たれる。臨床工学技師（ME）にも時間外対応を含めて多大なるご協力を得た。遠隔医療の一環としてペースメーカー、ICD の在宅モニタリングを推進しており、５０例程度をフォローしている。ME には、毎月データ収集にご協力いただいている。学会発表は今年も虚血部門に限定された。オンラインが主体となり、今後も継続されるであろう。
循環器病棟 / 患者さんからのクラスター発生については、真摯に受け止める必要がある。再度のクラスター発生は許されないと強く認識し、気を引き締めて対応する決意である。

2．2021 年度の課題・目標

再度クラスターを発生させないことに尽きる。
今後しばらく回復に時間がかかり、先行きが見通せない中で、信頼の回復に時間がかかることを懸念している。
幸い救急搬送は一定数あるため、一人一人の患者さんに真摯に対応していくしかあるまい。

［文責：井川昌幸］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
榎本　強志	院長補佐（総合診療統括）	常（HP）
井川　昌幸	循環器内科診療部長	常（HP）
我妻　賢司	つくばハートセンター長	常（HP）
新居　秀郎	循環器内診療科長・集中治療部科長	常（HP）
内田　靖人	循環器内科診療医長	常（HP）
井藤　葉子		常（HP）
竹井　義純		常（HP）
沼田るり子		常（HP）
青沼　和隆		非（HP）
林　孝典		非（HP）
川松　直人		非（HP）

【手術実績】

分　類	件　数
経皮的冠動脈ステント留置術	164
経皮的カテーテル心筋焼灼術	64
ペースメーカー移植術・交換術	37
経皮的冠動脈形成術	3
除細動器移植術・交換術	4
経皮的血管形成術（下肢）	16
その他	23
総手術件数	311

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	122	5.8
050130	心不全	63	22.0
050070	頻脈性不整脈	57	8.1
050030	急性心筋梗塞（続発性合併症を含む）、再発性心筋梗塞	26	20.6
050210	徐脈性不整脈	18	13.2

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2,005	1,843	2,307	2,352	2,019	2,290	2,228	1,860	2,271	2,172	1,885	2,430	25,662

消 化 器 内 科

【総括】

1．2020 年度の実績報告

①2020年度の当科入院のべ患者数は15,160名（平均在院日数：14.3日）、新入院患者数890名、外来受診者数21,024名であった。前年2019年度と比較して、いずれの数値も減少を示した。

②内視鏡診療では、胃内視鏡施行数2,624件（2019年度：3,583件）および大腸内視鏡施行数1,655件（2019年度：2,091件）であり、前年度比で大幅減少となった。入院および外来患者数と内視鏡件数がともに減少した理由は、COVID-19の感染流行による受診控え及び検査制限がその主因であると分析している。

③学会発表に関しては第40回医療情報学会にて池澤が発表した報告が、同学会における2020年学術奨励賞を受賞し表彰された。本研究は2019年文部科学省科学研究費の助成を受けて、筑波大学消化器内科との共同で行ったものである。

④論文執筆では、小林真理子医師が「皮膚所見をともなわず診断に苦慮した多発無菌性皮下膿瘍合併潰瘍性大腸炎の1例」を日本消化器病学会雑誌へ投稿し既に受理され、現在発行待ち（in press）である。

⑤学会関係では、小林真理子医師が日本消化器病学会関東支部評議員に選出された。大塚公一朗医師が第363回日本消化器病学会関東支部会にて、一般演題の座長を務めた。

2．2021 年度の課題・目標

①2021年度は、COVID-19の感染流行以前の胃内視鏡3,500件および大腸内視鏡2,000件への早急な回復を目指す。以前からの目標である消化管悪性腫瘍に対するESD100件（2020年度：89件）、ERCP年間300件（2020年度：212件）が達成できるように努力する。さらに、超音波内視鏡検査が安定して施行できるためのスキル習得も重ねて目標とする。

②病-診連携・病-病連携を強化する。具体的には、月平均100例以上・年間総数1,200例以上（2020年度：856例）の紹介を目標として、受け入れ要請に対する応需率100％が達成可能な体制の構築を目指す。

［文責：池澤和人］

【人事】

氏　名	役　　職	勤　務
池澤　和人	副院長（医療安全管理統括・内科診療統括）・医局長・消化器内科診療部長	常(HP)
添田　敦子	消化器内科診療科長・化学療法部長	常(HP)
越智　大介	消化器内科診療医長・内視鏡センター長	常(HP)
大塚公一朗		常(HP)
岩井健太郎		常(HP)
小林真理子		常(HP)
白石　貴久		非(HP)
山本　祥之		非(HP)
杉山　弘明		非(HP)
遠藤　壮登		非(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
060020	胃の悪性腫瘍	102	16.1
060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	94	13.1
060035	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	77	14.9
060102	穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患	50	10.4
060300	肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）	45	16.8
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）	41	10.4
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	39	17.0
060350	急性膵炎	34	13.7
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	33	7.8
060040	直腸肛門（直腸Ｓ状部から肛門）の悪性腫瘍	32	15.0

【手術件数】　※ ESD は除く

名　　称	件　数
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	651
内視鏡的胆道ステント留置術	97
内視鏡的胃・十二指腸ポリープ・粘膜切除術	64
内視鏡的消化管止血術	54
内視鏡的胆道結石除去術	41
内視鏡的乳頭切開術	38
大腸 ESD	21
下部消化管ステント留置術	13
結腸内視鏡的止血術	11
内視鏡的食道・胃内異物摘出術	11
食道 ESD	9
食道・胃静脈瘤結紮術・硬化療法	7
内視鏡的膵管ステント留置術	7
胃瘻造設術	6
胃、十二指腸ステント留置術	6
食道狭窄拡張術・ステント留置術	2
内視鏡的胆道拡張術	1
その他の手術	17
総計	1,056

【内視鏡検査数】

上部消化管内視鏡	総数	2,624
検査のみ		2,448
治療内視鏡	食道 ESD	9
	胃 ESD	59
	胃 EMR	5
	EVL	7
	止血術	54
	胃瘻造設・交換	22
	異物摘出術	11
	胃･十二指腸ステント留置術	6
	食道ステント留置術	2
	胃・十二指腸狭窄拡張術	1

下部消化管内視鏡	総数	1,655
検査のみ		959
治療内視鏡	ESD	21
	EMR	651
	ステント留置術	13
	止血術	11

ERCP	総数	212
検査のみ	胆管・膵管造影	26
	EUS-FNA	2
治療内視鏡	砕石除去術	41
	胆道拡張術	1
	乳頭切開術	38
	胆道ステント留置術	97
	膵管ステント留置術	7

全内視鏡総数	4,491

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,331	1,339	1,759	1,943	1,908	1,972	2,062	1,890	2,055	1,693	1,704	1,368	21,024

血　液　内　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告

2020 年度は COVID19 感染拡大に振り回された 1 年であった。まず学会が相次いで開催中止となり学会発表・参加件数が制限された結果、学会活動自体沈滞した年度となった。その中でも論文発表が一件あったことは幸いである。COVID19 感染診療については、年度始め一時的に人員に余裕ができたため夏までの期間感染者診療を担当した（秋以降は呼吸器内科にバトンタッチした）。これは infection control team (ICT) に血液内科医師が参加しているためであるが、他院でも感染対策に血液内科医師が関与している事例は多い。感染拡大初期で COVID19 感染症の詳細がまだまだ不明で治療薬も無い時期であり、当初大半が積極的な関与を避けている中であったが、何事も避けてばかりいるより体験することが大事であり、実診療を担当できたことは良い経験となった。年度末には自院クラスター発生のため大幅な診療制限（入院制限）を強いられ、この時期は近隣の病院に患者引き受けなどで大変なご迷惑をおかけした。秋から年度末にかけてスタッフの休職があり本来なら診療態勢維持が厳しい状況となるところであったが、筑波大学血液内科からの支援とたまたま時期が一致したクラスターによる業務減により乗り切ることができた。

2．2021 年度の課題・目標

外来部門について。治療法の進歩により特に多発性骨髄腫と骨髄異形成症候群において生存期間が延長し、外来通院患者数・外来化学療法実施数が増加している（これに伴い外来化学療法ベッド確保が曜日によって厳しくなってきているところであるが）。入院部門について。一般病床の COVID19 病床転用の影響があり病院全体で一般病床数が減っている状況であるが、血液内科自体の入院は多くはない。休職者の復帰もあり、血液内科としての患者数増の余地は十分にある。在院日数については＞ 20 日であり改善すべきところである。短期退院患者を増やし、ベッド回転を上げることで対処したい。COVID19 患者用ベッド転用の影響で茨城県内複数の病院で血液疾患患者入院診療が制限されている状況下、当院が担うべき患者受け皿としての役割は増大している。2021 年度も近隣の医療機関からの依頼･紹介については漏れなく受け入れるというスタンスは堅持していく。学会活動については 2020 年度学会発表件数が激減したため、血液内科研修指定病院資格維持のため、2021 年度は前年度不足分を併せて学会発表を増やす必要がある。予定として 2021 年度は 6 件の学会発表を予定している。

［文責：佐藤祐二］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
長澤　俊郎	管理者	常(HP)
佐藤　祐二	副院長（感染・輸血管理統括）・血液内科診療部長	常(HP)
福田　匡芳	血液内科診療医長	常(HP)
鈴木　幸恵		常(HP)
一色　雄裕		常(HP)
福本　浩太		常(HP)
小松　恒彦	血液腫瘍センター長・血栓止血センター長	非(HP)
田岡　謙一		非(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
130030	非ホジキンリンパ腫	176	22.5
130010	急性白血病	83	30.9
130040	多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物	61	25.0
130060	骨髄異形成症候群	47	17.9
040080	肺炎等	22	21.1
110310	腎臓又は尿路の感染症	15	19.9
130020	ホジキン病	13	27.9
040081	誤嚥性肺炎	11	31.8
130050	骨髄増殖性腫瘍	9	15.1
180030	その他の感染症（真菌を除く。）	9	23.3

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
668	732	839	827	800	781	819	784	835	800	701	780	9,366

神　経　内　科

【総括】

1．病棟診療

今年度から常勤２人体制となった。

急性期病棟では、薬剤新規導入もしくは用量調整を主としたてんかん診療、神経変性疾患の精査・加療、内科的合併症の管理を行った。長期療養病棟への他院からのレスパイト入院担当も引き続き継続した。

2020 年度の入院診療数と疾患内容は次のようになった。

神経内科入院患者数は 47 名、コンサルテーション 85 件であった。 入院患者疾患はパーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、進行性核上性麻痺、ギラン・バレー症候群、無菌性髄膜炎であった。

コンサルテーションは脳波読影、てんかん、不随意運動の診療依頼が全体の半数を占めた。

高度な専門的治療が必要な急性期神経内科疾患は、適切な診療体制の医療機関へ紹介した。

他院からの転入院依頼は、看護部、地域医療連携室、リハビリテーション部と随時相談し対応した。

2．外来診療

神経内科専門外来 (年間 3394 人、月平均 280 人、神経変性疾患（パーキンソン病、多系統萎縮症、運動ニューロン疾患、認知症)、末梢神経障害 てんかんを始めとする神経内科疾患全般を診療した。

COVID-19 流行は、外来数、コンサルテーション件数減少に影響したが、入院数は常勤医増員に伴い前年度に比べて増加した。

3．学術、教育活動

第 61 回日本神経学会学術大会において発表した。 また、日本神経学会準教育施設として、コンサルテーションを通じて初期研修医の診療指導を随時行なった。

4．次年度へ向けて

2021 年度からはスタッフを増員していただき、神経内科グループとして独立する。皆様のお役に立てるような診療体制を構築すべく鋭意努めていく。

［文責：星野幸子］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
星野　幸子	神経内科診療医長	常(HP)
清水　　眸		常(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
01055	運動ニューロン疾患等	14	20.3
010160	パーキンソン病	11	23.0
010170	基底核等の変性疾患	4	158.8
010069	脳卒中の続発症	2	26.5
010220	その他の変性疾患	2	30.0
010230	てんかん	2	40.0
040081	誤嚥性肺炎	2	104.0

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック)】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
268	215	271	288	260	287	323	263	340	325	253	301	3,394

糖尿病・内分泌代謝内科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
藤原　　淳	糖尿病・内分泌代謝内科診療医長	常(HP)
片山　暁子		常(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
10007x	２型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）	30	20.7
100040	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡	7	13.9
01021x	認知症	4	22.0
050130	心不全	3	20.0
10008x	その他の糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）	3	30.3
100180	副腎皮質機能亢進症、非機能性副腎皮質腫瘍	3	13.3
180030	その他の感染症（真菌を除く。）	3	48.0
040081	誤嚥性肺炎	2	69.5
080010	膿皮症	2	11.0
10006x	１型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）	2	12.5
100202	その他の副腎皮質機能低下症	2	20.0
110310	腎臓又は尿路の感染症	2	10.5
010069	脳卒中の続発症	1	31.0
030190	唾液腺炎、唾液腺膿瘍	1	10.0
040080	肺炎等	1	23.0
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	1	3.0
060300	肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）	1	15.0
060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	1	11.0
060380	ウイルス性腸炎	1	6.0
070470	関節リウマチ	1	10.0
070510	痛風、関節の障害（その他）	1	8.0
071030	その他の筋骨格系・結合組織の疾患	1	8.0
100140	甲状腺機能亢進症	1	4.0
100391	低カリウム血症	1	13.0
130030	非ホジキンリンパ腫	1	14.0
160400	胸郭・横隔膜損傷	1	5.0
161020	体温異常	1	7.0
161070	薬物中毒（その他の中毒）	1	2.0
180010	敗血症	1	93.0

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
825	921	1,070	1,011	1,081	952	1,082	917	1,111	981	872	1,036	11,859

呼　吸　器　内　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告

呼吸器内科は、開設 6 年目となり、乾 年秀医師、石川宏明医師、渡辺裕子医師、大塚盛男の常勤 4 名で病院・クリニックの診療を行った。また、松野洋輔医師が非常勤としてクリニック診療に従事した。肺炎（COVID-19 肺炎も含む）、肺癌、間質性肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患などの呼吸器疾患の診療を主に行い、新入院患者数は年間 343 名、一般病床と療養病床を合わせた入院延べ患者数は年間 8,099 名であった。なお、COVID-19 肺炎患者は 45 名担当した。病院・クリニックの外来受診者数は年間 5,067 名であった。また、COVID-19 感染症関連の発熱外来等にも週 3 コマ従事し、年間 702 名診療した。COVID-19 感染症の影響で気管支内視鏡検査の実施は制限されたが、肺癌の患者を中心に 34 件実施した。

教育活動として、後期研修医 3 名及び初期研修医 7 名を担当し、呼吸器疾患の診断や治療に必要な基礎知識や診療技術の指導を行った。

2．2021 年度の課題・目標

肺癌の入院患者数は年々増加し、2020 年度は肺炎（誤嚥性肺炎も含む）の患者数を超え最多となった。治療可能な進行肺癌患者も増え、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬を用いる機会が増加しているが、これらの治療は従来の化学療法にない効果も期待できる反面、副作用に対する注意も必要であり、高度な専門的医療を要する。

2020 年度は当院でも常時 COVID-19 感染症患者の診療が必要となり、当科は専門の診療業務に加え主に中等症の入院患者の診療を担当するとともに、発熱外来や感染症対策チームの業務にも協力従事しており、担当医師の負担が増加している。2021 年度も流行が続くと考えられ、当科としては専門的医療が必要な患者への対応を優先しながらも、引き続き本感染症の診療業務にも協力する方針である。2021 年度は常勤医師が 1 名増員になるが、担当医師の負担はさらに増加すると思われる。

［文責：大塚盛男］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
大塚　盛男	呼吸器センター長	常(HP)
乾　　年秀		常(HP)
石川　宏明		常(HP)
渡邉　裕子		常(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
040040	肺の悪性腫瘍	107	16
040080	肺炎等	38	19
180030	その他の感染症（真菌を除く。）	30	12
040110	間質性肺炎	27	29
040081	誤嚥性肺炎	21	30
040120	慢性閉塞性肺疾患	9	15
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	9	33
040100	喘息	7	10
040210	気管支拡張症	6	21
050130	心不全	6	22

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
345	347	392	438	419	451	475	386	506	491	382	435	5,067

【入院患者数（転科した患者を含む）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
13	24	26	28	29	31	32	27	38	69	24	2	343

消　化　器　外　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告

2020 年度もコロナ禍の中での診療となり特に 2021 年 2 月は院内でクラスターが発生し、3 月は入院・手術の中止を余儀なくされ、近隣の医療機関に依頼せざるを得ない状況であった。この場を借りてお礼申し上げる次第である（そのため下記の診療実績は 2020 年 4 月から 2021 年 2 月の実質 11 ヵ月のものである）。

総手術件数　424 件（別表）。

腹腔鏡手術は 153 件と過去最多であった。肝切除 17 件、PD3 件、膵体尾部切除 3 件、とまだ満足できる数字ではないが年々増加傾向である。

岩﨑喜実が難関である内視鏡外科技術認定医（大腸部門）を取得し、肝胆膵外科高度技能指導医である上田和光とともに今後更なる症例数の増加と資格取得を目指す若い医師たちの教育・指導を行っていく所存である。

2．2021 年度の目標

県南地域における当院・当科の役割として緊急入院の受け入れが多く、その中の約 5％が 80 歳以上、サルコペニアや Frail 患者の手術である。術前･後は ICU 治療となることも多く救命救急科を含む多職種が介入するチーム医療をより充実させていきたい。

また、症例数の蓄積を基に学会活動も活発に行いたい。

［文責：上田和光］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
上田　和光	消化器外科診療部長・肝胆膵センター　センター長	常(HP)
岩﨑　喜実	消化器外科診療科長・大腸肛門病センター　センター長	常(HP)
永井　　健		常(HP)
玉村　　淳		常(HP)
黒田　　純		常(HP)
下田　　貢		非(HP)
戸泉　　篤		非(HP)
岡崎　直人		非(HP)
髙野　祐樹		非(HP)
筋野　博喜		非(HP)
有働竜太郎		非(HP)

【手術件数】

手術分類	件数	種類	再掲
食道亜全摘手術	4	右開胸・開腹	4
胃切除・全摘術	53	開腹	41
		腹腔鏡	12
小腸切除術	15	開腹	12
		腹腔鏡	3
結腸切除術	59	開腹	24
		腹腔鏡	35
直腸切除術	20	開腹	5
		腹腔鏡	15
虫垂切除術	47	開腹	17
		腹腔鏡	30
痔核・肛門ポリープ手術	15		
胆嚢摘出・胆管切開切石手術	75	開腹	31
		腹腔鏡	44
肝切除術	16	開腹	14
		腹腔鏡	2
膵頭十二指腸・膵体尾部切除	4		
ヘルニア手術	68	開腹	62
		腹腔鏡	6
その他の手術	48		
総計	424		

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
060035	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	59	12.3
060150	虫垂炎	47	7.8
060160	鼠径ヘルニア	68	5.3
060040	直腸肛門（直腸Ｓ状部から肛門）の悪性腫瘍	20	16.9
060335	胆嚢炎等	75	12.6
060020	胃の悪性腫瘍	53	21.0
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	15	14.1
060330	胆嚢疾患（胆嚢結石など）	75	9.0
060170	閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア	16	16.8
060102	穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患	15	8.7

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
376	406	519	507	555	561	597	597	616	561	495	363	6,153

呼　吸　器　外　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①2020年度の筑波記念病院・筑波総合クリニックを合わせた外来患者総数は2,180人で、前年度の4,629人と比較し半数以下に減少した。

②新入院患者数は120人で、前年度の198人より減少した。平均在院日数は12.2日で前年度より2.8日短縮した。

③入院手術件数は50件で、前年度73件より減少した。なお2020年度手術件数から乳腺関連手術は除外した。肺癌手術は14件で前年度より11件減少した。

④学術活動としては日本呼吸器外科学会学術集会での発表2例があった。

2．2021 年度の課題・目標

2020 年度の診療は新型コロナウイルス感染症による影響が大きく、外来患者数・新入院患者数・手術件数のいずれも減少した。全般的な受診控えに加えて、当科においては県内の住民検診受診者数の著しい減少が強く影響したと考えられる。2021 年度においてもなおこの影響が残る可能性は高いが、その中でも THP の肺がんドック料金の見直しによる健診者数増加の方策や、地域の病院・診療所からの紹介患者数増加を図るため WEB での地域医療連携講座の開催等を行なっていきたい。実際の当科の診療においては患者を中心とした考えの元で安全性・根治性・低侵襲性の３要素のバランスが取れた手術を推進し、より積極的に手術適応を考慮していく。コロナ禍においても当院では呼吸器外科診療を着実に行っていることを広く認知していただき、手術症例を増加させることで地域医療に一層の貢献をしていきたい。

［文責：吉田　進］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
吉田　　進	呼吸器外科診療部長	常(HP)
木村　正樹	総合外科診療部長	常(HP)
佐藤沙喜子		非(HP)
高橋　正己		非(HP)
黒田　啓介		非(HP)

【手術件数】

分　　類	件　数
胸腔鏡下肺切除術	14
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	9
リンパ節摘出術	7
肺悪性腫瘍手術	5
その他	15
総計	50

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
040040	肺の悪性腫瘍	53	14.1
040200	気胸	24	10.1
160450	肺・胸部気管・気管支損傷	6	11.3
130030	非ホジキンリンパ腫	4	12.0
160400	胸郭・横隔膜損傷	3	7.3
040010	縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍	2	11.5
040030	呼吸器系の良性腫瘍	2	11.0
040081	誤嚥性肺炎	2	22.5
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	2	31.5
040170	抗酸菌関連疾患（肺結核以外）	2	11.0

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
188	139	191	185	167	169	185	226	214	205	173	138	2,180

心　臓　血　管　外　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①2019年度の手術患者数は昨年と同様、茨城県内トップクラスを維持している。

②手術の低侵襲化に関して積極的に取り組んでおり、患者の年齢、状態に応じた、ベストな治療を選択するようにしている。

③左心耳マネジメントを中心としたブレインハートチームによる、心原性脳梗塞に対するチーム医療を行っている。

④学会活動としては全国学会をはじめ多くの学会にて報告、発表を行っている。

⑤論文執筆では8編の論文が掲載された。学術活動を含めた、修練医および学生の指導を積極的に行っている。

2．2021 年度の課題・目標

循環器内科とともに北関東の心臓血管外科治療の拠点として地域の患者様に貢献していけるように診療を継続していく。右小開胸僧帽弁手術をはじめとした低侵襲手術にも積極的に取り組んでいく。

［文責：吉本明浩］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
末松　義弘	副院長（ICU 管理統括･外科診療統括）	常(HP)
吉本　明浩	心臓血管外科診療部長（2020.6.1 ～） 心臓血管外科診療医長（～ 2020.5.31）	常(HP)
西　智史	心臓血管外科診療科長（2020.6.1 ～）	常(HP)
倉橋　果南		常(HP)
金子　寛行		常(HP)
有馬　大輔		常(HP)
松本　龍門		常(HP)
大塚　俊哉		非(HP)
北村　律		非(HP)
丸野　恵大		非(HP)
藤吉　俊毅		非(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
ステントグラフト内挿術	61
下肢静脈瘤手術	61
大動脈瘤切除術	32
胸腔鏡下左心耳切除術	22
弁置換・形成術	21
四肢血管のその他の手術	19
冠動脈、大動脈バイパス移植術	17
肺静脈隔離術	15
血管移植、バイパス移植術	11
動脈塞栓・血栓摘出術	11
開胸手術その他	6
血管塞栓術	1
その他の手術	8
総計	285

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
050163	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤	62	10.4
050161	解離性大動脈瘤	51	19.5
030250	睡眠時無呼吸	36	2.1
050070	頻脈性不整脈	35	9.3
050080	弁膜症（連合弁膜症を含む。）	28	15.0
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	26	17.6
050180	静脈・リンパ管疾患	21	3.3
050130	心不全	17	21.7
050170	閉塞性動脈疾患	11	20.8
050162	破裂性大動脈瘤	9	30.7

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
319	320	451	409	372	449	390	347	416	408	330	336	4,547

脳　神　経　外　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

2020年度の手術件数は119件、新規入院患者数は343人であった。昨年度より減少しているが、当院の診療体制に大きな変更はなく、新型コロナウイルスの院内クラスター発生の影響と考える。

当科では脳神経外科学会専門医4名と脳神経外科後期研修医1名、4月からは脳卒中研修中の神経内科医1名の6人体制で、常時50-60人程度の入院診療と手術を継続している。外来は脳神経外科の他、もの忘れ外来と脳ドックも継続して行っている。

脳卒中の外科学会技術指導医2名により、脳血管障害を中心とする外科手術は、若手への指導も含め高いレベルを維持している。筑波大学脳卒中科との連携により、急性期再開通療法を含む脳血管内手術も高いレベルで可能であり、脳卒中については治療のための転送はない。

4月より谷中先生が筑波大学脳神経外科臨床教授に就任し、院内のみならず筑波大学脳神経外科グループ全体の教育を行っている。手術を含む脳卒中治療の指導に加え、脳神経外科専門医取得に必須である学会発表や論文作成の指導も継続して行っている。

2．2021 年度の課題・目標

当院は脳卒中学会準拠の一次脳卒中センターとして認定されており、脳卒中を中心とする脳神経疾患や頭部外傷について 24 時間対応できる診療体制を整えている。救急外来から脳卒中ケアユニット（SCU）、急性期病棟、回復期病棟、療養病棟、地域包括ケア病棟を利用して自己完結型の治療を行えており、今後も継続していきたい。

さらに当院では若手脳神経外科医の教育に力を入れており、筑波大学脳神経外科の後期研修医や若手脳神経外科専門医にとって重要な研修病院となっており、現状を維持していきたい。

［文責：中村和弘］

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
010060	脳梗塞	146	25.8
160100	頭蓋・頭蓋内損傷	57	19.7
010040	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	51	33.2
010030	未破裂脳動脈瘤	26	11.7
010230	てんかん	15	13.7
010061	一過性脳虚血発作	11	9.1
010020	くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	10	22.3
010069	脳卒中の続発症	10	16.0
030400	前庭機能障害	9	3.9
010010	脳腫瘍	8	20.8

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
谷中　清之	脳卒中センター長	常(HP)
中村　和弘	脳神経外科診療部長	常(HP)
小沼　邦之		常(HP)
秋本　雄		常(HP)
髙田　麻耶		常(HP)
塚田　篤志		常(HP)
鯨岡　裕司		非(HP)
伊藤　嘉朗		非(HP)
松丸　祐司		非(HP)
早川　幹人		非(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）（椎弓形成）	1
穿頭脳室ドレナージ術	15
減圧開頭術（キアリ奇形、脊髄空洞症の場合）	1
脳膿瘍排膿術	1
頭蓋内微小血管減圧術	2
頭蓋骨腫瘍摘出術	1
頭蓋内血腫除去術（開頭して行うもの）（硬膜外のもの）	1
頭蓋内血腫除去術（開頭して行うもの）（硬膜下のもの）	1
慢性硬膜下血腫洗浄・除去術（穿頭による）	32
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	14
定位的脳内血腫除去術	2
頭蓋内腫瘍摘出術（その他のもの）	3
脳動静脈奇形摘出術（単純なもの）	1
水頭症手術（シャント手術）	2
髄液シャント抜去術	2
脳動脈瘤流入血管クリッピング（開頭して行うもの）（１箇所）	1
脳動脈瘤頸部クリッピング（１箇所）	13
脳動脈瘤頸部クリッピング（２箇所以上）	2
脳血管内手術（１箇所）	7
経皮的脳血栓回収術	5
脊髄ドレナージ術	3
重症痙性麻痺治療薬髄腔内持続注入用植込型ポンプ設置術	1
脊髄腫瘍摘出術（髄外のもの）	1
外耳道異物除去術（単純なもの）	1
気管切開術	2
動脈形成術、吻合術（頭蓋内動脈）	2
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（止血術）	1
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（その他のもの）	1
総計	119

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
995	1,049	1,337	1,259	1,187	1,173	1,330	1,119	1,301	1,171	1,051	1,221	14,193

整　形　外　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告

筑波総合クリニックの外来患者数は、2019年度と比較して大幅に減少した。

これまで同様に医師1人あたり6人/日の新患枠を設け、夜間・休日に救急外来を受診された患者、他院からの紹介患者、他科からのコンサルテーション患者に加えて、かかりつけで急性発症の患者は予約外でも受診できるように対応してきたが、COVID-19の影響で例年120人/日の平均外来患者数が95人/日となった。

手術に関しては、これまで通り筑波大学整形外科の三島准教授（股関節）・金森講師（膝関節）が週に2-3日非常勤医師として外来及び手術に来てくださり、関節を専門とする常勤医が勤務していたこともあり、人工関節全置換術（股関節及び膝関節）が284件/年（昨年度305件）、膝関節の鏡視下手術が72件/年（昨年度105件）と、COVID-19の影響を受けながらも県内トップレベルの手術件数を達成した。脊椎手術も、県内の他施設では行われていない脊椎矯正固定術等の長時間手術を継続した上で、手術件数が170件/年（昨年度178件）と微減に留まった。

2．2021 年度の課題・目標

基本的に保存的治療を選択し、入院が長期化する高齢者の脊椎椎体骨折・化膿性脊椎炎の患者数は相変わらず多い。2020年11月から2021年2月にかけて整形外科の入院患者が90人を越え、100人に迫る日もあった。当科の医師・病棟スタッフの時間外労働が大幅に増え、スタッフの家庭に負担をかける事態となった。

この件に関して、理事長・事務局長に相談させていただき、手術を必要としない患者の大半は伊佐地先生（リハビリ科）と木村先生（呼吸器外科）で診ていただける体制となり、非常に助かっている。

変異株等の影響で予測は難しいが、関節の手術は例年同様に県内トップレベルの件数を維持したい。脊椎に関しても脊椎矯正固定術等の長時間手術を継続した上で、同水準の手術件数を維持したいと考える。

筑波総合クリニックの外来においては、これまで同様にかかりつけ患者を大事にした上で、当院から2km圏内で転居されてきた若年・中年層が多い研究学園地区の住人が当院のかかりつけになってくださるような対応をとっていきたい。

［文責：相野谷武士］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
相野谷武士	副院長（業務改善管理統括）・整形外科診療部長	常(HP)
箱岩　篤生	整形外科診療科長	常(HP)
菅谷　　久		常(HP)
戸塚　　翔		常(HP)
清水　知明		常(HP)
渡邊竜之介		常(HP)
落合　　史		常(HP)
小方　陽介		常(HP)
中川　隆嶺		常(HP)
原　　友紀		非(HP)
新井　規仁		非(HP)

【手術件数】

分　　類	件　数
人工股関節置換術（人工骨頭挿入術）	284
四肢骨のその他の手術	191
脊椎（頚椎、胸椎、腰椎）手術	170
四肢骨折接合術	142
抜釘術等	87
関節鏡下半月板切除術	39
靱帯断裂形成手術	33
脱臼非観血的整復術	17
筋・健の手術	14
関節滑膜切除術	11
脊柱、骨盤のその他の手術	9
手・足のその他の手術	5
関節内骨折手術	4
関節のその他の手術	1
その他の手術	4
総計	1,011

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
07040x	股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含む。）	155	22.6
070230	膝関節症（変形性を含む。）	145	22.2
160620	肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む。）	88	10.4
160800	股関節・大腿近位の骨折	85	23.6
070343	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）　腰部骨盤、不安定椎	74	24.3
160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）	62	18.6
160700	鎖骨・肩甲骨の骨折	31	8.2
070341	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）　頸部	28	19.0
070350	椎間板変性、ヘルニア	23	16.6
160850	足関節・足部の骨折・脱臼	23	15.6

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,545	1,530	2,077	2,135	1,968	1,979	2,062	1,809	2,090	1,986	1,790	1,674	22,645

形　成　外　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①クリニック外来に関して

外来患者数は去年度と比較して、やや減少傾向であった。新型コロナウイルスの影響により4月～6月が例年と比較し減少した。

一方、皮膚科を中心としたクリニックの他にも近隣の大学病院、市中病院からも数多くの患者様をご紹介していただいている。治療に難渋している症例もご紹介していただいており、引き続き皆様からの信頼に応えられる診療を行っていきたいと考えている。

②手術に関して

総手術件数は前年比123%の増加となった。主には局所麻酔下での手術であり、クリニックのスタッフさんとの連携のもと1日に3件程度の件数をコンスタントに行うことができている。

2．2021 年度の課題・目標

- クリニックでの外来患者数を増加できるよう、紹介先への返書で次回の紹介につながるような文章を心がける。
- 手術件数については、引き続き増加していけるよう、手術適応症例には積極的に手術加療を行っていく。
- 形成外科コンサルテーションに速やかに対応できる体制を維持する。

［文責：野中榮仁］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
渡邊　浩志		常(HP)
内田　彰子		常(HP)
伊藤　謹民		非(HP)
畑　寿太郎		非(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
皮膚、皮下腫瘍摘出術	38
筋・腱の手術	15
創傷処理	14
皮膚切開術	8
四肢切断術・断端形成	7
植皮術	5
デブリドーマン	4
手・足のその他の手術	4
リンパ節摘出術	3
動脈弁・筋弁作成術	3
皮膚、皮下、粘膜下血管腫摘出術	2
皮弁作成術	2
総計	105

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
070010	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。）	29	3.4
180060	その他の新生物	9	3.4
080250	褥瘡潰瘍	7	89.6
080010	膿皮症	7	35.0
080007	皮膚の良性新生物	6	3.3
160200	顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む。）	5	3.4
070071	骨髄炎（上皮以外）	2	38.0
070520	リンパ節・リンパ管の疾患	2	5.5
130030	非ホジキンリンパ腫	2	3.0
020230	眼瞼下垂	2	2.0

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
158	211	268	281	364	339	305	266	299	294	306	205	3,296

婦　人　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告

外来受診者数・手術件数ともに前年度から 10% 減となった。外来受診者数がそのまま手術件数に反映するということがよく分かる結果となった。

まず昨年度末に発生した院内のコロナウイルス感染の影響で４月・５月は外来受診者も激減し、予定手術も中止延期となった。何とか持ち直したかというところで再度院内クラスター発生で、外来診療については通常診療を続行したので大きな影響はなかったものの、予定手術については中止延期とせざるを得なかった。

2．2021 年度の課題・目標

職員のワクチン接種が完了したことで第一段階、国民全体のワクチン接種が進むことが第二段階となって、少しずつ通常診療が取り戻せるものと思われるが、ひとたびクラスター発生があれば、診療科を問わず診療に大きな支障を来す現状はすぐには変わらないため、通常診療を継続するためにも感染対策を常に意識した診療を行いたいと考えている。

［文責：佐藤有希］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
佐藤　有希	婦人科診療部長	常(HP)
小關　　剛	理事長	常(HP)
秋山　　梓		非(HP)

【手術件数】

分　　類	件　数
子宮附属器腫瘍摘出術（両側）回復によるもの	27
子宮全摘術	23
子宮頚部（腟部）切除術	21
子宮脱手術　腟壁形成手術及び子宮全摘術（腟式、腹式）	2
子宮頚管ポリープ切除術	1
子宮内膜掻爬術	1
腟閉鎖術	1
その他の手術	1
総計	77

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
12002x	子宮頸・体部の悪性腫瘍	22	2.9
120070	卵巣の良性腫瘍	21	7.7
120060	子宮の良性腫瘍	14	7.2
120100	子宮内膜症	4	7.5
130090	貧血（その他）	4	4.5
120090	生殖器脱出症	3	8.0
120110	子宮・子宮附属器の炎症性疾患	3	9.0
110050	後腹膜疾患	2	5
120010	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍	2	13.5
060300	肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）	1	12

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
474	596	764	794	730	703	873	757	812	687	726	712	8,628

眼　　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①クリニック外来に関して

4月から電子カルテの導入に伴い患者情報が一元化され、眼科独自の検査結果も院内のカルテ端末からアクセスできるようになり非常に便利になった。

外来患者数は2020年3月下旬に発生したCOVID-19感染拡大に伴い、一時的にクリニックでの電話再診投薬を行った。また1回目の緊急事態宣言、受診控えなどもあり、外来患者数は4月、5月とも低迷した。5月末の緊急事態宣言全国解除を受けてようやく患者数が例年程度に回復したものの、再診間隔の延長などの希望も多く、全体としてやや低値で推移した。

受診控えに伴う重症化を避けるため、緑内障点眼など継続が必要な点眼や受診に対しては今まで以上に患者教育が大切であると考えており、診察時に丁寧な説明を心がけている。

小児眼科・斜視専門外来は月曜日の午後に初診の新患枠を設けており、引き続き森田医師が担当している。

今後も地域の先生方には患者のご紹介をいただきたいと考えている。

②手術に関して

関連学会から医療資源の枯渇の回避のため、待機手術は延期するなどの指針が出されたため、5月下旬までは予定していた手術を可能な限り延期した。手術再開当初は希望者も少なく、7月にようやく本格稼働となった。その後順調に手術を行っていたが、2021年2月のCOVID-19クラスター発生に伴い、3月の手術も延期となった。

小児、斜視の手術は引き続き森田医師の担当で行っている。

硝子体注射は感染予防の観点から手術室で施行している。

今後も手術件数を増やし、手術待機期間の短縮に努めたい。

2．2021 年度の課題・目標

臨床では、COVID-19 の感染予防策をおこないつつ、通常の診療を行っていく。時期を見て多焦点眼内レンズなど自由診療の導入を検討し、診療の幅を広げ、求められる医療に応じていきたい。

［文責：長井恭子］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
長井　恭子	眼科診療科長	常(HP)
萩原　希望		常(HP)
森田　由香		非(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
白内障手術	250
斜視手術	57
眼瞼下垂症手術	7
翼状片手術	2
眼瞼内反症手術	1
その他の手術	10
総計	327

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
020150	斜視（外傷性・癒着性を除く。）	41	2.0
020110	白内障、水晶体の疾患	16	4.1
020320	眼瞼、涙器、眼窩の疾患	3	2.0
020290	涙器の疾患	2	2.0
020210	網膜血管閉塞症	1	4.0
020230	眼瞼下垂	1	2
020370	視神経の疾患	1	17
020400	眼、付属器の障害	1	3

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
735	793	1,006	993	801	1,009	1,003	921	976	868	842	975	10,922

耳　鼻　咽　喉　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告

①病棟診療

2020年度の入院患者数（転科加療を含む）は126例、入院手術症例は53例であった。2019年度はそれぞれ233例、96例であったので入院患者数は45.9％減少、入院手術症例は44.8％減少である。入院数は当院の新型コロナウイルス感染症院内感染での入院休止やそれに伴う風評被害などが影響していると考えられる。入院手術件数はPPEの不足などから一時期手術自体を休止していたこと等が関与していると思われる。

これらの平均在院日数は5.9日であり、前年度の5.8日とほぼ同じで2年連続で5日台をキープすることができた。

②外来診療

筑波総合クリニック・筑波記念病院合わせての外来患者数は8,995例と前年度の13,128例と比して約31.5％の減少であった。

外来手術症例数は77例(前年度85例)であり9.4％の減少であった。

2020年度の紹介患者数は319例であり前年度の484例と比して減少していた。

新型コロナウイルス感染症の影響で全国的に耳鼻咽喉科・小児科などの患者数減少が報じられたが当科も同様の結果であり、まさにコロナ禍といった様相であった。

2．2021 年度の課題・目標

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、すべての実績が減少していた。この年報を執筆中の 2021 年 6 月現在、ワクチン接種が進んだアフターコロナの生活がまだ容易には想像できないが、患者さんの命から QOL まで守ることを使命とする当科の持ち味を活かした診療に戻れるように、安全に配慮した医療を提供していきたい。

［文責：及川慶子］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
及川　慶子	耳鼻咽喉科診療科長	常(HP)
中森　暁子		常(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	18
内視鏡下鼻中隔・鼻腔手術	11
口蓋扁桃手術	9
鼻腔粘膜焼灼術	4
リンパ節摘出術	3
その他の手術	12
総計	57

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
030400	前庭機能障害	31	5.4
030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	20	6.5
030428	突発性難聴	11	7.0
030390	顔面神経障害	10	6.8
030350	慢性副鼻腔炎	8	6.4
030425	聴覚の障害（その他）	8	7.5
03001x	頭頸部悪性腫瘍	5	24.6
030380	鼻出血	5	4.8
180035	その他の真菌感染症	5	6.6
030320	鼻中隔弯曲症	3	9

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
609	578	806	902	727	792	825	758	785	717	752	744	8,995

皮　膚　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

- 筑波総合クリニックにおいて、常勤医1名、非常勤医2名の体制で一般皮膚科診療、皮膚生検、手術、腋窩多汗症に対するボトックス注射など4,527件の外来診療をおこなった。
- 筑波記念病院内の美容皮膚科外来において、IPL光治療、表情筋へのボトックス注射などの施術を自由診療でおこなった。
- 褥瘡対策チームのメンバーとともに、病院全棟の入院患者の褥瘡リスク評価、予防および治療をおこなった。
- 入院患者および他科外来患者の皮膚トラブルについて、他科から約500件のコンサルテーションを受けた。

2．2021 年度の課題・目標

- 丁寧な診療で受診者の満足度の向上に努めると同時に、予約患者のみならず当日受付患者の外来診療待ち時間の短縮にも努める。
- 美容皮膚科外来に関する情報発信を再開して診療件数増加を図る。
- 褥瘡対策チームの活動を通して入院患者の褥瘡発症予防につとめ、最近数年間で改善した褥瘡発生率と有病率をさらに改善することを目指す。
- 皮膚科コンサルテーションに速やかに対応できる体制を維持する。

［文責：照沼　篤］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
照沼　篤	皮膚科診療部長	常(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
皮膚悪性腫瘍切除術	2
皮膚切開術	1
総計	3

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
275	315	401	438	453	440	422	389	438	377	330	249	4,527

小　児　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

2020 年度の状況について、以下に述べる。

日本医師会の発表した、全国の小児科の入院以外の外来数や在宅医療の総件数のデータによると、2021 年 1 月は前年同月比 38.5％の減となっている。この大幅な減少の理由として、コロナの感染を避けるための受診控えや、インフルエンザなどの他の感染症が例年に比べて極端に少なく、流行しなかったことが影響したと分析されている。当院の科別外来患者数を見ると、医師会の発表と同じ 2021 年 1 月のデータでは前年 915 に対して 456 であり前年比 50% の減となっており、全国の小児科における外来患者減少と同様、大きな減少となった。

そのような困難な状況下で、なんとか外来数を維持したのは、コロナ流行の影響を受けにくい、発達に困難を抱えている子どもたちの支援、外来小児リハの充実に努めてきたことが要因として挙げられる。当院では、宮本信也医師が担当する小児発達外来を中心に、発達に問題を抱えている子どもたちの診療、外来リハを行える体制があり、その充実ぶりについては、茨城県南、県西地区には、他に例を見ない。このため、筑波大学附属病院、県立医療大学や各保健所、保健センター、地域の開業医などからの紹介を数多く受けている。

実際の小児科への紹介患者受入数を見ると、2019 年度年間の合計 232 件であったのに対し、2020 年度の年間合計 233 件と、コロナ禍における一般外来受診数減少下においては、順調に紹介患者を受け入れてきたように思われる。小児入院ベッドを持たない中、この紹介患者受入数は近隣の医療施設から、一定の評価を受けていることが、示されているように思われる。

発達診療の他には、一般小児診療として、小児感染症、アレルギー疾患（気管支喘息など）小児神経疾患（てんかんなど）、予防接種専門外来などを継続して行っている。

2．2021 年度の課題・目標

コロナ蔓延の中で、減少した外来患者数の減少を、なんとか 2019 年のレベルに戻し、外来診療の実績数を増やし、医療内容の充実につなげたい。近隣医療施設とカンファレンスなどでの交流を深め、診療情報のやりとりを充実させて、当院の持っている医療内容の広報に努める。

［文責：右田琢生］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
右田　琢生	副院長（地域医療連携管理統括）・小児科診療部長	常(HP)
岩松　雅子	小児科診療医長	常(HP)

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
170	222	396	430	554	448	561	504	510	456	466	417	5,134

小　児　外　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

開設初年度は診療環境の整備が主たる活動であった。各部門で皆様のご協力により順調にすすめることができた。診察室は小児科ブースに確保していただき看護･事務部門の協力で検査、入院へのスムーズな対応が可能となった。当科では放射線部門の検査が特に重要で、今までは当院で行われていなかった検査も多くオーダー作成を含め放射線科の皆様に多大なご協力をいただいた。腎瘻造設術などを含め緊急検査に速やかに対応いただき感謝している。

入院は付き添いの問題など現在の状況では多くの困難があるが現場の看護・事務部門の方々に柔軟な対応をしていただいた。

手術関連では麻酔科・手術室スタッフの全面的協力をいただき患児の負担を軽減する対応が可能となった。手術道具も半年がかりだったが整備でき殆どの疾患に対応可能となった。診療環境の問題で筑波大学での手術とした症例もあったが連携にも問題なく筑波大学小児外科と当院で治療を完結させるという目標は達成できたと考えている。今年度筑波大学での手術数は術者・指導助手として 30 例であった。今後症例数は増加する見込み。その他東京女子医大、自治医科大学から手術指導要請を受け手術を行った。

2．2021 年度の課題・目標

外来診療は排尿障害への対応がメインとなった。現在と同様の対応を継続していく。

手術につきましては可能な限り当院で対応することを目標とする。術後 ICU 管理が必要な症例、幼小児で付き添いなど社会的要因から対応が困難な症例などについては筑波大学小児外科と連携して治療を行う。症例数の増加により大学での手術枠確保がやや困難となっていることから、場合により大学症例を引き受ける可能性も考慮している。前年度と同様に第 2，4，5 金曜日に加え要請がある場合には当院診療に支障がない範囲で大学での手術指導を継続する予定。

筑波大学以外の施設との交流も引き続き積極的に取り組みたいと思っている。

［文責：上岡克彦］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
上岡　克彦	小児外科診療部長	常(HP)

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
—	—	—	9	16	11	8	5	10	14	10	16	99

【手術件数（筑波記念病院）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
—	—	—	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2

【手術件数（筑波大学附属病院）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
—	—	—	2	4	1	2	2	5	5	2	7	30

精　神　科

【総括】

2020 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

精神科は、昨年度に大きな変化があり、2019 年 11 月より常勤医の沼倉医師の診察場所が、主に総合クリニックの外科系ブースに移り、他院からの紹介状のある新患のみ、病院外来棟で週 1 回の診察となっている。非常勤医師である山里医師と佐藤医師は、従来通り病院外来棟でそれぞれ、毎週木曜日と、月 1 ～ 2 回土曜日に精神科診療を行っている。

現在の診療体制は、常勤医の沼倉医師が、総合クリニックで、月曜～水曜、金曜・隔週土曜の午前中を再来患者担当、火曜・隔週水曜・金曜の午後に紹介状を持たない新患を、総合クリニックで診療している。毎週月曜午後は、上記のように紹介状を持参した新患を病院外来棟で診療している。非常勤医師の山里医師と佐藤医師の診療体制は上記の通りだが、佐藤医師は新患患者は診療していない。それぞれの医師同士の協力体制は余りない。

実績としては、病院の新患は 30 名、クリニックの新患は 75 名で、合計は 105 名と、昨年度とほぼ同数である。再来患者数は、病院外来分は、749 名、総合クリニック分は、2,403 名、合計 3,232 名と昨年度の 3,775 名より減少している。総合クリニック精神科の外来患者数には、物忘れ診療外来分も合算されており、実際の精神科外来の実数より大幅に増加になっている。他科からの依頼による精神科コンサルテーションの数は、42 件と昨年度の 46 件に比べ、やや減少している。コロナ禍によるものと思われる。

教育・研究では、本年度も臨床研修医の精神科研修を希望する者はいなかった。7 年前から継続していた精神科診断マニュアルである DSM-5 の輪読会は、コロナ禍のため中止のままである。学会発表、講演会はなし。

［文責：沼倉泰二］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
沼倉　泰二		常(HP)
佐藤　晋爾		非(HP)
山里　道彦		非(HP)

【外来患者数（筑波記念病院）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	1	1	3	2	4	4	4	2	2	1	4	2	30
再診	57	68	61	87	71	67	96	73	66	71	71	41	829
紹介	1	1	3	3	5	2	5	3	2	1	5	1	32

【外来患者数（筑波総合クリニック）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	5	7	6	14	2	11	10	10	9	9	8	3	94
再診	372	314	393	357	351	360	332	314	342	292	272	301	4,000
紹介	0	1	1	1	1	1	3	3	0	2	1	0	14

【精神科コンサルテーション（他科依頼）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2	2	6	4	4	2	7	3	3	4	4	1	42

麻　酔　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①2020年度は常勤医4名と、非常勤医1名と、筑波大学および他病院からの非常勤の協力も得ながら手術麻酔を行ってきた。24時間365日、緊急手術に対応できるよう毎日オンコール体制をとっている。

②入院診療

1）麻酔管理：麻酔科として心臓血管外科手術をはじめとしたすべての全身麻酔管理と、一部の局所麻酔管理を行っている。新型コロナ感染症の影響を受け、前年度より全手術件数は 292件減少し、全身麻酔件数では236件減少した。新型コロナ感染症の影響は4月から6月にかけて限定的であったが、他の月で年間件数を回復することはできなかった。

2）手術部運営：手術部全体の運営に関与し、すべての手術が効率的かつ安全に行われるよう努力している。

3）緩和ケアチーム：週1回の回診に、1名参加してきた。

4）術後鎮痛：硬膜外麻酔、末梢神経ブロック、自己調節鎮痛法などを用い、積極的に術後鎮痛を行ってきた。全身麻酔の危険性が高い患者では、末梢神経ブロックや脊髄くも膜下麻酔のみによる麻酔管理を行うこともある。

③外来診療

1）麻酔科術前外来：手術安全の向上を目的に、予定手術患者を対象に行っており、全身麻酔症例の41.0%であった（症例数は別項参照）。また高リスク患者のコンサルトも兼ねて行っている。

2）ペインクリニック外来：クリニックからの紹介患者および、入院中の患者と退院後の患者に対する、外来を病院総合外来に開設した。

④自己評価

手術部全体の運営に科全体として、個人として、貢献してきた。

麻酔科術前外来を行うことにより、安全で質の高い麻酔を提供することに貢献してきた。

緩和ケアチームの回診に参加し、診療の質の向上をめざした。

限定的ではあるが病院でペインクリニック外来を行っている。

2．2021 年度の課題・目標

①病院の電子カルテ化に伴い手術部全体の業務を見直すきっかけとなり、業務全般の安全性を向上させるように、人的および電子的にシステムを整備したい。

②常勤医師5名と非常勤医師1名の体制となり、1階で麻酔科外来を行うこととなっても、手術室全室の全身麻酔が可能である体制を構築する。更に安全な麻酔を心がけるとともに、引き続き24時間365日、緊急手術に対応できるよう体制を維持していく。

③合併症を持つ患者や高齢患者の増加により重症例が増加しているので、麻酔中だけでなく麻酔前後も含めた周術期の安全性を考慮し、さらに確実な麻酔管理を心がける。

④よりよい術後鎮痛を提供できるよう様々な方法をさらに追求していく。

⑤緩和ケアチーム内での麻酔科としての有効な参加方法を探る。

⑥外来診療では、麻酔科術前外来の周知を再度行い利用率の向上を図るとともに、各科の協力を得ながらさらに安全で効率の良い手術室運営を目指す。

⑦ペインクリニック外来の周知を図り、慢性疼痛に苦しむ患者の症状軽減に努める。

［文責：田島啓一］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
田島　啓一	副院長（手術部門管理統括）・麻酔科診療部長	常(HP)
髙瀬　　肇	麻酔科診療科長	常(HP)
富田　絵美	麻酔科医長	常(HP)
折居　美波		常(HP)
田地慶太郎		非(HP)
村田　雄哉		非(HP)
箱岩　沙織		非(HP)
大曽根順平		非(HP)
平本　芳行		非(HP)
我那覇　卓		非(HP)
横山　良太		非(HP)
泉　　直樹		非(HP)

【麻酔科外来件数】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26	37	61	59	55	51	59	61	57	55	77	13	611

【麻酔管理料件数】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
38	47	60	70	64	47	72	84	78	87	65	0	712

【麻酔手技内訳（ＯＲ分）】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全身麻酔	2019年度	156	138	139	159	158	131	140	127	175	153	125	126	1,727
	2020年度	79	109	127	153	136	131	149	162	162	147	136	0	1,491
腰椎麻酔	2019年度	4	2	1	1	1	2	2	1	1	0	1	1	17
	2020年度	1	1	3	4	0	1	0	0	4	3	1	0	18
その他	2019年度	37	71	64	43	44	58	46	42	35	43	29	48	560
	2020年度	20	28	48	53	44	57	64	54	49	42	44	0	503
計	2019年度	197	211	204	203	203	191	188	170	211	196	155	175	2,304
	2020年度	100	138	178	210	180	189	213	216	215	192	181	0	2,012

放　射　線　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

2020 年度は常勤の放射線診断専門医 3 名、非常勤診断専門医 1 名，非常勤専攻医 1 名の体制で CT、MR、核医学、単純写真の読影診断業務と超音波および IVR（画像下治療）を行った。年間の CT、MRI および核医学検査の検査総数は 13,662 件であった。血管内・外の IVR は 12 件、CT ガイド下生検 3 件が行われた。いずれも Covid19 感染の影響で前年よりも減少しているが、専門医による年間の読影率は 97.7 %，翌日までの読影レポート完成率は 97.1% と上昇し目標値を保つことができた。地域連携関連病院・医院の先生方からのご依頼による CT、MRI、超音波、核医学の検査数は、2019 年度 491 件、今年度は 395 件とこちらもかなり減少した。初期研修医 6 名がそれぞれ 1-2 か月間の研修を行った。画像診断の基本である単純写真の読影、救急診療で頻度の高い疾患の CT, MRI の読影を中心に，各研修医の進路の希望に基づいて，超音波検査や造影検査の研修などを加えたプログラムで行った。

2．2021 年度の課題・目標

連携室と協力し、地域連携関連病院・医院の先生方にオンラインを用いた検査予約システムの利用法、最新の検査法等に関する情報を再案内し、円滑な紹介検査の流れを整えて検査数の増加を目指す。2020 年に読影レポートの既読管理システムの使用が始まり、さらに医療放射線管理チーム、MRI 管理チームの立ち上げが行われたが、放射線部門の医療安全に関する評価の継続と見直し、職員への教育に関する企画を行う。部署内での技師の教育（マンモグラフィ認定技師，超音波検査士の育成等）を引き続き行う。

［文責：鯨岡結賀］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
鯨岡　結賀	副院長（病院機能改善管理統括・画像管理統括）・放射線科診療部長	常(HP)
髙橋　信幸	放射線科診療科長	常(HP)
岩田　　賢	放射線科診療医長	常(HP)
楊川　哲代		非(HP)
井上　　慶		非(HP)
望月　直人		非(HP)

【読影数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CT	591	728	951	913	935	944	1,067	1,002	1,085	933	730	281	10,160
MRI	164	218	300	298	256	295	365	312	321	307	254	153	3,243
RI	21	9	22	23	26	25	33	19	26	21	21	13	259
合計	776	955	1,273	1,234	1,217	1,264	1,465	1,333	1,432	1,261	1,005	447	13,662
IVR													12

血管内・外 IVR　12 件（うち時間外 1 件）

CT ガイド下生検　3 件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
専門医による読影率%	98.8	96.9	97.8	97.3	96.3	97.7	96.9	97	97.6	98.1	98.1	100	97.7
翌診療日までのレポート完成率%	98.3	96.6	97.3	97.2	95.6	97.5	96.4	96.4	96.7	97.9	97.4	99.8	97.1

【紹介検査数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019 年度	35	47	58	48	41	35	39	44	47	34	32	31	491
2020 年度	18	18	47	25	34	41	42	41	49	34	24	22	395

病　理　診　断　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

2019 年度は筑波記念病院・筑波総合クリニックを合わせて病理組織診 3,271 件、細胞診 11,143 件、術中迅速組織診 5 件、病理解剖 6 件を行った。

臨床病理検討会では前年度までの剖検例を含めて、以下の 2 例について検討を行った。

①多発性骨髄腫に続発するＡＬアミロイドーシスにより、心アミロイドーシス、腎アミロイドーシス、巨舌をきたした症例

高度の心アミロイドーシスから心不全をきたし、全身状態の低下していたところに肝障害が起きて死に至ったと考えられる。肝障害の原因の確定は難しいが、薬剤性肝障害が鑑別にあげられた。

②中皮腫様の増殖態度を伴った肺腺癌の症例

胸膜に沿った中皮腫様の増殖を伴う、低分化な肺腺癌が左胸腔に高度に増殖していた。生前には中皮腫か肺腺癌かの診断がつかず、解剖で腫瘍の全体を検索したことと、免疫染色の併用により診断に至った。

2．2021 年度の課題・目標

- 病理組織診、細胞診、術中迅速組織診、および病理解剖の各々について診断件数･精度の維持と効率化を行う。
- 臨床側とコミュニケーションをとり精度の高い病理診断を行う。
- 悪性の病理報告が見逃されないような確認、通知システムを作る。
- 分子生物学的検索に対応するため、組織固定や検体保存法に細心かつ最深の注意を払い、将来的な需要に備える。

［文責：大和万里子］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
臺　　勇一	病理科診療部長	常(HP)
大和万里子		常(HP)

【筑波記念病院】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
病理	177	171	251	277	279	260	269	261	279	240	220	24	2,708	225.6
迅速病理	0	0	1	0	0	0	1	2	1	0	0	0	5	0.4
剖検	0	0	0	0	1	1	2	0	0	2	0	0	6	0.5
細胞診	184	164	522	585	654	734	780	857	717	577	623	446	6,643	553.6

【筑波総合クリニック】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
病理	37	29	28	50	56	59	60	46	57	40	59	42	563	46.9
細胞診	201	327	447	390	361	376	449	366	452	357	372	402	4,500	375

【筑波記念病院・筑波総合クリニック】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
病理	214	200	279	327	335	319	329	307	336	280	279	66	3,271	272.6
迅速病理	0	0	1	0	0	0	1	2	1	0	0	0	5	0.4
剖検	0	0	0	0	1	1	2	0	0	2	0	0	6	0.5
細胞診	385	491	969	975	1,015	1,110	1,229	1,023	1,169	934	995	848	11,143	928.6

リハビリテーション科

【総括】

1．2020 年度の実績報告

2019 年度 1 月に始まったコロナ禍、初期につくば市で発生した小クラスターの患者が 3 月に当院を直撃し、4 月をピーク（表の濃淡）とする風評被害的影響を受けた。5 月連休明けから挽回し始め､6 月には平常状態に戻った。しかし年が明けた 2 月から 3 月（表の濃淡）に生じた比較的大きなクラスターは大過として当院を襲った。回復期も 3 月末までロックダウンとなり、一時的に大きな痛手を受けた。

①人事においては、常勤医は指導医 2 名にベテランの医師が 1 名加わり、帝京大学リハ科からのローテート専攻医が徳永貴久医師（年度初め 3 ヶ月）、渡邉智裕医師（年度中 6 ヶ月）、内田健太医師（年度終わり 3 ヶ月）と入れ替わりで勤務し、常時全 4 名に増えた。非常勤医師は 1 名入れ替わりがあったが、全 4 名を維持した。

②入院においては、回復期リハ病棟はコロナ禍でその時期は大きく患者数を減らしたが、それ以外では満床近くを維持した。患者の病棟間の移動をひかえる方針で直接入院が増えて、新入院患者数は著明に増加した。地域包括ケア病棟も秋頃からてこ入れに入り増加はしたが、コロナ禍で目標には及ばなかった。

③外来では、カウント方法の変更による増加はあったが、一般外来、専門外来ともコロナ禍時期以外は変わらず推移した。

④教育面では、コロナ禍で学生実習は中止が相次いだ。医師研修として、初期研修医 2 年目医師の選択科目研修も行ったが、制限下の内容に留まった。専門職教育として、リハ部の新卒専門職 39 人中希望者 20 人の臨床指導も行った。

⑤講座･研修会、社会活動はオンライン化、規模縮小などを余儀なくされ、研究面はすべての活動自粛で低迷した。

2．2021 年度の課題・目標

①回復期リハ病棟の稼働率100％のベッドコントロールを継続する。
②回復期リハ病棟での成果指標を継続する。
③地域包括ケア病棟の稼働率100％を目指す。
④訪問リハ、通所リハの質を維持する。
⑤専門外来の件数を維持・拡大する。
⑥新事業として再スタートする茨城県地域リハ支援体制の中核として参画する。
⑦上記の目玉として全国に先駆けて始まるリハビリテーション専門職の卒後研修制度を成功させるべく協力する。

［文責：伊佐地　隆］

【専門外来患者数（筑波記念病院）】

義肢装具・車いす外来

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2018	27	25	22	41	27	16	25	14	10	15	18	14	254
2019	26	27	23	31	20	33	18	27	24	17	14	13	273
2020	2	9	25	28	26	32	27	22	40	16	13	3	243

ボツリヌス治療外来

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2018	8	6	5	3	4	4	1	3	3	3	1	4	45
2019	5	2	2	6	1	3	3	4	3	6	6	4	45
2020	1	3	3	8	2	3	2	2	2	7	2	3	38

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
伊佐地　隆	リハビリテーション統括部長	常(HP)
安岡　利一	地域リハビリテーション部長	常(HP)
德永　貴久		常(HP)
渡邉　智裕		常(HP)
内田　健太		常(HP)
大黒　春夏		非(HP)
海老原一彰		非(HP)
渡慶次香代		非(HP)
和田　絢子		非(HP)

【回復期リハ病棟実績（1 病棟 52 床）】

		2018	2019	2020
入院患者数	人	308	307	277
1ヶ月あたり	人／月	25.7	26.5	23.1
退院患者数	人	324	285	278
1ヶ月あたり	人／月	27.0	23.8	23.2
病床稼働率	%	97.7	97.8	92.6
平均年齢	歳	73.3	74.6	73.4
疾患別患者数（%）	脳血管	40.9	35.9	33.0
	運動器	56.5	63.1	64.9
	廃　用	2.6	1.0	2.1
平均在院日数　日	全体	60.3	63.5	60.5
	脳血管	85.5	99.6	100.9
	（上限 180 日）	92.2	107.0	110.0
	（上限 150 日）	68.1	84.3	81.8
	運動器	42.8	42.8	39.6
	廃　用	51.7	73.7	70.2
リハ起算日から転入までの平均日数	日	25.4	29.6	26.5
看護必要度Ａ項目が１点以上の割合	%	15.5	13.0	3.6
重症患者割合	%	43.0	40.7	37.9
重症患者Ｂ項目４点以上の改善者割合	%	67.9	73.9	84.0
個別リハ提供単位数	単位／人／日	7.9	7.2	7.8
在宅復帰率	%	95.4	91.6	94.6
実績指数		56.8	50.9	52.3

【外来患者数（筑波記念病院）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018	83	88	96	104	105	86	87	92	69	92	100	92	1,094
2019	96	87	76	96	83	75	95	86	117	96	93	63	1,063
2020	475	589	883	923	939	1,072	1,041	993	1,017	1,005	939	512	10,388

【入院件数（筑波記念病院）】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新入院患者数	2018	0	1	2	2	2	3	4	3	4	4	1	2	28
	2019	1	5	4	5	1	4	2	4	3	3	4	2	38
	2020	6	14	12	7	3	6	9	13	8	9	5	0	92
入院延べ患者数	2018	553	668	634	611	667	751	814	698	885	873	721	836	8,711
	2019	878	898	788	700	746	781	882	755	735	636	613	662	9,074
	2020	619	813	1,139	1,180	994	875	969	885	1,010	1,048	918	802	11,252

【病床利用率（回復期リハ病棟 52 床）】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回復期リハ	2018	96.9%	101.1%	101.5%	101.1%	99.6%	97.7%	97.4%	100.8%	99.4%	99.3%	100.3%	99.8%	99.6%
	2019	99.8%	101.2%	100.7%	100.7%	99.5%	100.1%	99.9%	99.5%	100.4%	99.5%	100.1%	99.4%	100.1%
	2020	89.9%	80.5%	96.0%	99.8%	100.6%	100.3%	100.4%	98.8%	101.0%	100.6%	98.1%	62.6%	94.0%

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
地域包括ケア	2019	74.1%	75.6%	69.1%	71.0%	74.6%	80.3%	68.7%	64.1%	73.4%	83.3%	83.7%	71.0%	74.1%
	2020	50.5%	41.9%	56.9%	74.3%	71.2%	71.6%	69.0%	71.3%	77.2%	72.9%	85.1%	40.6%	65.2%

救　急　科

【総括】

1．2020 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

2020 年度は人材を新たに 3 名体制となり、救急車受け入れの増加が期待された。救急搬送患者以外にケアセンターで状態が悪化した患者の対応も行なった。また､昨年度と違い､救急科での入院受け入れも行なった。また、病院の入り口を預かる科として、発熱患者を受け入れに際し、ER や COVID BOX（新型コロナウイルス感染症疑いの診察場所）の感染対策運営を行なった。

集中治療科も立ち上げ、ICU の部屋の管理を行なった。重症患者のコンサルトも受け付けた。重症患者や重症術後患者は転科にて対応した。専門各科とともに診療する機会が増え、院内の救急・集中治療体制が充実した。

新型コロナウイルス感染症による社会の影響（コロナ禍）や当院における二度の新型コロナウイルスクラスター発生により、救急受け入れは困難を極めた。4 月と 3 月には救急車の受け入れは保健所の指導もあり、ほとんどできなかった。つくば市の救急車搬送台数も人口増加により年々増加傾向にあったが、2020 年度はコロナ禍による受診控えから約一割の減少となっている。その中で当院の受け入れは昨年度と変わらず、二割増と考えることができる。

教育では初期研修医、後期研修医を受け入れた。救急・集中治療診療の国際標準化を目標にした。田舎では研修医だけで診察させたり、指導が不十分な環境も多い中、常に救急科専門医と共に診療できる環境を構築し、しっかりとした指導のもと、救急患者、重症患者の診療に必要な基礎教育を行なった。

研究では日本の多施設研究を運営した。そのデータを用いて、20 本の英文雑誌に論文を発表した。量、質ともに日本の救急分野ではトップクラスの業績である。コロナ禍であり、多くの学会は中止、もしくはオンラインとなったため、学会発表は少なめであった。欧州集中治療学会にて演題を発表した。日本外傷学会の招待・指定演題で 1 演題発表した。

2．2021 年度の課題・目標

2021 年度は昨年までの救急科指導医（集中治療専門医）1 名、専門医 2 名に加え、救急科専門医 3 名（うち、2 名は集中治療専門医)、専攻医 1 名、救命救急士 1 名の 8 名体制となった。県内でもトップクラスの人材を要する科である。

下記を 2021 年度の具体的な目標とする。

- 救急車の受け入れ数の増加
- 感染症患者の院外からの受け入れと院内の感染コントロール
- 土日のカバーなど救急・集中治療医療の時間外格差の是正
- ICU を管理することによる病院全体の集中治療の質の向上
- 院外、病院前救急の充実
- 研修医教育の充実
- FD（Faculty Development）
- 救急集中治療のトップジャーナルへの研究論文の発表

［文責：阿部智一］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
阿部　智一	救急科診療部長	常（HP）
稲葉　健介		常（HP）
楢橋　和真		常（HP）

【ドクターヘリ現場救急】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
2020年度	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1

【ドクターヘリ転院搬送】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	1	5
2020年度	0	0	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	5

【防災ヘリ現場救急】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2020年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

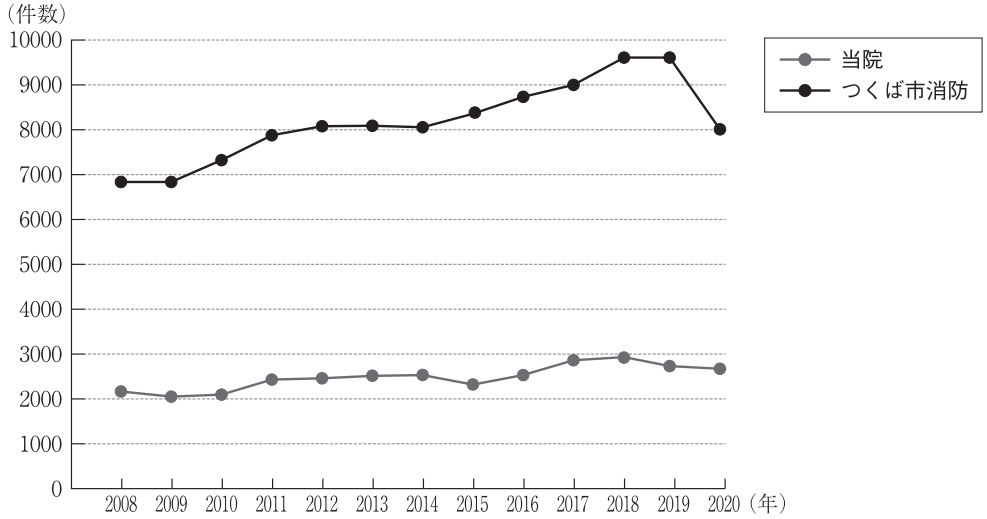
【防災ヘリ転院搬送】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2020年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【救急車搬送患者数】

	患者数（搬送台数）	症度別		診療科別			交通事故
		入院	外来	内科系	外科系	救急科	
2019年度合計	2,709名	1,343名	1,366名	1,320名	845名	540名	194名
	2,688台	50%	50%	49%	31%	20%	7%
2020年度合計	2,703名	1,365名	1,310名	1,130名	766名	779名	218名
	2,684台	51%	49%	42%	28%	29%	8%

当院及びつくば市消防の救急搬送件数の推移（過去13年）



リウマチ・アレルギー科

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
柏木平八郎	筑波記念会　顧問	非（HP）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
303	306	294	336	317	360	338	298	294	275	227	247	3,595

腎　臓　内　科

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
99	90	109	107	106	99	111	94	134	110	76	88	1,223

乳腺・甲状腺外科

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
市岡恵美香		非（HP）
岩淵　裕		非（HP）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
296	288	438	459	405	441	532	409	464	393	406	259	4,790

泌　尿　器　科

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
319	364	433	393	370	412	432	415	476	422	357	473	4,866

もの忘れ診療科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
吉井與志彦	もの忘れ診療センター長	常（HP）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
20	29	57	79	76	86	105	77	107	113	103	140	992

内　　科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
渋谷　泰弘		常（HP）
飯村　百萌		常（HP）
木村　弥生		常（HP）
髙橋　　華		常（HP）
荒井　静香		常（HP）
加藤　佑介		常（HP）
野本　　怜		常（HP）
長岡　広香		非（HP）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
149	140	254	223	290	241	194	213	221	211	214	198	2,548

筑波記念病院　臨床研修医

初期臨床研修医

年次	氏　名	管理病院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2	坂本　勇志	筑波記念病院	小児（東医茨城）	小児（筑大）	泌尿器（筑大）	形成（筑大）	精神（筑大）	形成	産婦（JAとりで）	救急（日医）	地域医療（つくば）	放射線	放射線	整形
2	佐浦　　勲	筑波記念病院	精神（筑大）	地域／救急	放射線	放射線	代内（東医茨城）	産婦（JAとりで）	リハビリ	地域／救急	救急	皮膚科（東医茨城）	代内	血内
2	根本佳那江	筑波記念病院	放射線	放射線	小児（東医茨城）	精神（筑大）	麻酔（筑大）	麻酔（筑大）	小児（東医茨城）	地域医療（小豆畑）	産婦（JAとりで）	心外	整形	形成
2	山﨑　幸紀	筑波記念病院	消外	地域医療（小豆畑）	脳外	産婦（JAとりで）	放射線	放射線	救急（日医）	整形	消外	心外	心外	心外
2	堀井　裕司	筑波記念病院	心外	産婦（JAとりで）		地域医療（小豆畑）	小児（筑大）		血内（筑大）	放射線	放射線	精神（筑大）	総診（筑大）	リハビリ
2	若林　宏樹	筑波記念病院	リハビリ	代内	精神（筑大）		総診（筑大）		地域医療（つくば）	産婦（JAとりで）	呼外	整形	小児（東医本院）	放射線
2	上原　　惇	筑波大学附属病院	血内	血内										
2	宝田亜矢子	筑波大学附属病院			血内	血内	脳外	脳外						
2	田島　聖也	筑波大学附属病院					消内	消内						
2	永井　志歩	筑波大学附属病院										代内	消内	消内
2	梅山　翔平	筑波大学附属病院								脳外	脳外			
2	杉谷　謙伍	筑波大学附属病院								整形	整形			
1	丸山　夏樹	筑波記念病院	心外	救急	救急	救急	循内	循内	消内	消内	麻酔	消外	産婦（JAとりで）	呼内
1	吉田エリン唯	筑波記念病院	消内	消内	救急	救急	救急	麻酔	麻酔	代内	循内	循内	呼内	消外
1	松本　佳奈	筑波記念病院	血内	脳外	心外	循内	循内	救急	救急	救急	産婦（水戸済生会）	消内	消内	麻酔
1	金澤　卓也	筑波記念病院	消内	消内	心外	血内	呼内	代内（日医）	救急	救急	救急（水戸済生会）	麻酔	循内	循内
1	日浦とき雄	筑波記念病院	救急	救急	循内	循内	消外	血内	脳外	消内	消内	小児（こども病院）	産婦（水戸済生会）	救急（水戸済生会）
1	谷中　夏海	筑波記念病院	呼外	消外	麻酔	呼内	消内	消内	循内	循内	救急	救急	救急（水戸済生会）	産婦（JAとりで）
1	西田　康孝	筑波記念病院	循内	循内	呼内	救急	救急	救急	心外	消内（日医）	循内（日医）	血内	麻酔	脳外
1	知覧　佑樹	筑波大学附属病院	循内	循内	消内	消内	血内	血内						
1	小林　崇久	筑波大学附属病院							代内	呼内	循内	循内	血内	血内

専攻医

年次	氏名	管理病院	所属	期間（2021 年 4 月時点）
5	黒田　　純	筑波記念病院	消化器外科	2019 年 4 月 1 日～在籍
5	落合　　史	筑波大学附属病院	整形外科	2019 年 10 月 1 日～ 2020 年 9 月 30 日
5	秋本　　雄	筑波大学附属病院	脳神経外科	2019 年 10 月 1 日～ 2020 年 9 月 30 日
5	中川　隆嶺	筑波大学附属病院	整形外科	2020 年 10 月 1 日～在籍
5	松本　龍門	筑波大学附属病院	心臓血管外科	2020 年 10 月 1 日～在籍
4	加藤　佑介	筑波記念病院	内科	2019 年 2 月 1 日～在籍
4	髙橋　　華	筑波大学附属病院	内科	2020 年 4 月 1 日～ 2020 年 9 月 30 日
4	坂本　百萌	筑波大学附属病院	内科	2020 年 4 月 1 日～在籍
4	渡邉　智裕	帝京大学附属病院	リハビリテーション科	2020 年 7 月 1 日～ 2020 年 12 月 31 日
3	渋谷　泰弘	筑波記念病院	内科	2019 年 12 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日
3	玉村　　淳	筑波記念病院	外科	2020 年 4 月 1 日～在籍
3	荒井　静香	筑波大学附属病院	内科	2020 年 10 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日
3	野本　　怜	筑波大学附属病院	内科	2020 年 4 月 1 日～在籍
3	塚田　篤志	筑波大学附属病院	脳神経外科	2020 年 10 月 1 日～在籍

業　績　集

【論　文】

消化器内科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
小林真理子、池澤和人、岩井健太郎、越智大介、大塚公一朗、添田敦子、杉山弘明	皮膚所見をともなわず診断に苦慮した多発無菌性皮下膿瘍合併潰瘍性大腸炎の１例	日本消化器病学会雑誌	118巻7号		in press

血液内科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
一色雄裕	外耳道顆粒球肉腫を契機に再発と診断された急性前骨髄球性白血病	臨床血液	2020;61	1590-1594	

呼吸器内科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Numata T, Endo T, Yanai H, Ota K, Yamamoto Y, Shimizu K, Yamada H, Hayashihara K, Okauchi S, Satoh H, Yamada Y, Tamura T, Saito K, Kikuchi N, Kurishima K, Ishikawa H, Watanabe H, Shiozawa T, Hizawa N, Funayama Y, Hayashi S, Nakamura H, Yamashita T.	Serum CEA and CYFRA Levels in ALK-rearranged NSCLC Patients: Correlation With Distant Metastasis.	In Vivo	34（4）	2,095-2,100	2020.7-8
Miyazaki K, Sato S, Kodama T, Numata T, Endo T, Yamamoto Y, Shimizu K, Yamada H, Hayashihara K, Okauchi S, Satoh H, Yamada Y, Tamura T, Saito K, Kikuchi N, Kurishima K, Ishikawa H, Watanabe H, Shiozawa T, Hizawa N, Funayama Y, Hayashi S, Nakamura H, Yamashita T.	Clinicopathological Features in Elderly ALK-rearranged Non-small Cell Lung Cancer Patients.	In Vivo	34（4）	2,001-2,007	2020.7-8

消化器外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Tsunehiko Maruyama, Akihiro Sako, Kazumitsu Ueda, Shuji Suzuki	A case of esophageal cancer complicated with methotrexate-related lymphoproliferative disorder.	Clinical J Gastroenterology	13	483–487	2020
Tsunehiko Maruyama, Mitsugi Shimoda, Hiroyuki Hakoda, Akihiro Sako, Kazumitsu Ueda, Shuji Suzuki	Preoperative prognostic nutritional index predicts risk of recurrence after curative resection for stage IIA colon cancer.	The American J Surgery	222	179-185	2020.1

Tsunehiko Maruyama, Mitsugi Shimoda, Akihiro Sako, Kazumitsu Ueda, Hiroyuki Hakoda, Akiko Sakata	Predictive effectiveness of the Glasgow prognostic score for gastrointestinal stromal tumor.	Nutrition and Cancer	Published online		2020.8
上田和光、下田　貢	Fitz-Hugh-Curtis 症候群の violin string-like adhesion を中心に捻転し絞扼された遊走胆嚢の１例	日本外科系連合学会誌	in press		2021.3

心臓血管外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Suematsu Y, Shimizu T	Clip-and-loop technique for left atrial appendage occlusion.	Asian Cardiovasc Thorac Ann.		onlineahead of print	2020 Aug
Suematsu Y, Nishi S, Arima D, Yoshimoto A	Zone 0 Thoracic Endovascular Repair After Aortic Wrapping for Acute Aortic Syndrome.	Innovations (Phila).	15（4）	386-388	2020 Jul/Aug
Suematsu Y.	Is An Off-Pump Wrapping Procedure for Stanford Type A Acute Aortic Dissection Low Invasive Surgery?	Ann Thorac Surg.	110（2）	750	2020 Aug
Suematsu Y, Nishi S, Arima D, Yoshimoto A.	Stepwise external wrapping procedure for Stanford type A aortic dissection in extremely high-risk patients: case reports.	J Cardiothorac Surg.	15（1）	138	2020 Jun 12
Suematsu Y, Inoue T, Nishi S, Kurahashi K, Arima D, Yoshimoto A.	Stepwise external wrapping procedure for type A intramural hematoma.	J Thorac Cardiovasc Surg.	S0022-5223（20）	32392-8	2020 Aug 28
Suematsu Y, Nishi S, Arima D, Yoshimoto A.	Hybrid Stepwise External Wraping for Type A　Acute Artic Dissection with Cerebral Malperfusion	Journal of cardiothoracic surgery	in press		
Yoshimoto A, Suematsu Y, Kurahashi K, Kaneko H, Arima D, Nishi S	Early and middle-term results and anticoagulation strategy after left atrial appendage exclusion using an epicardial clip device.	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery,	in press		
Satoshi Nishi, Kanan Kurahashi, Takaharu Shimizu, Daisuke Arima, Akihiro Yoshimoto, Yoshihiro Suematsu	A 103-year-old man with a ruptured abdominal aortic aneurysm	EJVES Vascular Forum 2020	47	00009-00011	2020
Satoshi Nishi, Daisuke Arima, Akihiro Yoshimoto, Yoshihiro Suematsu	A case of thoracic endovascular aortic repair for acute retrograde type A aortic dissection with paraplegia	JTCVS Techniques 2020		020-022	2020
Satoshi Nishi and Yoshihiro Suematsu	Single-stage total endovascular therapy for an aberrant right subclavian aneurysm	J Vasc Surg Cases and Innovative Techniques 2020	6	450-3	2020
Satoshi Nishi, Shogo Hayashi, Takuya Omotehara, Shinichi Kawata, Yoshihiro Suematsu and Masahiro Itoh	Pelvic collateral pathway during endovascular aortoiliac aneurysm repair with internal iliac artery interruption: a retrospective observational study	BMC Cardiovasc Disord 2020	20	480	2020
Arima D, Suematsu Y, Kurahashi K, Kaneko H, Nishi S, Yoshimoto A.	Total debranching thoracic endovascular aortic repair with elephant trunk insertion technique.	Journal of Vascular Surgery Cases and Innovative Techniques.	DOI: https://doi.org/10.1016/j.jvscit.2020.09.005		
田草川明子、寺田 綾、末松 義弘	心臓血管外科領域における持続的陽圧呼吸療法アドヒアランス不良例に対する側臥位睡眠療法の有用性の検討	日本 NP 学会	Vol.4 no.1	21-28	2020

脳神経外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Akimoto Y, Yanaka K, Onuma K, Nakamura K, Takahashi N, Ishikawa E	Spontaneous Disappearance of an Intracranial Small Unruptured Aneurysm on Magnetic Resonance Angiography: Report of Two Cases	Asian Journal of Neurosurgery	15（4）	1055-1058	2020.10
Onuma K, Yanaka K, Akimoto Y, Yamano A, Nakamura K, Ishikawa E	Microvascular Decompression for Oculomotor Nerve Palsy due to Nonaneurysmal Vascular Compression	World Neurosurgery	145	102-106	2021.1
小沼邦之、山野晃生、中村和弘、谷中清之	動眼神経麻痺を呈した後交通動脈漏斗状拡大の1例	茨城県臨床医学雑誌	56 号	88	2021.2
高田麻耶、中村和弘、佐藤允之、松丸祐司、石川栄一	血管内塞栓術で治療した中大脳動脈末梢の感染性脳動脈瘤	脳神経内科	94 巻 4 号	578-580	2021.4

リハビリテーション科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
伊佐地隆、森純子、山口普己、佐藤直子	回リハ病棟で目指す“３早”－早く受け入れ、早くよくして、早く地域へ Part 2　当院での取り組みと課題	回復期リハビリテーション	19(4)	23-26	2021.1

救急科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Daisuke Kudo, Tadahiro Goto, Ryo Uchimido, Mineji Hayakawa, Kazuma Yamakawa, Toshikazu Abe, Atsushi Shiraishi, Shigeki Kushimoto	Coagulation phenotypes in sepsis and effects of recombinant human thrombomodulin: an analysis of three multicentre observational studies.	Critical care	25（1）	114	2021.3
Toshikazu Abe	Timing of quarantine discontinuation of a COVID-19 long-hauler.	QJM : monthly journal of the Association of Physicians	Online ahead of print		
Akira Komori, Hiroki Iriyama, Makoto Aoki, Gautam A Deshpande, Daizoh Saitoh, Toshio Naito, Toshikazu Abe	Assessment of blood consumption score for pediatrics predicts transfusion requirements for children with trauma.	Medicine	100（9）	e25014	2021.3
Atsushi Shiraishi, Satoshi Gando, Toshikazu Abe, Shigeki Kushimoto, Toshihiko Mayumi, Seitaro Fujishima, Akiyoshi Hagiwara, Yasukazu Shiino, Shin-Ichiro Shiraishi, Toru Hifumi, Yasuhiro Otomo, Kohji Okamoto, Junichi Sasaki, Kiyotsugu Takuma, Kazuma Yamakawa, Yoshihiro Hanaki, Masahiro Harada, Kazuma Morino	Quick sequential organ failure assessment versus systemic inflammatory response syndrome criteria for emergency department patients with suspected infection.	Scientific reports	11（1）	5347	2021.3
Toshikazu Abe, Yasuharu Tokuda, Hiroki Iriyama, Masao Iwagami, Akira Komori, Takehiro Sugiyama, Nanako Tamiya	Surgical mask use by healthcare personnel to prevent COVID-19 spread in a long-term care facility.	Journal of general and family medicine	22（2）		

Akiyoshi Hagiwara, Noriko Tanaka, Yosuke Inaba, Satoshi Gando, Atsushi Shiraishi, Daizoh Saitoh, Yasuhiro Otomo, Hiroto Ikeda, Hiroshi Ogura, Shigeki Kushimoto, Joji Kotani, Yuichiro Sakamoto, Yasukazu Shiino, Shin-Ichiro Shiraishi, Kiyotsugu Takuma, Takehiko Tarui, Ryosuke Tsuruta, Taka-Aki Nakada, Toru Hifumi, Kazuma Yamakawa, Naoshi Takeyama, Norio Yamashita, Toshikazu Abe, Masashi Ueyama, Kohji Okamoto, Junichi Sasaki, Tomohiko Masuno, Toshihiko Mayumi, Seitaro Fujishima, Yutaka Umemura, Satoshi Fujimi	Predictors of severe sepsis-related in-hospital mortality based on a multicenter cohort study: The Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis, and Trauma study.	Medicine	100（(8）
Yutaka Umemura, Hiroshi Ogura, Kiyotsugu Takuma, Seitato Fujishima, Toshikazu Abe, Shigeki Kushimoto, Toru Hifumi, Akiyoshi Hagiwara, Atsushi Shiraishi, Yasuhiro Otomo, Daizoh Saitoh, Toshihiko Mayumi, Kazuma Yamakawa, Yasukazu Shiino, Taka-Aki Nakada, Takehiko Tarui, Kohji Okamoto, Joji Kotani, Yuichiro Sakamoto, Junichi Sasaki, Shin-Ichiro Shiraishi, Ryosuke Tsuruta, Tomohiko Masuno, Naoshi Takeyama, Norio Yamashita, Hiroto Ikeda, Masashi Ueyama, Satoshi Gando	Current spectrum of causative pathogens in sepsis: A prospective nationwide cohort study in Japan.	International journal of infectious diseases : IJID : official publication of the International Society for Infectious Diseases	103

Takehiko Oami, Satoshi Karasawa, Tadanaga Shimada, Taka-Aki Nakada, Toshikazu Abe, Hiroshi Ogura, Atsushi Shiraishi, Shigeki Kushimoto, Daizoh Saitoh, Seitaro Fujishima, Toshihiko Mayumi, Yasukazu Shiino, Takehiko Tarui, Toru Hifumi, Yasuhiro Otomo, Kohji Okamoto, Yutaka Umemura, Joji Kotani, Yuichiro Sakamoto, Junichi Sasaki, Shin-Ichiro Shiraishi, Kiyotsugu Takuma, Ryosuke Tsuruta, Akiyoshi Hagiwara, Kazuma Yamakawa, Tomohiko Masuno, Naoshi Takeyama, Norio Yamashita, Hiroto Ikeda, Masashi Ueyama, Satoshi Fujimi, Satoshi Gando	Association between low body mass index and increased 28-day mortality of severe sepsis in Japanese cohorts.	Scientific reports	11 (1)
Hidekazu Nakata, Kazuma Yamakawa, Daijiro Kabata, Yutaka Umemura, Hiroshi Ogura, Satoshi Gando, Ayumi Shintani, Atsushi Shiraishi, Daizoh Saitoh, Seitaro Fujishima, Toshihiko Mayumi, Shigeki Kushimoto, Toshikazu Abe, Yasukazu Shiino, Taka-Aki Nakada, Takehiko Tarui, Toru Hifumi, Yasuhiro Otomo, Kohji Okamoto, Joji Kotani, Yuichiro Sakamoto, Junichi Sasaki, Shin-Ichiro Shiraishi, Kiyotsugu Takuma, Ryosuke Tsuruta, Akiyoshi Hagiwara, Tomohiko Masuno, Naoshi Takeyama, Norio Yamashita, Hiroto Ikeda, Masashi Ueyama, Satoshi Fujimi	Identifying Septic Shock Populations Benefitting From Polymyxin B Hemoperfusion: A Prospective Cohort Study Incorporating a Restricted Cubic Spline Regression Model.	Shock	54 (5)
Toshikazu Abe, Terumasa Ikeda, Yasuharu Tokuda, Jumpei Ito, Yutaka Suzuki, Chisato Narahara, Hiroki Iriyama, Kei Sato	A patient infected with SARS-CoV-2 over 100 days.	QJM : monthly journal of the Association of Physicians	114 (1)
Takako Kainoh, Hiroki Iriyama, Akira Komori, Daizoh Saitoh, Toshio Naito, Toshikazu Abe	Risk factors of fat embolism syndrome after trauma: a nested case-control study using a nationwide trauma registry in Japan.	Chest	159 (3)
Makoto Aoki, Toshikazu Abe, Shuichi Hagiwara, Daizoh Saitoh, Kiyohiro Oshima	Isolated high-grade splenic injury among pediatric patients in Japan: Nationwide descriptive study.	Journal of pediatric surgery	56 (5)

Satoshi Gando, Seitaro Fujishima, Daizoh Saitoh, Atsushi Shiraishi, Kazuma Yamakawa, Shigeki Kushimoto, Hiroshi Ogura, Toshikazu Abe, Toshihiko Mayumi, Junichi Sasaki, Joji Kotani, Naoshi Takeyama, Ryosuke Tsuruta, Kiyotsugu Takuma, Norio Yamashita, Shin-Ichiro Shiraishi, Hiroto Ikeda, Yasukazu Shiino, Takehiko Tarui, Taka-Aki Nakada, Toru Hifumi, Yasuhiro Otomo, Kohji Okamoto, Yuichiro Sakamoto, Akiyoshi Hagiwara, Tomohiko Masuno, Masashi Ueyama, Satoshi Fujimi, Yutaka Umemura	The significance of disseminated intravascular coagulation on multiple organ dysfunction during the early stage of acute respiratory distress syndrome.	Thrombosis research	191
Makoto Aoki, Toshikazu Abe, Shuichi Hagiwara, Daizoh Saitoh, Kiyohiro Oshima	Resuscitative endovascular balloon occlusion of the aorta may contribute to improved survival.	Scandinavian journal of trauma, resuscitation and emergency medicine	28 (1)
Takashi Shimazui, Taka-Aki Nakada, Keith R Walley, Taku Oshima, Toshikazu Abe, Hiroshi Ogura, Atsushi Shiraishi, Shigeki Kushimoto, Daizoh Saitoh, Seitaro Fujishima, Toshihiko Mayumi, Yasukazu Shiino, Takehiko Tarui, Toru Hifumi, Yasuhiro Otomo, Kohji Okamoto, Yutaka Umemura, Joji Kotani, Yuichiro Sakamoto, Junichi Sasaki, Shin-Ichiro Shiraishi, Kiyotsugu Takuma, Ryosuke Tsuruta, Akiyoshi Hagiwara, Kazuma Yamakawa, Tomohiko Masuno, Naoshi Takeyama, Norio Yamashita, Hiroto Ikeda, Masashi Ueyama, Satoshi Fujimi, Satoshi Gando	Significance of body temperature in elderly patients with sepsis.	Critical care	24 (1)
Kazuhiro Kamata, Toshikazu Abe, Makoto Aoki, Gautam Deshpande, Daizoh Saitoh, Yasuharu Tokuda	Dynamic vital signs may predict in-hospital mortality in elderly trauma patients.	Medicine	99 (25)
Satoshi Gando, Atsushi Shiraishi, Takeshi Wada, Kazuma Yamakawa, Seitaro Fujishima, Daizoh Saitoh, Shigeki Kushimoto, Hiroshi Ogura, Toshikazu Abe, Yasuhiro Otomo	The SIRS criteria have better performance for predicting infection than qSOFA scores in the emergency department.	Scientific reports	10 (1)

Seitaro Fujishima, Satoshi Gando, Daizoh Saitoh, Shigeki Kushimoto, Hiroshi Ogura, Toshikazu Abe, Atsushi Shiraishi, Toshihiko Mayumi, Junichi Sasaki, Joji Kotani, Naoshi Takeyama, Ryosuke Tsuruta, Kiyotsugu Takuma, Norio Yamashita, Shin-Ichiro Shiraishi, Hiroto Ikeda, Yasukazu Shiino, Takehiko Tarui, Taka-Aki Nakada, Toru Hifumi, Yasuhiro Otomo, Kohji Okamoto, Yuichiro Sakamoto, Akiyoshi Hagiwara, Tomohiko Masuno, Masashi Ueyama, Satoshi Fujimi, Kazuma Yamakawa, Yutaka Umemura	Demographics, Treatments, and Outcomes of Acute Respiratory Distress Syndrome: the Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis, and Trauma (FORECAST) Study.	Shock	53（5）
Shigeki Kushimoto, Satoshi Gando, Hiroshi Ogura, Yutaka Umemura, Daizoh Saitoh, Toshihiko Mayumi, Seitaro Fujishima, Toshikazu Abe, Atsushi Shiraishi, Hiroto Ikeda, Joji Kotani, Yasuo Miki, Shin-Ichiro Shiraishi, Koichiro Suzuki, Yasushi Suzuki, Naoshi Takeyama, Kiyotsugu Takuma, Ryosuke Tsuruta, Yoshihiro Yamaguchi, Norio Yamashita, Naoki Aikawa	Complementary Role of Hypothermia Identification to the Quick Sequential Organ Failure Assessment Score in Predicting Patients With Sepsis at High Risk of Mortality: A Retrospective Analysis From a Multicenter, Observational Study.	Journal of intensive care medicine	35（5）
Makoto Aoki, Toshikazu Abe, Kiyohiro Oshima	Problems With Clinical Application of Low-Dose Vasopressin for Traumatic Hemorrhagic Shock.	JAMA surgery	155（4）

【書　籍】

心臓血管外科

著　　者	書　籍　名	出版社	発行年月
末松義弘	「3千万人超の日本人が睡眠時無呼吸症候群、放置していると…」 その睡眠が危ない！命を守るための生活習慣【第1回】	幻冬舎 Gold Online	2020.1.28
末松義弘	週刊現代「いびきが寿命を縮める」	講談社	2020.3.7 号
末松義弘	週刊ダイヤモンド「体と心に効く！コーヒーの正しい飲み方」	ダイヤモンド社	2020.7.4 号
末松義弘	IT 経済「寝る前に「カフェイン」を…医師が教える「上手な昼寝」の方法」	https://news.livedoor.com/article/detail/18081279/	2020
末松義弘	「心臓外科医が語る循環器疾患と睡眠時無呼吸症候群の恐ろしい関係」	MRIC by 医療ガバナンス学会発行 http://medg.jp	2020

小児外科

著　　者	書　籍　名	出版社	発行年月
上岡克彦	Urologic Surgery Next No.7 小児泌尿器科手術	メジカルビュー社	2020.10.1

放射線科

著　　者	書　籍　名	出版社	発行年月
鯨岡結賀	乳房超音波入門　動画で学ぶ厳選 100 症例	日本医事新報社	2020.2
高橋信幸	INNERVISION(35.3)	インナービジョン	2020.3

【学会・講演・セミナー等】

消化器内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
佐浦勲、添田敦子、大塚公一朗、根本佳那江、岩井健太郎、小林真理子、越智大介、池澤和人	腹部造影 CT により Fitz-Hugh-Curtis 症候群の診断に至った一例	第 355 回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2020.4
金澤卓也、添田敦子、大塚公一朗、渋谷泰弘、岩井健太郎、小林真理子、越智大介、池澤和人	当院で経験した膵十二指腸動脈瘤破裂の 3 例	第 663 回日本内科学会関東地方会	東京	2020.10
池澤和人、飯村もと子、長澤俊郎、小關剛、丸山常彦	脳梗塞患者における円滑な退院支援のための有効な DPC データの抽出とその検証	第 22 回日本医療マネジメント学会学術集会	京都	2020.10
小林真理子、岩井健太郎、越智大介、大塚公一朗、添田敦子、池澤和人	肝不全用アミノ酸製剤の治療効果は 3 ヶ月後の血清アルブミン変動値で予測可能である	第 62 回日本消化器病学会大会（JDDW2020）	神戸	2020.11
添田敦子、小林真理子、岩井健太郎、越智大介、大塚公一朗、池澤和人	Attenuation Imaging および Shear Wave Elastography/Dispersion と B モード所見・臨床診断との対比	第 24 回日本肝臓学会大会（JDDW2020）	神戸	2020.11
池澤和人、廣瀬充明、鈴木英雄、丸山常彦、湯地晃一郎、松本莉佳、川嶋慎也、矢部義人、金森毅繁、貝出直大、土屋祐介、原聖吾	脳梗塞患者における入院 3 日以内の早期栄養開始が退院後転帰に及ぼす影響（全国 DPC データを利活用した傾向スコアマッチングによる効果検証）	第 40 回日本医療情報学会	浜松	2020.11
大塚公一朗、添田敦子、野本怜、谷中夏海、田島聖也、岩井健太郎、小林真理子、越智大介、池澤和人、中原朗、末松義弘	抗てんかん薬により誘発された DIHS（drug induced hypersensitivity syndrome：薬剤誘発性過敏症症候群）の 1 例	第 362 回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2020.12

血液内科

発　表　者	演　題　名	学会名	開催地	開催年月
知覧佑樹	Kytococcus sedentarius による遅発性 Ommya reservor 感染の 1 例	第 662 回　日本内科学会関東地方会	WEB 開催	2020.9

呼吸器内科

発　表　者	演　題　名	学会名	開催地	開催年月
中澤 健介、會田 有香、渡辺裕子、塩澤 利博、佐藤 浩昭、関根 郁夫、檜澤 伸之	気管支肺胞洗浄液（BALF）で好酸球性肺炎パターンを示す osimertinib による薬剤性肺障害について	第 61 回日本肺癌学会総会	岡山	2020.11

呼吸器外科

発　表　者	演　題　名	学会名	開催地	開催年月
木村正樹、吉田進	一時留置型下大静脈フィルター留置下に手術を行った深部静脈血栓症合併肺癌の１例	第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会	WEB 開催	2020.9.29-10.12
神山幸一、木村正樹、吉田　進	心タンポナーデを併発した心膜憩室の1手術例	同上	同上	同上

消化器外科

発　表　者	演　題　名	学会名	開催地	開催年月
上田和光、玉村　淳、黒田　純、永井　健、岩崎喜実	絞扼性胆嚢炎の１例	第 82 回日本臨床外科学会	大阪	2020.10

心臓血管外科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
末松義弘、倉橋果南、田草川明子、寺田綾、西智史、有馬大輔、吉本明浩	急性大動脈解離と閉塞性睡眠時無呼吸症候群の罹患率の検討連続 106 例の治験例より	第 20 回日本抗加齢医学会総会	Web 開催	2020.9.25-27
末松義弘、倉橋果南、西智史、有馬大輔、吉本明浩	Impact of Obstructive Sleep Apnea on Onset of Acute Aortic Dissection	第 48 回日本血管外科学会学術総会	Web 開催	2020.11.27 ～ 29
和田英明、鎗田真弓、桑原允子、迫田昭子、大倉麻美、末松義弘	高度貧血を伴う胃がんに合併した VTE 治療中に脳梗塞を併発した一例	第 61 回日本脈管学会	Web 開催	2020.10.1
吉本明浩、倉橋果南、田草川明子、西智史、有馬大輔、末松義弘	当院における左心耳マネジメントの実際：102 例の使用経験から	第 50 回日本心臓血管外科学会	WEB 開催	2020.8.1
西　智史、倉橋果南、金子寛行、有馬大輔、吉本明浩、末松義弘	真性瘤に対する TEVAR 後３年で急性大動脈解離 Stanford A 型を発症した１例	第 183 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	Web 開催	2020.7.16-8.7
西　智史、倉橋果南、清水隆玄、有馬大輔、吉本明浩、末松義弘	両側内腸骨動脈瘤に対し片側上臀動脈をステントグラフトで温存した１例	第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会	Web 開催	2020.8.17-8.31
Satoshi Nishi	Homemade iliac branch endoprosthesis for the treatment of internal iliac artery	The European Society for Vascular Surgery 34th Annual Meeting	Web 開催	2020.9.29-10.22
西　智史、倉橋果南、田草川明子、金子寛行、有馬大輔、吉本明浩、末松義弘	鎖骨を固定していたスクリューにより 13 年後鎖骨下動脈仮性瘤および重症上肢虚血をきたした１例	第 61 回日本脈管学会総会	Web 開催	2020.10.13-11.13
西　智史、倉橋果南、有馬大輔、吉本明浩、末松義弘	遺残坐骨動脈閉塞に伴う重症下肢虚血に対して血行再建を施行した１例	第 48 回日本血管外科学会学術総会	Web 開催	2020.11.27-12.27
有馬大輔、倉橋果南、西　智史、吉本明浩、末松義弘	Diagnostic and early prognostic prediction with coagulation-fibrinolytic markers in acute aortic dissection.	28th ASCVTS	Chang Mai	2020.2.7
有馬大輔、倉橋果南、西　智史、吉本明浩、末松義弘	OSA 合併の重症大動脈弁閉鎖不全症の術前管理	182 回胸部外科関東地方会	誌上	2020.3
有馬大輔、倉橋果南、西　智史、吉本明浩、末松義弘	胸部下行大動脈瘤に対する TEVAR 後２年目に突然破裂を来した１例	183 回胸部外科関東地方会	Web 開催	2020.7
有馬大輔、倉橋果南、西　智史、吉本明浩、末松義弘	凝固線溶系マーカーによる急性大動脈解離の診断と早期予後予測	50 回日本心臓血管外科学会	Web 開催	2020.8
有馬大輔、倉橋果南、西　智史、吉本明浩、末松義弘	Diagnostic and early prognosis prediction with coagulative and fibrinolytic markers in cases of acute aortic dissection	84 回循環器学会	Web 開催	2020.8
有馬大輔、倉橋果南、西　智史、吉本明浩、末松義弘	Surgeon-made fenestrated stent graft が奏功した超高齢者の感染性腹部大動脈瘤	61 回脈管学会	Web 開催	2020.1

倉橋果南　末松義弘	孤発性腹部内臓動脈解離に対する当院での治療方針と SAS との関連性	第 34 回心臓血管外科ウィンターセミナー	雫石プリンスホテル（岩手県岩手郡雫石町高倉温泉）	2020.2.
倉橋果南　末松義弘	発作性心房細動、左心耳内血栓症に対し左心耳閉鎖術および肺静脈隔離術を施行した 1 例	第 183 回胸部外科関東甲信越地方会	Web 開催	2020.7
Takusagawa Ako, Terada Aya, Kurahashi Kanan, Kaneko Hiroyuki, Arima isuke,Nishi Satoshi, shimoto Akihiro, uematsu Yoshihiro	Impact of the introduction of cardiovascular surgery NPs in our hospital on outcomes	第 6 回日本 NP 学会（AANPNational conference 合同企画 EnglishSession）	Web 開催	2020.10
山﨑　幸紀、清水　隆玄、田草川　明子、倉橋　果南、有馬　大輔、西　智史、吉本明浩、末松　義弘	循環器疾患に合併する睡眠時無呼吸症候群に対する側臥位睡眠療法の有効性の検討：第 2 報	第 34 回心臓血管外科ウィンターセミナー学術集会	雫石プリンスホテル（岩手県岩手郡雫石町高倉温泉）	2020.2.
山崎幸紀、吉本明浩、倉橋果南、清水隆玄、有馬大輔、西智史、末松義弘	CryoMaze 術後に左房内血栓を認めた 2 症例	第 182 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	紙上開催	2020.3.
山崎　幸紀，吉本　明浩，田草川　明子，倉橋　果南，金子　寛行，有馬　大輔，西智史，末松　義弘	CryoMaze 術後に左房内血栓を認めた 2 症例	第 73 回日本胸部外科学会　定期学術集会（JATS Case Presentation Awards）	名古屋国際会議場 + Web 開催	2020.10
清水隆玄　田草川明子　倉橋果南、有馬大輔　西智史　吉本明浩、末松義弘	当科におけるナースプラクティショナー導入から 1 年が経って	第 182 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	紙上開催	2020.3
Takaharu Shimizu Yoshihiro Suematsu Kanan Kurahashi Daisuke Arima Satoshi Nishi Akihiro Yoshimoto	The Relationship between Left Atrial Appendage Blood Flow Velocity,Filling Defects and the Risk of Stroke	28th ASCVTS	Chang Mai	2020.2.7
清水隆玄　末松義弘　倉橋果南、有馬大輔　西智史　吉本明浩	睡眠時無呼吸症候群と心房細動と抗凝固療法 - 出血性合併症の検討 -	50 回日本心臓血管外科学会	Web 開催	2020.8
末松義弘	外科的左心耳マネジメントの最前線	アボット主催循環器講演	つくば	2020.10
末松義弘	急性大動脈解離に対する最新知見	テルモ主催心臓血管セミナー	Web 開催	2020.10
末松義弘	急性大動脈解離に対する最新知見	アステック主催心臓血管セミナー	Web 開催	2020.9
末松義弘	睡眠時無呼吸症候群と心臓大血管疾患の関連性に関する最新データー	エチコン主催心臓血管セミナー	Web 開催	2020.10
末松義弘	睡眠時無呼吸症候群の基礎知識	日本快眠協会ウェブセミナー	Web 開催	2020.10
末松義弘	外科的左心耳マネジメントの最前線	トーアエイヨー主催循環器講演	つくば	2020.9
	睡眠時無呼吸症候群と心臓大血管疾患の関連性	古河市医師会		2020.1
末松義弘	座長	第 3 回日本左心耳クラブ研究会	Web 開催	2020.11
末松義弘	睡眠時無呼吸症候群と心臓大血管疾患の関連性に関する最新データー	フィリップス主催心臓血管セミナー	Web 開催	2020.8
末松義弘	急性大動脈解離に対する最新知見	ライフライン主催心臓血管セミナー	Web 開催	2020.7
末松義弘	睡眠時無呼吸症候群と心臓大血管疾患の関連性	古河市医師会		2020.2
末松義弘	外科的左心耳マネジメントの最前線	つくば市医師会		2020.12
末松義弘	睡眠時無呼吸症候群と心臓大血管疾患の関連性	ニューハートワタナベ国際病院心臓カンファレンス		2020.12

西智史	対麻痺を合併した逆行性 A 型解離に対し TEVAR を施行した 1 例	The 1st Z-Conference on the Web		2020.10
西智史	RELAY Plus の使用経験	テルモ株式会社　社内講演		2020.12
田草川明子	『脳卒中』フィジカルアセスメント	第 4 回茨城クリティカルケアネットワークセミナー	筑波大学附属病院	2020.9

脳神経外科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
秋本雄、谷中清之、小沼邦之、中村和弘	経過観察中に自然消失した未破裂脳動脈瘤の 2 例	第 141 回日本脳神経外科学会関東支部学術集会	東京	2020.6
山野晃生、中村和弘、渡部大輔、小沼邦之、佐藤允之、松丸祐司、谷中清之、石川栄一、松村明	Pial artery supply を伴った前頭蓋窩硬膜動静脈瘻の 1 例	第 49 回日本脳卒中の外科学会学術集会（STROKE2020）	横浜（web）	2020.8
中村和弘、清水隆玄、秋本雄、小沼邦之、末松義弘、谷中清之	心原性脳塞栓症に対する胸腔鏡下左心耳切除術の適応と有効性	第 45 回日本脳卒中学会学術集会（STROKE2020）	横浜（web）	2020.8
小沼邦之、谷中清之、秋本雄、中村和弘	造影 MRI が破裂瘤の同定に有用であった多発性小型脳動脈瘤の 1 例	第 49 回日本脳卒中の外科学会学術集会（STROKE2020）	横浜（web）	2020.8
中村和弘、末松義弘、清水隆玄、秋本雄、小沼邦之、谷中清之、大塚俊哉	心原性脳塞栓症予防における外科的左心耳マネジメントの臨床的意義	第 7 回日本心血管脳卒中学会学術集会	横浜（web）	2020.8
秋本雄、谷中清之、小沼邦之、中村和弘	健常な成人に発症した脳膿瘍の 1 例	第 142 回日本脳神経外科学会関東支部学術集会	東京	2020.10
秋本雄、中村和弘、小沼邦之、谷中清之	直接経口抗凝固薬（DOAC）内服中に 2 回の血栓回収を要した心原性脳塞栓症に対して左心耳切除術が有効であった 1 例	日本脳神経外科学会第 79 回学術総会	岡山（web）	2020.10
小沼邦之、中村和弘、末松義弘、秋本雄、谷中清之、石川栄一	心原性脳塞栓急性期における低侵襲左心耳切除の安全性及び有効性の検討	日本脳神経外科学会第 79 回学術総会	岡山（web）	2020.10
小沼邦之、谷中清之、秋本雄、中村和弘	特発性脳脊髄液減少症に対する硬膜外生理食塩水持続注入の有効性	第 48 回日本頭痛学会総会	つくば（web）	2020.11
中村和弘、秋本雄、小沼邦之、佐藤允之、伊藤嘉朗、末松義弘、松丸祐司、谷中清之、石川栄一	直接抗凝固薬（DOAC）内服中に 2 回の血栓回収を要した心原性脳塞栓症に対して左心耳切除術が有効であった 1 例	第 36 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会（JSNET2020）	京都（web）	2020.11
高田麻耶、中村和弘、秋本雄、小沼邦之、佐藤允之、松丸祐司、谷中清之、小林栄喜	中大脳動脈末梢の破裂性感染性脳動脈瘤に対して塞栓術を行った 1 例	第 36 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会（JSNET2020）	京都（web）	2020.11
中村和弘	脳神経外科からみた左心耳マネジメント	第 3 回左心耳クラブ講演会	WEB 講演会	2020.11
塚田篤志、中村和弘、高田麻耶、小沼邦之、谷中清之	下方注視麻痺を主徴とした中脳出血の 1 例	第 39 回筑波脳神経外科研究会学術集会	つくば（web）	2021.2
小沼邦之、塚田篤志、高田麻耶、中村和弘、谷中清之	非造影Ｔ１強調 3 次元高速スピンエコー法が診断に有用であった特発性頭蓋外椎骨動脈解離の 1 例	第 104 回茨城県脳神経外科集談会	取手（web）	2021.3
中村和弘、塚田篤志、高田麻耶、小沼邦之、佐藤允之、伊藤嘉朗、末松義弘、松丸祐司、谷中清之、石川栄一	心原性脳塞栓症予防における外科的左心耳マネジメントの臨床的意義	第 46 回日本脳卒中学会学術総会（STROKE2021）	横浜（web）	2021.3

整形外科

発　表　者	演　題　名	学会･会合名	開催地	開催年月
菅谷久	濃縮自家骨髄血移植 - 再生医療等安全性確保法への適応と現状	第 93 回日本整形外科学会学術集会	Web 開催	2020.5
戸塚翔	トモシンセシスを用いた full HA Compaction stem 周囲骨形成反応の画像的評価	第 47 回日本股関節学術集会	Web 開催	2020.11
渡邊竜之介	POLAR STEM を用いた有限要素解析	第 47 回日本股関節学術集会	Web 開催	2020.11

麻酔科

発　表　者	演　題　名	学会名	開催地	開催年月
折居美波、箱岩沙織、高瀬肇、田島啓一	未破裂脳動脈瘤の術直後に生じたてんかん性心静止の一例	日本臨床麻酔学会第 40 回大会	WEB	2020.11
富田絵美	左心耳マネジメント	日本周術期食道心エコー認定委員会	WEB	2021.3

リハビリテーション科

発　表　者	演　題　名	学会名	開催地	開催年月
伊佐地隆、安岡利一、大好崇史、宮﨑仁、内田貴一、手塚泰輔、星 智子、渡邉規子、徳永貴久、緒方直史	終末期リハビリテーションにおける看取り患者の栄養、経口摂取の調査	第57回日本リハビリテーション医学会学術集会	京都	2020.8
伊佐地隆	痙縮治療　私のボツリヌス治療から	帝人ヘルスケア社内研修会	つくば	2020.10
渡邉智裕、渡邉規子、徳永貴久、飯塚陽、山口普己、上原智彦、森純子、佐藤直子、伊佐地 隆	回復期リハビリテーション病棟の実績指数が上がった要因の分析	第 4 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	神戸	2020.11
伊佐地隆	私の痙縮治療　ボツリヌス治療を中心に	県南痙縮 WEB セミナー	つくば	2021.2

救急科

発　表　者	演　題　名	学会名	開催地	開催年月
阿部智一、小森大輝、入山大希、戒能多佳子、青木誠	日本の外傷医療の向上とその要因と課題	第３５回日本外傷学会総会・学術集会	所沢	2021.3
阿部智一、小森大輝、入山大希、戒能多佳子	外傷合併症と外傷内科医の重要性	第３５回日本外傷学会総会・学術集会	所沢	2021.3
Toshikazu Abe, Kazuma Yamakawa, Hiroshi Ogura, Shigeki Kushimoto, Daizoh Saitoh, Seitaro Fujishima, Yasuhiro Otomo, Joji Kotani, Yutaka Umemura, Yuichiro Sakamoto, Junichi Sasaki, Yasukazu Shiino, Shin-ichiro Shiraishi, Taka-aki Nakada, Akiyoshi Hagiwara, Masashi Ueyama, Norio Yamashita, Tomohiko Masuno, Hiroto Ikeda, Satoshi Gando, for the JAAM SPICE Study Group	Characteristics and in-hospital mortality according to whether patients who met sepsis-2 and sepsis-3 definitions among patients with suspected infection in intensive care units: Sepsis Prognostication in Intensive Care Unit and Emergency Room (SPICE-ICU)	第３３回欧州集中治療医学会	バルセロナ	2020.12
Hiroki Iriyama, Toshikazu Abe, Akira Komori, Takako Kainoh, Yutaka Kondo, Toshio Naito	Risk factors for pulmonary embolism among patients with trauma: a nationwide trauma cohort study in Japan	第３３回欧州集中治療医学会	バルセロナ	2020.12

Akira Komori, Toshikazu Abe, Kazuma Yamakawa, Hiroshi Ogura,Shigeki Kushimoto, Daizoh Saitoh, Seitaro Fujishima, Yasuhiro Otomo, , Joji Kotani, Yuichiro Sakamoto, Junichi Sasaki, Yasukazu Shiino, Naoshi Takeyama, Takehiko Tarui, Ryosuke Tsuruta, Taka-aki Nakada, Toru Hifumi, Hiroki Iriyama, Satoshi Gando PhD26, 27; for the JAAM SPICE Study Group	Characteristics and outcomes of frail patients with suspected infection in intensive care units	第３３回欧州集中治療医学会	バルセロナ	2020.12
稲葉健介	インストラクター	第７回いばらきPUSH指導者養成講習会	茨城	2020.9
稲葉健介	帯同ドクター	茨城県・福島県ボクシング連盟合同練習会	茨城	2020.8
稲葉健介	医事医員長	第１０回関東アンダージュニアボクシング大会　茨城県選考会	茨城	2020.10
稲葉健介	医事医員長	令和２年度茨城県ボクシング選手権大会兼高校新人大会兼高校選抜大会茨城県選考会令和２年度茨城県ボクシング選手権大会兼高校新人大会兼高校選抜大会茨城県選考会	茨城	2020.11
阿部智一、小森大輝、入山大希、戒能多佳子、青木誠	日本の外傷医療の向上とその要因と課題	第３５回日本外傷学会総会・学術集会	所沢	2021.3
阿部智一、小森大輝、入山大希、戒能多佳子	外傷合併症と外傷内科医の重要性	第３５回日本外傷学会総会・学術集会	所沢	2021.3

放射線科

発　表　者	演　題　名	学会･会合名	開催地	開催年月
高橋信幸	導入１年 Spectral CT を使い始めて有用性を実感した症例を中心に	Philips CT　Web セミナー	東京（Web）	2020.7

小児外科

発　表　者	演　題　名	学会･会合名	開催地	開催年月
瓜田泰久、上岡克彦、増本幸二	尿道下裂修復術 安全な施行のための当科における技術習得プログラム	第57回　日本小児外科学会学術集会	東京	2020.9
瓜田泰久、上岡克彦　他	思春期における総排泄腔外反症の性器系再建	第29回　日本小児泌尿器科学会学術集会	東京	2021.1
上岡克彦	尿道下裂修復術における BMG onlay 法の適応拡大について	自治医科大学　小児泌尿器科	栃木	2020.8

診療支援部門

看　護　部

【総括】

2020年度は全国的に前年度末から流行りだしたCOVID-19感染症が当院でも発生し、年度終わりにはクラスターまで発生する事態となった。それと同時に予定していた電子カルテ導入も4月から行われ、教育と業務へ甚大な影響を及ぼした。2018年度から現場教育に例年以上に力を入れてきた結果、コロナ禍で集合教育が制限された状況でも、現場教育を強化し教育体制が破綻することはなかった。業務においても電子カルテの準備を念入りに実施してきた結果、予定通り導入することができた。

色々な調整が一度に押し寄せはしたものの、看護スタッフ一同は目の前のやるべきことと、これからのやるべきことを理解しコツコツと努力した結果、激動の2020年度を乗り越えることができた。これは普段からの教育なしでは達成できなかった。2021年度も引き続き教育、業務改善に注力して、さらなる看護の質向上を目指す。

【看護部配属職員数（2020年4月1日時点）】

看護師441名、准看護師22名、保健師5名、介護士・補助看護師85名、計553名

【看護部方針】

看護師個々の質向上により、患者とスタッフから喜ばれる病院となる。

【看護部目標と（2020年度の実績）】

1. アクシデントのない看護（18例）
2. クレームのない看護（11件）
3. 1ヶ月の一人あたり超過勤務10時間未満（平均7.5時間、SD 7.2）
4. 年間一人あたりの有給取得率50%以上（平均81.6%、SD 0.3）
5. 看護師離職率5%以下（12.1%）
6. 人材確保の充実30名確保（新卒30名入職）
7. 病床稼働急性期90%以上、慢性期100%（急性期65.8%、74.1%）

【教育】

①前年度課題とした全ラダー院内研修合格率100%に関して

全ラダー院内研修合格率は開催ラダーだけで算出すると96.3%となった。

各ラダー合格率

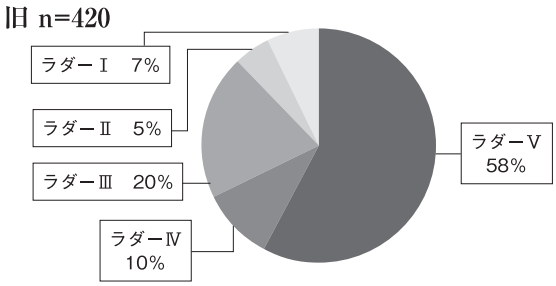
- ●ラダーⅠ　26名中26名が合格（100%）
- ●ラダーⅡ　38名中35名合格（100%）
- ●ラダーⅢ　54名中48名合格（89%）
- ●ラダーⅣ　0名
- ●ラダーⅤ　0名

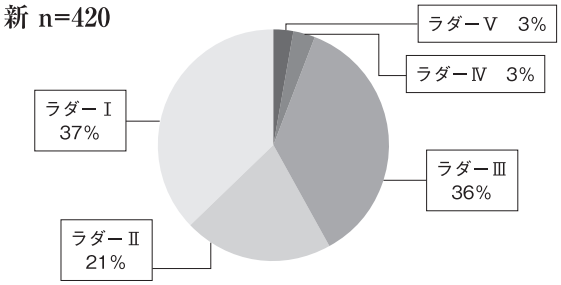
ラダーⅣ、Ⅴにおいては自己研鑽が主な内容であり、コロナ禍での集合研修は中止とした。よって、参加者0名で計上する。

②ラダー進級審査方法を確立する。

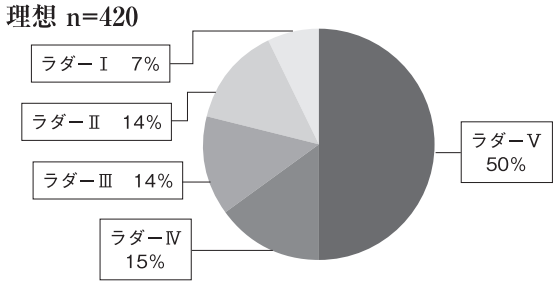
当院新ラダー評価導入が 2020 年 4 月より実施開始となった。結果、当院新ラダー評価による導入により大幅なラダー分布変化が生じた。

旧ラダーと新ラダー評価による分布変化





新ラダー評価により以前にも増して評価が厳しくなり一人前レベルのラダーⅢ以上のスタッフが半数を切ってしまっている。将来的な理想図を記載する。



新ラダー評価から、看護教育の強化を図り、理想に近づけ看護の質向上につなげる。

③ラダーに伴う職能給が 2022 年 4 月から開始できるようにする。

今年度は研究発表が院内外ともに制限された結果進級できない状況となった。結果から開始時期の見直しを実施し、予定を延期し 2023 年 4 月開始へ変更する。

【業務実績】

①患者様用クリティカルパス作成を 100%完成させる。

完成されたパスは前年度と変わりなく 40%である。

②新ラダー評価に伴うスタッフの再編成。

各部署単位でのスタッフ力を均等にするために新ラダー評価を実施し、下記の人員配置を実施した。

新型コロナ感染症に伴い病棟機能再編成も行われ、看護師の異動は総数 153 名となった。

［文責：星　豪人］

【学術業績】
【講師等】

氏　名	内　容	依　頼　元	講義総時間
市川理恵子	在宅看護論　在宅看護方法論Ⅱ②	茨城県立岩瀬高等学校看護　専攻科２年	10 時間
小林朋子	看護の統合と実践　医療安全	茨城県立岩瀬高等学校看護　専攻科１年	10 時間
宮澤久美子	看護の統合と実践　看護管理	茨城県立岩瀬高等学校看護　専攻科１年	10 時間
飯島洋子	人体と看護・疾病と看護　消化器	茨城県立岩瀬高等学校看護　衛生看護科１年	16 時間
髙橋久美子	人体と看護・疾病と看護　乳房	茨城県立岩瀬高等学校看護　衛生看護科１年	4 時間
久松　瞳	成人看護学援助論Ⅴ　血液像血器疾患看護	茨城県結城看護専門学校　２年	10 時間
吉田　聖	成人看護学援助論Ⅱ　循環器疾患看護	茨城県結城看護専門学校　２年	12 時間
	脳神経疾患看護	土浦市医師会附属准看護学校	8 時間
星　典子	看護の基本となる技術Ⅱ　感染予防技術	茨城県結城看護専門学校　１年	10 時間
木内亮子	内分泌　代謝疾患看護	土浦市医師会附属准看護学校	8 時間
中山恵美	循環器疾患看護	土浦市医師会附属准看護学校	8 時間
大和田道代	耳鼻咽喉疾患看護	土浦市医師会附属准看護学校	6 時間
瀬能直子	血液　造血器疾患看護	土浦市医師会附属准看護学校	6 時間

【資格等】

氏　名	名　称	開催場所	開催年月
月精志穂	実習指導者講習会（臨床指導者講習会）	茨城県看護研修センター	2020.6.1 ～ 9.24
大和田道代	「重症度、医療、看護必要度」評価者及び院内指導研修　オンラインセミナー	オンラインセミナー	2020.8.1 ～ 2020.8.31
大川佐知子	「第三号研修・特定の者対象」指導者講習会	茨城県総合福祉会館	2021.2.1

【学会・発表等】

発　表　者	演　題	学　会　名	開　催　地	開催年月
藤田羊子	転倒転落防止アセスメントフローチャート導入からみえたこと	第22回　日本医療マネジメント学会学術総会	京都府	2020.10.6 ～ 2020.10.7
木内亮子	血糖変動が予測できない高齢者糖尿病に対して DASC-8（認知・生活機能質問表）と HbA1c から療養指導への活用を考える	第63回日本糖尿病学会年次学術集会	オンラインセミナー	2020.10.5 ～ 2020.10.16

薬　剤　部

【総括】

1．2020 年度の実績報告

1）薬剤管理指導件数の増加

薬剤管理指導件数はマンパワーの低下した 2019 年度の 7,574 件に対して、2018 年度の 8,651 件以上に復活させることを目指した。2020 年度はコロナ感染症対策の影響を受けながらも 9,057 件を達成できた。

2）病院の増収につながる病棟薬剤業務の展開

外来化学療法室に薬剤師を配置し、抗がん剤無菌調製にとどまらず、外来化学療法を受ける患者に対する薬剤師外来開設を目指したが、達成できなかった。一般名処方加算の取得、後発医薬品使用体制加算 1 の維持、退院時薬剤情報管理指導料の取得、現在の入院時面談を入院時支援加算 1 につなげる、の目標はいずれも達成することができた。

金額的には、病棟薬剤業務実施加算の点数アップと薬剤管理指導件数増加等により、
約 1,300 万円の増収につながった。

3）残業時間の減少と有給休暇の取得促進

残業時間を 15% 減少させる。60 時間 / 月の人数はゼロにする。有給休暇を 5 日以上取得させる計画については、60 時間 / 月の人数はゼロが達成できなかったが、それ以外は達成できた。

＊以上をまとめると、2020 年度目標の多くは達成され、成果のあがった年度と考えられる。2021 年度は、未達成事項を達成するとともに、新たな業務展開を目指したい。

2．2021 年度の課題・目標

1）薬剤管理指導件数の増加

2020 年度の 9,057 件を超えて、年 10,000 件を目標とする。

2）病院の増収につながる病棟薬剤業務の展開

外来化学療法室に薬剤師を配置し、抗がん剤無菌調製にとどまらず、外来化学療法を受ける患者に対する薬剤師外来開設を目指す。

3）残業時間の減少と有給休暇の取得促進

60 時間 / 月の人数はゼロにする。有給休暇を 5 日以上取得させる。

4）新型コロナウイルスワクチン接種の推進

ワクチンの管理、希釈・調製に係る業務を積極的に展開させて、地域医療に貢献する。

［文責：垣内祥宏］

【業務実績】

	入院処方箋枚数	抗癌剤無菌調製件数（入院）	抗癌剤無菌調製件数（外来）	薬剤管理指導（Ⅰ）料件数（380 点）	薬剤管理指導（Ⅱ）料件数（325 点）	退院時薬剤管理指導件数（90 点）	無菌製剤処理料算定件数（無菌1イ+無菌1ロ+無菌2）	薬剤病棟業務実施加算（100 点）
2019年度	70,084	1,690	1,830	1,855	5,719	2,029	3,677	8,318
2020年度	55,099	2,002	2,126	2,118	6,939	2,206	3,969	15,642

	薬剤管理指導料Ⅱ（380 点）	薬剤管理指導料Ⅰ（325 点）	退院時薬剤管理指導料（90 点）	無菌製剤処理料（無菌1イ+無菌1ロ+無菌2）	薬剤病棟業務実施加算（100 点）	合計
2019年度	¥7,049,000	¥18,586,750	¥1,826,100	¥2,092,350	¥8,318,000	¥37,872,200
2020年度	¥8,048,400	¥22,551,750	¥1,985,400	¥2,428,550	¥15,642,000	¥50,656,100

【学術業績】

学会発表

発　表　者	演　　題	学　会　名	開　催　地	開催年月
垣内祥宏、緑川拓也、岡　陽子、渥美弘美	さらば温度管理票　－我々はこうして医薬品の温度管理記録から開放された－	第３０回日本医療薬学会年会	名古屋	2020.10
平間さゆり 、緑川拓也、垣内祥宏、池澤和人	一包化された薬剤を自動分別する装置の導入とその効果	第２２回 日本医療マネジメント学会学術総会	京都	2020.10

放　射　線　部

【総括】

1．2020 年度の実績報告

診療放射線技師 27 名、臨床検査技師 2 名（内非常勤 1 名）、受付事務 2 名（内非常勤 1 名）体制で、筑波記念病院、筑波総合クリニック、THP（つくばトータルヘルスプラザ）において単純 X 線、CT、MRI、超音波、マンモグラフィ、透視撮影、核医学、巡回検診（胸部、胃部）の画像診断検査を行った。また、IVR では心臓カテーテル、頭部・腹部血管造影、ステントグラフト内挿術の治療に携わった。

筑波記念病院、筑波総合クリニック、THP の検査数は、新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり、昨年度と比較しほとんどのモダリティで減少した。

2020 年度医療法の一部改正により、診療放射線に係る安全管理体制の構築が義務化され、医療被ばくの線量管理や放射線診療のプロトコールの見直しなど、安全管理体制の構築を行い、「医療放射線管理チーム」「MRI 安全管理チーム」の立ち上げを行った。また、4 月に導入した電子カルテに連携する放射線科情報システムとのオーダリングシステムの構築を行い、運用体制を整備した。

教育活動としては新人が一年で当直業務が出来るように教育プログラムを作成し、現在 2 名の技師の教育を行っている。部署内での若手主体の勉強会、CT・MRI 勉強会は感染症対策のため自粛期間もあったが、ほぼ毎月開催することができ、技師全体のレベルアップに繋がった。認定資格の新規取得者は X 線 CT 専門認定技師 1 名であった。

2．2021 年度の課題・目標

感染症対策では引き続き新型コロナウイルスを含む感染症対策の強化を図りながら、地域医療に貢献する。また、医療被ばく対策では医療放射線管理チームで診療放射線の線量管理およびプロトコール管理を行い、医療被ばくの適正化に努める。また、2021 年 4 月より施行された電離放射線障害防止規則の一部改正により、放射線業務従事者の被ばく線量限度なども見直され、放射線管理担当部門として院内の医療従事者の健康管理と被ばく低減を目指していく。

2021 年度より新たに放射線科の常勤医が 1 名増え、読影環境および CT、MRI の検査枠を整備し、放射線科医と協力しながら検査数の増加を目指す。

認定資格では検診マンモグラフィ撮影認定技師 1 名の新規取得を目指す。また、施設認定では肺がん CT 検診施設認定の新規取得とマンモグラフィ検診施設認定の更新を目指す。

［文責：吉原　桂］

【業務実績】

筑波記念病院

	CT	MRI	超音波	IVR	単純 X 線	マンモグラフィ	核医学
2019 年度	10,604	4,480	3,779	665	48,583	5,265	319
2020 年度	10,070	3,577	2,968	537	51,524	4,837	259

筑波総合クリニック

	CT	MRI	単純 X 線	骨密度	透視検査
2019 年度	7,293	3,757	20,940	893	527
2020 年度	6,079	3,112	16,651	871	495

つくばトータルヘルスプラザ

	施設内での健診		巡回検診	
	胸部	胃部	胸部	胃部
2019 年度	23,025	13,710	12,626	2,283
2020 年度	22,534	12,806	11,698	2,288

リハビリテーション部

【総括】

リハビリテーション（以下、リハ）部では新卒職員 37 名（理学療法士 20 名、作業療法士 11 名、言語聴覚士 7 名）を迎え、常勤リハ専門職 245 名（理学療法士 154 名、作業療法士 66 名、言語聴覚士 25 名）、非常勤リハ専門職 4 名（理学療法士 1 名、作業療法士 3 名）の計 249 名で、部長 1 名、課長 4 名、係長 4 名、主任 16 名、副主任 6 名の体制でスタートした（筑波中央病院への出向含む）。常勤リハ専門職 161 名（理学療法士 104 名、作業療法 43 名、言語聴覚士 14 名）を病院の入院部門および外来部門に配置した。2020 年度の退職者は常勤 25 名（理学療法士 16 名、作業療法士 5 名、言語聴覚士 4 名）であった。2021 年度は 4 月から新卒職員 37 名（理学療法士 23 名、作業療法士 11 名、言語聴覚士 3 名）、中途採用者 3 名（理学療法士 2 名、言語聴覚士 1 名）が入職予定である。

リハ実施患者の延べ件数は前年度より入院は 18.6% 減、外来は 16.6%減であった。リハ新規指示患者件数は前年度より入院は 13.2%減、外来は 2.5%減であった。リハ実施単位数は入院、外来及び訪問の合計において前年度より 3.2%減であった。4 月時点での常勤のリハ専門職の職員数は前年度より 5 名増加した。業務に従事したリハ専門職の延べ出勤日数は前年度より 1.1%減であった。セラピスト 1 人あたりの 1 日あたりの診療実施単位数は前年度より 2.1%減となり、患者 1 人あたりの 1 日あたりの診療実施単位数は前年度より 15.4%増となった。2020 年度は新型コロナウイルス感染症が流行し、実績にもその影響があった。例えば、リハ実施単位数においては、2021 年 1 月までの累計で前年度比 3.7%増であったが、2 月に職員及び入院患者に新型コロナウイルス感染が確認された後、感染管理の一環としてリハサービスの提供を制限したことにより、3 月の実績が前年度比 75%減となり、通年で前年度比を下回る結果となった。

2021 年度の課題はコロナ禍に応じた部門運営のあり方の確立である。感染対策に主眼を置いた運営方法を引き続き検討し、実践していく。また増員した人材を活かし、特に急性期において、患者 1 人あたりのリハサービスの提供をより充実させていく。その他、医療サービスの質の向上のため、各種研修（課題別研修、職種別研修、部門研修）を企画・実践することで人材を育成し、その効果を検証することに取り組んでいくとともに、優秀な人材を獲得するためリクルート活動に一層注力していく。

より質の高い十分なリハ医療サービスを多くの患者へ提供するために、職員にとって魅力ある職場となることを念頭におきつつ、業務のシステムの見直し及び人材育成のための教育・研修体制の充実を図っていく。

［文責：金森毅繁］

【業務実績】　※（　）内の数値は 2019 年度の実績

リハビリテーション実施患者延べ件数（件）

入院	105,073（129,094）
外来	13,784（16,519）
訪問	233（193）

リハビリテーション新規指示患者件数（件）

入院	理学療法	3,287（3,824）
	作業療法	2,063（2,304）
	言語聴覚療法	1,034（1,226）
外来	理学療法	253（253）
	作業療法	201（198）
	言語聴覚療法	102（119）

リハビリテーション実施単位数（単位）

入院	一般病棟	290,158（299,247）
	回復期リハ病棟	138,093（135,430）
	医療療養・地域包括ケア病棟	67,933（71,723）
外来		42,174（49,839）
訪問		503（387）
計		538,861（556,626）

スタッフ年間延べ出勤日数（人）

入院	一般病棟	20,921（21,094）
	回復期リハ病棟	9,121（8,745）
	医療療養・地域包括ケア病棟	4,622（5,043）
外来		2,946（3,159）
計		37,615（38,041）

患者１人あたりのリハビリテーション実施単位数（単位 / 人）

入院	一般病棟	4.5（3.9）
	回復期リハ病棟	8.3（7.2）
	医療療養・地域包括ケア病棟	2.9/2.7（2.4）
外来		3.1（2.8）
訪問		2.2（2.0）
計		4.5（3.9）

その他の業務実績（件）

リハビリテーション総合実施計画書 入院 外来	 5,012（5,389） 2,069（1,968）
退院前訪問指導	317（312）
退院時リハ指導	2,181（2,266）

支援

内　　容	支　援　先	場　所	実　績
セラピスト学校訪問事業	伊奈特別支援学校	伊奈	年3回
	つくば特別支援学校	つくば	年7回
心身障害児を対象とした機能訓練事業	常総市児童デイサービスセンター	常総	年20回

【学会発表等】

発　表　者	演　題　名	学　会　名	開　催　地	開催年月
福田将大	抵抗運動および有酸素運動が実施困難だった高齢高度肥満患者に対して運動療法と電気刺激療法を併用した一症例	第24回茨城県理学療法士学会	水戸市（Web 開催）	2020.7
古澤　弦	疾病予防運動施設での維持期の心疾患患者利用者受け入れの試み	第26回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	福岡県（Web 開催）	2020.7
大好崇史	当法人リハビリテーション部における時間外勤務の適正運用のための取り組み	第22回日本医療マネジメント学会学術総会	京都府	2020.10
古賀達也	当院における脳内出血患者に対する早期離床の現状調査	第18回日本神経理学療法学会学術大会	京都府（Web 開催）	2020.11
佐藤隆博	転倒恐怖感を訴える整形外科疾患患者に対して，ハンドリングにて知覚経験を促し、歩行能力が改善した 1 症例	第18回日本神経理学療法学会学術大会	京都府（Web 開催）	2020.11
古澤　弦	心拍数の変化が目測・歩測に与える影響	第25回日本基礎理学療法学会学術大会	Web 開催	2020.12
秋山泰蔵	通所リハビリテーションにおける COVID-19 の影響：当事業所の自主的休業経験から	令和2年度 茨城県生活期リハビリテーション症例報告会	つくば市（Web 開催）	2021.2
豊田祐子	訪問リハビリテーション開始後より転倒恐怖感が減少し、歩行機会の増加に繋がった症例を経験して	令和2年度 茨城県生活期リハビリテーション症例報告会	つくば市（Web 開催）	2021.2
相原佑樹	筋萎縮性側索硬化症を呈した症例に対する排泄動作に着目した作業療法の関わりについて	令和2年度茨城県生活期リハビリテーション症例報告会	つくば市（Web 開催）	2021.2
取次　歩	呼吸および横隔膜に着目した訪問リハビリテーション介入により、屋内独歩自立した一例	令和2年度茨城県生活期リハビリテーション症例報告会	つくば市（Web 開催）	2021.2
永木雄也	COVID-19 肺炎治癒後、廃用による ADL 低下のため施設入居となった症例の経過	令和2年度茨城県生活期リハビリテーション症例報告会	つくば市（Web 開催）	2021.2
取次　歩	呼吸および横隔膜に着目した訪問リハビリテーション介入により、屋内独歩自立した一例	令和2年度茨城県生活期リハビリテーション症例報告会	つくば市（Web 開催）	2021.2
角田大典	術前から膝伸展制限を有した TKA 後患者に対する Extension lag 改善に向けた取り組み	令和2年度つくばブロック症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.2
佐藤有稀	右続発性変形性股関節症術後より腹圧性尿失禁症状の悪化を呈した症例～骨盤底筋群の改善に向けて～	令和2年度つくばブロック症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.2
桑原史帆	人工股関節全置換術後の靴下着脱動作獲得に向け、疼痛を考慮して関節可動域練習を行なった症例	令和2年度つくばブロック症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.2
山口泰輝	右人工股関節全置換術後にスリング療法を用いた症例	令和2年度つくばブロック症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.2
和田幸祐	咽頭期の嚥下障害を呈していたが、適切な入院中の指導により改善がみられ、退院後に常食摂取が可能になった症例	茨城県言語聴覚士会 令和3年度つくば土浦地域症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
柵山真地子	脳出血後に高次脳機能障害を呈し、入院継続が困難で自主退院となった症例	茨城県高次脳機能障害支援従事者研修会	つくば市（Web 開催）	2021.3
高山綾菜	脳出血により高次脳機能障害を呈した就労希望のある症例への関わり	茨城県高次脳機能障害支援従事者研修会	つくば市（Web 開催）	2021.3
内田貴一	化学療法誘発性末梢神経障害に対して神経筋電気刺激と運動療法の併用が有効であった急性リンパ芽球性白血病の一症例	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
山本星佳	重症筋無力症を既往に持ち腰椎椎体骨折後の廃用症候群を呈した症例～病棟生活のスケジューリングを行なって～	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3

千田美紗樹	橋梗塞を呈し、非麻痺側に高度の内反変形の変形性膝関節症がある症例に対し , 支柱付き膝装具を作成した症例	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
出田楓理	脳梗塞後遺症による麻痺側上肢の学習性不使用に対しアクティビティに着目した介入	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
元井沙都	未破裂前交通動脈瘤クリッピング術後に記憶障害を呈した症例に対し、残存機能に着目した反復動作練習が有効であった一症例	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
阿見美月	個人が重要としている目標の共有と達成により心理機能、している ADL が向上した症例	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
辰巳　司	肺炎再発後に再発前と同程度の ADL 能力まで改善した症例	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
樋口絢音	歩行時の下肢疲労感により、歩行耐久性向上に難渋した肺切除後の症例を経験して	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
野村優希	高次脳機能障害により更衣動作が困難となった事例	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
大岩　南	目標共有したことにより麻痺手の使用頻度が増加した一事例	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
中振歩美	目標共有とプログラムの段階づけにより禁忌動作定着に至った一症例を経験して	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
佐藤寛朗	臍ヘルニアと著明な膝関節の疼痛により ADL が低下した症例に対して動作指導と環境調節が有効であった症例	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
小山光貴	右視床出血により左片麻痺を呈し独居での自宅退院を目指した症例	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
坂本樹紀	喪失体験を繰り返す症例の終末期作業療法を経験して	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
遠藤由香	身体拘束により麻痺側手指の拘縮を認めた症例に対し、他職種で連携することで改善を試みた一症例	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
須藤慎也	くも膜下出血後に意識障害と高次脳機能障害を呈した症例に対し抗重力伸展活動により独歩再獲得した一症例	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
山ノ井里佳	更衣動作自立を目指し段階的に代償手段を用いた介入を経験して	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
細谷優花	心理的負担を考慮した排泄動作の獲得に向けての取り組み	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3
佐藤柊真	右被殻出血を発症し左片麻痺を呈した症例～歩行時の上肢筋緊張軽減を目指して～	つくば地域リハ・セミナー 第30回症例検討会	つくば市（Web 開催）	2021.3

【講演・セミナー等】

発　表　者	テーマ	講演・セミナー名	開　催　地	開催年月
柵山真地子	新患評価の実際	多摩リハビリテーション専門学校　授業	東京都	2020.9
金森毅繁	臨床実習指導者からみた臨床実習教育について	つくば国際大学　令和2年 臨床実習Ⅰ特別講義	Web 開催	2020.8
種村裕子	臨床実習を控えた学生に向けたアドバイス、体験談	目白大学　言語聴覚障害総合評価学授業	オンデマンド講義	2021.1

臨 床 検 査 部

【総括】

1．2020 年度の実績報告

当院の臨床検査部は、生理検査部門（常勤 18 名 + 非常勤 1 名）、健診部門（常勤 5 名 + 非常勤 3 名）、輸血検査部門（常勤 3 名）、病理・細胞診検査部門（常勤 3 名）、検体検査部門（常勤 11 名 + 非常勤事務 1 名）の 5 部門に分かれている。但し、検体検査部門は委託しているため、当院の人員には含まれない。今年度は健診部門の非常勤 1 名が退職となった。

2．業務実績

今年度は、4 月 1 日に紙カルテから電子カルテに切り替えが行われた。

それに伴い、生理検査部門と輸血検査部門は部門システムを更新し、病理検査部門は新たに部門システム運用を開始した。これにより、患者情報の各部門との共有及び活用の向上が図られた。

生理検査部門では、救急外来や循環器病棟で実施された心電図をデータで取り込み、検査部内で実施された心電図と時系列で比較できるようにした。

輸血検査部門は、今年度からアルブミン製剤の管理を行うこととなった。輸血製剤の廃棄率も極力抑えることができた。

病理・細胞診部門では、部門システム導入と同時に婦人科細胞診における液状化検体細胞診を開始した。7 月から外来部門で開始し、液状化検体を使用して HPV 検査なども行えるようになった。健診部門は来年度から運用開始予定である。

検体検査部門では、検査委託先を変更して 9 年が経過した。院内実施項目の増減は特にはなかった。電子カルテ化となったため、血液ガスも検査結果を閲覧できるようにした。

細菌検査結果を電子カルテで管理し、院内感染情報やアンチバイオグラムなどを院内感染管理に活用できるようになった。

各部門の業務実績は、新型コロナウイルス流行に伴い 2021 年 3 月に著減したがそれ以外は例年通りであった。

3．教育実績

今年度は、新人採用がなかった。

月 1 回の部内ミーティングで勉強会を実施している。年度末の部内発表会は 7 年目となった。昨年度は中止となったが、今年度は開催することができ内容的には充実してきた。

専門領域の認定資格は、認定試験が中止されたものもあり、今年度の新規取得はなかった。

4．2021 年度の目標

＊電子カルテシステムに移行し1年が経過したので、更なる業務の見直しとともに院内に向けての検査関連マニュアルを整備する。

＊患者に対して検査に関する説明などができる検査技師を目指し教育に取り組む。

＊診療に貢献できる新規検査項目を検討し、可能であれば導入を目指す。

＊臨床検査技師の業務拡大を鑑み、自院に合致した多職種連携を進める。

［文責：大森美恵子］

【臨床実績】

生理検査件数（筑波記念病院、筑波総合クリニック）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計	月平均
ECG	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17,296	1,441
24ECG	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,076	90
TET	3	6	10	11	13	9	11	7	10	9	6	0	95	8
UCG	3	6	10	11	13	9	11	7	10	9	6	0	5,109	426
下肢エコー	6	12	20	22	26	18	22	14	20	18	12	0	944	79
頚動脈エコー	9	18	30	33	39	27	33	21	30	27	18	0	52	4
肺活量	15	30	50	55	65	45	55	35	50	45	30	0	1,850	154
脳波※	24	48	80	88	104	72	88	56	80	72	48	0	156	13
ABI	39	78	130	143	169	117	143	91	130	117	78	0	1,112	93
伝速	63	126	210	231	273	189	231	147	210	189	126	0	84	7
術中MEP･ABR	1	0	2	2	1	2	1	3	6	4	4	0	26	3
OCST	64	126	212	233	274	191	232	150	216	193	130	0	391	33
PSG	1	3	8	6	2	2	0	0	2	3	4	0	31	3
呼気 NO	65	129	220	239	276	193	232	150	218	196	134	0	286	24
UBT	130	258	440	478	552	386	464	300	436	392	268	0	369	31
CGM	3	4	7	3	7	4	2	5	6	4	1	0	46	4
純音聴力	133	262	447	481	559	390	466	305	442	396	269	0	2,348	196

※つくばトータルヘルスプラザのドック件数を含む

■は 2019 年度より増加した検査項目

病理・細胞診検査件数（筑波記念病院、筑波総合クリニック）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計	月平均
病理	214	200	279	327	335	319	329	307	336	280	279	66	3,271	273
細胞診※	385	491	969	975	1,015	1,110	1,229	1,023	1,169	934	995	848	11,143	929
骨髄穿刺	6	14	18	32	21	20	22	19	9	23	18	7	209	17

※つくばトータルヘルスプラザのドック・健診件数を含む

■は 2019 年度より増加した検査項目

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
和田 英明	高度貧血を伴う胃癌に合併したVTE治療中に脳梗塞を併発した１例	第61回　日本脈管学会総会	東京	2020.10

臨 床 工 学 課

【総括】

1．2020 年度の実績報告

緊急対応件数の増加に伴い緊急業務に従事するためのスタッフの育成に重点を置き、オンコール待機人数を 2 名体制とし緊急の心臓外科手術や心臓カテーテル治療に即応できる体制を整えた。

人工心肺部門においては技術認定資格を保持するスタッフも増え、人工心肺業務に係わるスタッフの教育も進んで今後も心臓外科領域において専門的な技術提供ができるようになった。

医療機器の更新は概ね計画通りの更新が行えた。また中央管理における医療機器の運用も安定して行えている。

技術提供でここに挙げてあるものは手術室・心カテ室などにおける手術・治療・検査である。今年度は新型コロナウイルスの影響により件数の減少が見られた。

人工心肺の件数は減少しているが緊急症例の増加に伴い夜間の緊急対応件数が増えた。また、大動脈ステントの件数は変わりがなかった。心臓カテーテル治療の件数は昨年と比して減少傾向であった。またアブレーション件数は若干減少した。整形外科領域で使用する自己血回収は使用症例の選定をおこなったため件数が減少した。

生命維持管理装置では人工呼吸器の管理日数は昨年と比して増加傾向であり、昨年同様に非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）の使用が増えていたが、新型コロナウイルスの影響により 2 月以降は NPPV の使用を制限した。

血液浄化業務では、昨年と比して血液透析（HD）と、持続緩徐式血液濾過透析（CHDF）は増加した。心臓外科手術件数や心臓カテーテル治療件数から勘案するに緊急手術などで重症患者が増加したためと思われる。

ペースメーカー・ICD などの植込みデバイスに関しては増加傾向が伺える。そのため、ペースメーカー外来検査件数も増加となっている。また新たに遠隔外来検査を始めたため検査件数は増加した。

医療機器定期点検の件数では昨年と比して変わりはない。これは病棟全体での使用頻度や運用が安定したため医療機器の増設を行わなかったためである。

2．2021 年度の課題・目標

各病棟の運用が安定していることに伴い、患者監視装置やその他の医療機器の使用頻度が安定してきたので、各病棟の使用頻度や重症度を考慮しそれぞれの病棟への医療機器貸出しを効率よく運用して管理していく。

各医療機器の老朽化が進んできているため、計画的に更新時期を検討して適切に更新を進めていく。

各病棟で使用される医療機器を中心とした勉強会を開催し、使用する医療機器の安全管理に努めていく。

各々が全ての業務を遂行できることを目標とし、また、施設基準に必要な各種資格を取得できるように学会や講習などに積極的に参加し、必要な技術や知識の習得に取り組んでいく。

［文責：助川　節］

【業務実績】

技術提供

	2019 年	2020 年
人工心肺	92 件	67 件
大動脈ステント	62 件	61 件
自己血回収	338 件	152 件
心臓カテーテル検査	526 件	376 件
緊急心カテ※	74 件	60 件
ＰＣＩ※	193 件	167 件
緊急ＰＣＩ※	43 件	37 件
アブレーション	70 件	61 件
植込みデバイス	36 件	48 件
末梢血幹細胞採取	18 件	4 件

※ PCI は心臓カテーテル検査に含む
※緊急は上位項目に含む

生命維持管理装置管理実績

	2019 年	2020 年
ＩＡＢＰ	18 件 /78 日	9 件 /30 日
ＰＣＰＳ	7 件 /12 日	5 件 /24 日
人工呼吸器	3,396 日	3,612 日
植込みデバイス	638 件	866 件
血液透析	53 件	83 件
持続緩徐式血液濾過透析	83 件	111 件
血液浄化	4 件	15 件

医療機器点検

	2019 年	2020 年
シリンジポンプ	215 件	229 件
輸液ポンプ	359 件	381 件
除細動装置	4,239 件	4,335 件
人工透析装置	588 件	546 件
患者監視装置	10,185 件	10,218 件

※件数は延べ台数

栄養管理課

【総括】

1．2020 年度の実績報告

（ア）体制

栄養管理課では、新卒の管理栄養士 2 名を加えた管理栄養士 13 名（病院 11 名、クリニック 1 名、老健 1 名、）と栄養士 1 名（事務）の計 14 名、役職者として主任 1 名、副主任 1 名の体制でスタートした。

2020 年 4 月に管理栄養士 1 名が育児休暇から復帰した。2020 年度の産前・育児休暇取得者は 1 名であり（6 月に 1 名）、退職者はいなかった。2021 年度は 4 月に管理栄養士 2 名が育児休暇から復帰予定である。

日本栄養士会で策定された【病院管理栄養士ビジョン - 概念図】では、栄養部門のあるべき姿として、部門長 1 名、教育担当者 1 名、給食管理業務統括 1 名、

地域栄養ケアステーション担当者 1 名、外来栄養指導担当者 1 ～ 2 名、そして 50 床（1 病棟）に管理栄養士 1 名の常駐を掲げている。当課では今年度も部門体制の強化に努めた。

2020 年度の診療報酬改定で、特定集中治療室での栄養管理の評価として「早期栄養介入管理加算」が新設された。このため、施設基準を満たす管理栄養士 1 名を専任として ICU に配置した。また、卒後 2 年目の管理栄養士 1 名を現任訓練および補助役として配置し、ICU の管理栄養士 365 日体制を敷いた。

同じく診療報酬改定で、外来栄養食事指導における情報通信機器を用いた指導が評価され、2 回目の指導以降は ICT を活用することでの指導料算定が可能となった。このため、主にクリニック配属の外来栄養指導担当者に従事させ、比較的栄養指導実施件数が手薄である午後に ICT を活用した栄養指導を実施した。

その他、患者栄養サポートの需要が高い循環器内科・心臓血管外科病棟および脳神経外科病棟に管理栄養士を常駐させた。これにより、今年度までに管理栄養士の常駐している病棟は ICU、循環器内科･心臓血管外科病棟、消化器外科病棟、脳神経外科病棟、回復期リハビリテーション病棟、血液内科病棟となっている。

（イ）業務

［給食管理］

献立ミーティングを月 1 回から週 1 回へ増やし，患者の声や検食簿における意見を積極的に献立に反映させた。また、給食への異物混入対策として、給食委託業者に働きかけて高機能白衣を導入させた。

給食における配膳間違いや遅配膳などのインシデントが増加したため、給食委託業者の業務内容に介入し、勤務および配置を積極的に指導した。

収益として、食事療養・生活療養費は入院患者数に委ねられ介入が困難であるが、特別食加算については担当医へ働きかけて必要である患者へ特別食提供ができるように介入し増収を目指していく。

［栄養管理］

栄養食事指導の延べ件数は、前年度より入院時指導は 20％減、外来時指導は 17％減であった。

栄養サポートチーム（Nutrition Support Team: 以下 NST）は､関係各部署に働きかけ､11 月からカンファレンス・回診頻度を増やした（週 2 回から週 5 回）。これにより、平日は毎日 NST 加算の算定が可能となった。NST 延べ件数は、前年度より総回診件数は 11％増、加算件数は 8％増であった。

今年度より新設された早期栄養介入管理加算は年間 340 件を算定した。

栄養食事指導の延べ件数は減少したが、加算効率の良い NST 加算の増加ならびに ICU における早期栄養介入管理加算の開始による影響で、栄養管理における収益は増収となった。

今後も栄養食事指導料、NST 加算、S 4 東病棟での回復期入院料の差額、ICU での早期栄養介入管理加算などの【栄養管理における収入】の増加を目指す。

リハビリテーションと共に患者治療の根管となる栄養管理を強化することで患者治療成績の底上げに貢献し、ひいては病院経営に寄与していく。

2．2021 年度の目標

【病院管理栄養士ビジョン - 概念図】に沿った栄養部門のあるべき姿を求めていく。主に管理栄養士常駐病棟での収入増が著しいことから、50 床（1 病棟）に管理栄養士 1 名の常駐体制の構築を引き続き推し進めていく。そして、入院患者の治療成績を底上げできる管理栄養士が数多く所属する栄養部門を目指す。また、人材育成のための教育・研修体制を整え、また職員にとって魅力ある職場環境も実現していく。

［文責：松浦史生］

【業務実績】

病院

・給食管理

	食事療養費	生活療養費	特別食加算	計
2017 年度	¥192,202,705	¥41,151,296	¥12,049,572	¥245,403,573
2018 年度	¥188,918,180	¥40,237,462	¥13,532,636	¥242,688,278
2019 年度	¥194,573,755	¥45,179,470	¥13,534,232	¥253,287,457
2020 年度	¥173,601,220	¥41,317,630	¥10,481,008	¥225,399,858

・栄養管理

	栄養食事指導料（入院）	NST 加算	入院料基本料差額（回復期）	早期栄養介入（ICU）	計
2017 年度	¥2,730,000	¥736,000	−	−	¥3,466,000
2018 年度	¥3,184,400	¥1,050,000	¥1,099,238	−	¥5,333,638
2019 年度	¥2,746,800	¥2,562,000	¥1,098,022	−	¥6,406,822
2020 年度	¥2,492,620	¥2,776,000	¥1,039,709	¥1,360,000	¥7,668,329

筑波総合クリニック

	栄養食事指導料（外来）
2017 年度	¥1,433,400
2018 年度	¥2,093,000
2019 年度	¥1,841,400
2020 年度	¥1,626,280

つくばケアセンター

	栄養マネジメント加算	経口維持加算Ⅰ	療養食加算	再入所時栄養連携加算	計
2017 年度	¥474,068	¥6,000	¥118,026	−	¥598,094
2018 年度	¥469,210	¥7,200	¥82,644	−	¥559,054
2019 年度	¥469,518	¥10,400	¥83,160	¥16,720	¥579,798
2020 年度	¥484,316	¥4,400	¥109,320	−	¥598,036

資格取得状況

認定資格等	人数	前年度増減
日本糖尿病療養指導士（CDEJ）	2	
栄養サポートチーム担当者	4	
栄養サポートチーム専門療法士	1	
静脈経腸栄養（TNT-D）管理栄養士	2	
栄養経営士	2	

（2021 年 3 月 31 日現在）

実習受け入れ実績

月	学校名	人数	実習領域
9、10	常磐大学	6	臨床栄養臨地実習

座長・インストラクター等

氏名	依頼元	内容	開催地	開催年月
矢部義人	第 13 回つくば栄養サポート研究会	座長：一般講演	つくば	2020.10.3

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
矢部義人	非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）における食事パターンの調査	第56回日本肝臓学会総会	大阪	2020.5.21
松浦史生、池澤和人、矢部義人、會田奈津子	オンライン栄養指導の導入・運用へ向けた管理栄養士の取り組み	第13回つくば栄養サポート研究会	つくば	2020.10.3
矢部義人	非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）における肝線維化進展と食習慣の関連性	第43回日本肝臓学会東部会	岩手	2020.12.3

医療相談室

【総括】

2020年度の退院支援部門では、5月に退院支援看護師が1名、10月に社会福祉士が1名増員され、計9名を各病棟に配置し退院支援業務を行った。新型コロナウイルス感染拡大により、例年に比べ入退院者数に変化があったことで月毎の入退院支援加算に偏りはあったものの、年間件数は例年とほぼ同数となった。2名増員により算定件数は増加したが、病床稼動が低い時期の件数は減少したことで、増減幅は変わらなかったと考えられる。しかし、相談業務においては新型コロナウイルスの影響により、経済的問題の解決、転院や施設入所の受け入れが滞る、感染状況や検査依頼など新たな確認事項が増えた、など業務量に変化が見られた。他職種連携のためのカンファレンスや退院前カンファレンスの中止により、院内院外との連携がスムーズに行えないこともあったが、オンラインを利用したカンファレンスの開催や個々の感染対策の徹底により、制限がある中でも効率的な業務が行えるよう努めた。

ソーシャルワーカー、退院支援看護師、居宅介護支援事業所との勉強会を継続しており、問題解決に向けた事例検討や外国人に対するソーシャルワーク、アドバンスケアプランニングなどのテーマに沿った学習を行い、患者家族からの様々な相談に対応するための知識の習得に努めた。

【2021年度方針】

新型コロナウイルスの影響のもとで相談業務にも変化が起こっている。本人や家族との面談、カンファレンスの開催方法、地域の行政や事業所との連携方法など、感染リスクに配慮した対応を確立することが必須となる。診療報酬では地域包括ケアシスの推進の柱の一つとして「医療従事者間・医療機関間の情報共有・連携の推進」が挙げられている。オンラインを用いたカンファレンスの開催や入院前からの情報を共有することで、再入院を未然に防ぎ退院後も安心した療養生活を継続するための連携を図っていく。

［文責：佐藤直子］

【業務実績】

MSW･退院支援看護師介入による退院者数

総　数		1,262
内　訳	自　宅	745
	施　設	232
	転　院	130
	死　亡	139

入退院支援加算

総　数		1,124
内　訳	急性期	652
	回復期	165
	地域包括	274
	療　養	33

相談件数

総　数		13,166
内　訳	退院支援	11,933
	転院相談	870
	患者サポート	363

入院依頼数

		総　数	受　入	断　り	キャンセル
総　数		418	149	93	269
内　訳	急性期	10	8	2	0
	回復期	230	64	50	116
	地域包括	161	77	24	60
	療　養	17	0	17	0

臨　床　心　理

【総括】

1．2020 年度の実績報告

2020 年度は 4 月に新入職員が 1 名入職し、常勤公認心理師 3 名（うち 2 名は臨床心理士）での運営となった。業務内容は昨年度同様、心理検査業務・カウンセリング業務・メンタルヘルス業務が中心であった。

心理検査では全実施件数が 2019 年度実施総数の 86％で全体としては 14％の減少となった。背景としてはトータルヘルスプラザ（以下 THP）における神経心理検査数の減少が影響したと思われるが、病院、クリニックでの実施件数は昨年度よりも増加した。なかでも検査手続きが複雑な個別対応の検査数は全体として昨年度 20％増の実施数で昨年同様個別対応のニーズが高く、特に小児科からの依頼はここ数年来増加の一途を辿っている。成人対象の検査では知能検査の件数にやや減少が見られたが、人格検査は前年度と同様の水準が維持できた。個別検査の実施については技能習得に時間を要するため、これら手続きの複雑なものに関しては人員増による大幅な効果を得ることは難しかった。一方、もの忘れ外来での ADAS 実施は体制が整ったこともあり、前年度に比べ 18％増で実施することができた。

カウンセリング業務は前年度の業績に比べ THP では 50％程度に減少したのに対し、病棟からの依頼は実施数が増加した。新規相談者数は横ばいであったが、継続した介入を要すケースであったため介入回数が増える結果となった。

メンタルヘルス業務においても同様の傾向が見られ、新規の初回相談者数は昨年とほぼ同数だったのに対し相談数は 2 倍強となった。これに加え今年度は上司など管理側の立場の方からどのように不調者へのケアを行っていくかという相談があり、コンサルテーションの役割を担うことができたと思われる。

その他、今年度は精神科領域での知見を深めるべく精神科医師にご協力を頂き精神科初診の陪席・アナムネーゼの実施を再開することができた。また、小児リハビリテーションのカンファレンスへの参加も再開することができ、検査結果のフィードバックのみに留まらず、立体的・継続的な患者理解のためのお手伝いが少しずつできるようになってきたと思われる。

年度目標として掲げていた体制の強化や、もの忘れ外来における検査実施数の回復、メンタルヘルス活動の回復もある程度達成できたと思われる。また、病棟での検査・カウンセリングの実施を通じて『各科の依頼に幅広く応える』ことにもある程度対応することができた一方、今後の課題も見えてきたところである。

2．2021 年度の課題・目標

2021 年度は引き続き体制の維持・強化に努めるとともに、より安全で迅速な業務遂行を図っていきたい。そのためには業務の効率化を図りタイムリーな検査実施を心がけたい。また、今年度も引き続き『各科の依頼に幅広く応える』ことを目標のひとつとし、そのためには幅広い疾患の知識や対応技法についての学びを深めることも課題と考える。

［ 文責：高橋晶子 ］

【業務実績】

心理検査

	検査内容		
病院・クリニック	発達及び知能検査	WAIS- Ⅲ成人知能検査	6
		WISC- Ⅳ知能検査	75
		田中ビネー知能検査Ⅴ	10
		新版K式発達検査	68
		グッドイナフ人物画検査	1
	人格検査	ロールシャッハテスト	3
		描画テスト（バウム、HTP）	3
		文章完成法（SCT）	3
		P-F スタディ	1
	認知機能検査 その他の心理検査	ADAS	288
		WMS-R	1
		K-ABC Ⅱ	8
		PARS-TR	1
		長谷川式知能評価スケール	16
		MMSE	16
		FAB	2
		かなひろいテスト	8
		読み書きスクリーニング検査	26
	小計		536
THP	神経心理検査	小計	330
		合計	866

カウンセリング

THP	初回	7
	継続	27
	小計	34
病棟	初回	2
	継続	7
	小計	9
	合計	43

メンタルヘルス

相談対応	初回	6
	継続	20
	小計	26
その他	研修会打ち合わせ等	4
	相談室だより発行	0
	小計	4
	合計	30

院内研修

講　　師	研修名（依頼元）	開催年月
高橋晶子	国試対策講義「心理検査について」(リクルートセンター)	2020.9
高橋晶子	『メンタルヘルスについて』（リハビリテーション部１年目対象）	2020.12（2 回実施）

地域医療連携部

【総括】

2020年度は新型コロナウイルスの影響により通常の紹介患者数が減少し、発熱者・接触者外来への紹介や、保健所からのメディカルチェック依頼などが増加した。

「地域医療連携懇談会」および、「真壁医師会・筑波記念病院医療懇話会」も中止となり、対面による連携強化が難しい年となったであったが、新たに4名の登録医を増加することができた。また、開催を見合わせていた、地域医療連携公開講座をオンラインで行うなどの、新しいコミュニケーションツールを使用するなどの取り組みも開始した。

来年度も新型コロナウイルスに注意しつつ、紹介数、逆紹介数の増加に取り組んでいきたい。

［文責：川嶋慎也］

【業務実績】

地域医療支援病院 紹介率（%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
76.9	72.2	77.8	82.3	82.2	83.8	78.1	78.1	89.7	81.4	74.7	65.7	78.6

地域医療支援病院 逆紹介率（%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
23.1	38.9	50.4	48.7	63.6	47.7	53.4	53.4	64.1	56.8	64.4	70.0	52.9

紹介患者数（筑波記念病院）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	月平均
初診紹介数	65	88	132	200	133	162	157	139	144	133	89	27	1,469	122
（外　来）	31	35	71	92	65	91	93	76	90	77	47	27	795	66
（入　院）	34	53	61	108	68	71	64	63	54	56	42	0	674	56
再診紹介数	34	48	68	56	47	41	53	35	44	35	32	16	509	42
（外　来）	14	17	27	20	29	15	30	22	23	19	17	8	241	20
（入　院）	20	31	41	36	18	26	23	13	21	16	15	8	268	22
紹介状総数	99	136	200	256	180	203	210	174	188	168	121	43	1,978	165

逆紹介算定数（筑波記念病院）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	月平均
208	229	251	229	225	206	205	213	227	195	193	210	2,591	215.9

【当院登録医医療機関一覧】

つくば市医師会（順不同）

渡辺内科クリニック	かつらぎクリニック	飯岡医院
倉田内科クリニック	みなのクリニック内科呼吸器科	研究学園いいむら耳鼻咽喉科
寺崎クリニック	池野医院	飯田医院
仁愛内科医院	つくばセンタークリニック	すぎやま内科皮フ科クリニック
ホームオンクリニックつくば	研究学園クリニック	つくばフラワー耳鼻咽喉科
川井クリニック	つくば在宅クリニック	ちかつクリニック
高田整形外科	竹園ファミリークリニック	青空ホームクリニック
宮本内科クリニック	コミュニティクリニック・つくば	せせらぎ在宅クリニック
清水こどもクリニック	つくばねむりとこころのクリニック	さくら内科・呼吸器内科クリニック
大見クリニック	のぐち内科クリニック	清宮眼科皮膚科
中川医院	宮川内科・胃腸科医院	サンシャイン・クリニック
ほりかわクリニック	樫村内科消化器科クリニック	おいかわ腎泌尿器クリニック
小倉医院	つくばシティア内科クリニック	つくばすずらん皮膚科クリニック
酒寄医院	長沢眼科	つくば白亜クリニック
東郷医院	こだま在宅クリニック	小池医院
みらい平クリニック	つくばシティアビル整形外科	鈴木医院
広瀬クリニック	林医院	紫峰の森クリニック
飯村医院	ヒルトップクリニック	ユーカリ医院
岡野整形外科・内科クリニック	坂根Mクリニック	渡辺医院
北條医院	うえの整形外科	谷田部診療所
江原こどもクリニック	ひがし外科内科医院	つくば辻クリニック
高田眼科	あつしクリニック	ユークリニック
根本クリニック	柴原医院	こまつ内科クリニック
成島クリニック	杉谷メディカルクリニック	並木内科クリニック
小田内科クリニック	ありま皮膚科クリニック	沼尻整形外科・胃腸科
緑クリニック医院	太田医院	きくち呼吸器内科クリニック
広瀬医院	なかざわクリニック	竹園眼科
渋谷クリニック	ふなやま内科クリニック	二の宮越智クリニック
木村クリニック	岡本医院	おがわ内科
菊池内科クリニック	大穂皮膚科クリニック	耳鼻咽喉科　大橋医院
天貝整形外科クリニック	いしかわ耳鼻咽喉科クリニック	竹園皮膚科医院
あおやぎ医院	のむら耳鼻咽喉科クリニック	楓クリニック
大野医院	耳鼻咽喉科　学園の森クリニック	ひろせ内科消化器クリニック
南大通りクリニック	さとうクリニック	MED AGRI CLINIC つくば
つくばシティアビル皮フ科	つくばシティアすえひろ眼科	

真壁医師会（順不同）

落合医院	なかはら整形外科医院	しもだて中央クリニック
仁保内科医院	根本医院	直江医院
宮本医院	大塚医院	さいとう整形外科
古橋医院	つくし野クリニック	おおもりクリニック
菊山胃腸科外科医院	とやまクリニック	のかおい整形外科
下條整形外科	渡邉クリニック	すわクリニック
坂入医院	菊山医院	池田整形外科
砂沼湖畔クリニック	阿部田医院	玉野医院
中山医院	ごとうクリニック	とみざわハートクリニック
松岡整形外科	山口医院	佐々木整形外科
明野中央医院	長倉内科・外科クリニック	新井内科医院

かくらいクリニック	飯田医院	遠藤産婦人科医院
横瀬医院	野中医院	さとうクリニック
三津山クリニック	浅田医院	介護老人保健施設マカベシルバートピア
田崎内科医院	あけの元気館前クリニック	筑西診療所
秀村医院	ひろせ内科クリニック	
古橋耳鼻咽喉科医院	下館胃腸科医院	

きぬ医師会（順不同）

しば医院	中島医科歯科クリニック	松﨑医院
常総メディカル	桜橋クリニック	天王前クリニック
耳鼻咽喉科　染野クリニック	高橋医院	海老原医院
荒川医院	寺田医院	河村胃腸科外科医院
横瀬医院	植竹医院	安達医院
大塚クリニック	存身堂医院	須澤内科糖尿病医院
いとう内科・胃腸科医院	岩本医院	鈴木内科整形外科医院
石塚医院		

（2020 年 3 月 31 日現在）

【地域医療連携部（地域医療連携公開講座）】

内　　容	講　　師	場　　所	年月日
かかりつけ医における上部内視鏡診療	すぎやま内科皮フ科クリニック 杉山弘明	ホテル日航つくば （WEB講習）	2020.12.1
膵癌の予後改善を目指して～発癌モデルから見た膵癌の制御～	東京大学医学部附属病院 伊地知秀明		

委　　員　　会

病院運営管理会議

Ⅰ．目的及び機能

病院事業の施策、計画及び運営に関することについて協議、検討を行う。また、医療安全・感染対策・医師研修等の確保と推進を図ることを目的とし、それらに係る委員会を統括する。

Ⅱ．構成員

◎議長：長澤　俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	13	臨床工学課	1
看護部	1	医療安全管理室	1
薬剤部	1	感染管理室	1
リハビリテーション部	1	本部・事務部	5
臨床検査部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

８回

Ⅳ．他 活動内容

・医療安全管理委員会、医療安全対策チーム部会の報告
・感染対策管理委員会、感染症対策チーム部会の報告
・臨床研修管理委員会の報告
・病院機能改善管理委員会の報告
・診療情報等の検討

［文責：長澤俊郎］

医療安全管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院病院長の諮問に基づき設置され、医療安全管理に係わる問題点や緊急的検討事項などの政策を管理者に答申し、意思決定を行い、医療安全体制の確保および推進を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：池澤　和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	薬剤部	1
医療安全管理室	1	臨床工学課	1
感染管理室	1	本部・事務部	1
看護部	1		

Ⅲ．委員会　開催回数

９回　　４月、２月、３月は、COVID-19 による感染対策のため開催中止

Ⅳ．委員会　協議事項

2020.4.28	COVID-19 による感染対策のため開催中止
2020.5.27	指針および「医療安全管理委員会」「医療安対策チーム」「転倒転落対策 WG」各規約について承認された 2020 年度の前期医療安全管理研修を Web 開催することを承認された
2020.6.24	医療安全ラウンドに「口頭伝達方法」と「患者確認動作」の項目追加を報告した
2020.7.29	院内緊急 Call が「＃ 0」から「＃ 11」へ変更となったため、掲示の差し替えを報告した
2020.8.26	患者確認動作の見直しと対策について報告した 2020 年度前期医療安全管理研修結果報告（参加率 100％） 2019 年度医療安全推進週間企画「患者誤認防止川柳」の結果を報告した
2020.9.30	10 月 10 日「転倒予防の日」の企画について、転倒転落対策 WG で実施している、転倒予防ラウンドの結果を Web で回覧することを提案し承認された 10 月からつくばケアセンターが「医療安全対策チーム」に加わることが承認された
2020.10.28	2020 年度医療安全推進週間の企画について承認された テーマ「転倒転落ゼロ宣言」 医薬品安全管理マニュアルの一部改訂について承認された
2020.11.25	転倒防止対策について協議された コードイエロー事例について報告した
2020.12.30	CV カテーテルの操作によるインシデントについて協議した
2021.1.27	全職員対象に患者確認動作の周知および実施についてのアンケート調査を実施した結果について報告した
2021.2.24	COVID-19 感染症対策のため開催中止
2021.3.31	COVID-19 感染症対策のため開催中止

［文責：池澤和人］

医療安全対策チーム

Ⅰ．目的及び機能

医療安全管理委員会の総括のもと、各部署で発生した問題事象の報告および、現場に即したより実効性のある医療安全対策が実施できる体制の整備に努め、情報共有することで再発防止を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：池澤　和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	臨床工学課	1
医療安全管理室	1	栄養管理課	1
感染管理室	1	医療相談室	1
看護部	15	本部・事務部	2
薬剤部	1	つくばトータルヘルスプラザ	1
放射線部	1	筑波総合クリニック	2
リハビリテーション部	5	つくばケアセンター	1
臨床検査部	2		

Ⅲ．委員会　開催回数

8回　（4月、5月、2月、3月は、COVID-19による感染対策のため資料のみ配布とした）

Ⅳ．委員会　協議事項

2020.4.28	以下の内容を書面にて配布した 3月のインシデント・アクシデント報告 2019年度目標評価報告
2020.5.26	以下の内容を書面にて配布した 4月のインシデント・アクシデント報告
2020.6.23	5月のインシデント・アクシデント報告 安全ラウンド実施（場所：リハビリ部、Ｓ３西病棟、Ｓ３東病棟、Ｓ５東病棟、Ｓ５西病棟）
2020.7.28	6月のインシデント・アクシデント報告 安全ラウンド実施（場所：検査部、ICU、OR、S4西病棟、S4東病棟） 院内緊急Callの変更に伴う、周知と掲示変更の確認の項目を追加した
2020.8.25	7月のインシデント・アクシデント報告 2020年度前期医療安全管理研修結果報告（参加率100%） 2019年度医療安全推進週間企画「患者誤認防止川柳」結果報告 安全ラウンド実施　（場所：２号棟３階、２号棟４階、１号棟２階、薬剤部、筑波総合クリニック）
2020.9.29	8月のインシデント・アクシデント報告 安全ラウンド実施（場所：救急センター、総合外来、内視鏡室、放射線部、２号棟５階）
2020.10.27	9月のインシデント・アクシデント報告 安全ラウンド実施（場所：リハビリテーション部、Ｓ３西病棟、Ｓ３東病棟、Ｓ５西病棟、Ｓ５東病棟）
2020.11.24	10月のインシデント・アクシデント報告 「10月10日転倒予防の日」企画閲覧報告　約92% 安全ラウンド実施（場所：検査部、ICU、OR、Ｓ４西病棟、Ｓ４東病棟）
2020.12.22	11月のインシデント・アクシデント報告 安全ラウンド実施（場所：２号棟３階、２号棟４階、１号棟２階、薬剤部、筑波総合クリニック）
2021.1.26	12月のインシデント・アクシデント報告 画像診断報告書確認件数の報告を追加した 安全ラウンド実施（場所：救急センター、総合外来、内視鏡室、放射線部、２号棟５階）

2021.2.22	以下の内容を書面にて配布した 1月のインシデント・アクシデント報告 「MRI検査におけるインプラント等について」「MRI検査確認リスト」の一部修正の報告をした
2020.3.23	以下の内容を書面にて配布した 次年度の目標と年間計画 2月のインシデント・アクシデント報告 2020年度業務改善計画についての報告

Ⅴ．他 活動内容

1．職員に対する研修

※COVID-19感染対策のためWebでの研修とした

開　催　日	内　容	講　師	対象者	参加人数
2020.4.3	医療安全研修	医療安全 管理室	研修医	8人
資料閲覧期間 2020.7.6～7.12 アンケート実施期間 1回目 2020.7.13～7.27 追加 2020.8.11～8.18	2020年度前期医療安全管理研修 テーマ 医療安全管理部門 「医療安全の基礎」 医薬品安全管理部門 「医薬品の温度管理」	医療安全 管理室	全職員	1244人 （受講率 100%）
2021.1.4～1.10	輸血に関する注意事項	輸血室	看護部 研修医 検査部 薬剤部	253人
2021.1.11～1.17	生理機能検査と医療安全	生理検査室	看護部 研修医 検査部 薬剤部	225人
2021.1.18～1.24	正しい検体採取と取り扱い	臨床検査部 BML	看護部 研修医 検査部 薬剤部	221人
資料閲覧および アンケート実施期間 2021.2.8～2.28	2020年度後期医療安全管理研修 テーマ 医療安全管理部門 「患者誤認ゼロをめざして」 医薬品安全管理部門 「睡眠剤について学ぼう」 医療放射線部門 「医療放射線について」	医療安全 管理室 放射線部	全職員	1166人 （受講率 96.1%）

2．広報活動

○医療安全対策ニュース発行および掲示　12回

5月号「MRI検査における注意事項」 作成：放射線部

6月号「モバイルでのバーコード認証について」　　作成：２号棟３階病棟

7月号「センサーの確認徹底」 作成：Ｓ５西病棟

8月号「マスク着用時の心がけ」 作成：リハビリテーション部

9月号「患者確認動作（照合）」 作成：Ｓ３東病棟

10月号「ポンプの設定間違い」 作成：臨床工学課

11月号「適切なナースコールの説明」 作成：Ｓ４西病棟

12月号「チームで患者誤認防止」 作成：医事課

１月号「患者確認動作」 作成：救急センター
２月号「薬の間違いを無くそう」 作成：薬剤部
３月号「整理整頓・５S 活動」 作成：２号棟５階病棟
４月号「安心・安全な医療を守るための３つのこと」 作成：トータルヘルスプラザ
◯公益財団法人　日本医療機能評価機構　医療安全情報の配布および掲示　12 回
◯厚生労働省　医療事故再発に向けた提言の冊子配布およびポスター掲示　３回
４月　提言第 10 号「大腸内視鏡検査等の前処置に係る死亡事例の分析」
提言第 11 号「肝生検に係る死亡事例の分析」
12 月　提言第 12 号「胸腔穿刺に係る死亡事例の分析」
◯緊急医療安全対策ニュース発行　２回
９月「静脈穿刺時の注意事項」
12 月「中心静脈カテーテルの操作について」

３．医療安全推進活動

◯医療安全推進週間活動
テーマ『転倒転落「ゼロ」宣言』と称し、11 月 1 日～ 12 月 31 日までポスターを掲示した。
◯患者誤認対策の強化
患者誤認が減少しない現状から全職員対象にアンケート調査を実施し、その結果を後期医療安全管理研修で報告した。
アンケート実施期間　12 月 16 日～ 1 月 4 日　　アンケート回答率　89.9%
当院の確認動作認知率は 83%。当院の確認動作実施率は 100%。実施から概ね実施の回答率は約 77%であった。
◯ 2020 年度各部署業務改善
毎年チーム会で報告会を実施しているが、今年度は COVID-19 感染対策のため資料を Web 閲覧とした。

カテゴリー	部　　署	テーマ
誤認防止	放射線部	撮影部位の誤認予防
	薬剤部	調剤の間違いを無くそう
	１－２	内服薬患者確認動作実施率　他者評価にて 100%
	S３西	ハイリスク薬使用における表記の工夫とダブルチェックの徹底
	S５西	内服薬の患者誤認防止
	ICU	薬剤の誤認防止
	OR	確認動作（輸血）
転倒防止	２－３	談話室でのコードのつまずきによる転倒を起こさない
	S３東	転ばぬ先の杖から転倒を防ぐ
	筑波総合 CL	クリニック敷地内の転倒防止への取り組み
	医療安全管理室	環境要因の転倒を減らそう！
その他	ME 課	医療機器の時計を調整する
	リハビリ部	インシデント件数を減らす
	２－４	骨折防止を考慮したケア
	２－５	医療事故に対するスタッフの安全意識
	総合外来	化学療法時の投与ルートの明確化
	栄養管理課	髪の毛混入ゼロを目指して

［文責：池澤和人］

転倒転落対策ＷＧ

Ⅰ．目的及び機能

医療安全管理員会の総括のもと、各部署で発生した転倒転落に関する報告から、現場に即したより実効性のある安全対策が実行できる体制の整備に努める。さらに医療安全対策チームにおいて活動を報告し、情報共有することで再発防止を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：森　純子

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	リハビリテーション部	2
医療安全管理室	1	栄養管理課	1
看護部	7	本部・事務部	1
薬剤部	1		

Ⅲ．委員会　開催回数

9 回（COVID-19 感染対策のため、4 月・5 月・8 月の開催は資料のみ配布し、3 月は開催を中止した）

Ⅳ．委員会　協議事項

2020.4.8	COVID-19 感染対策のため資料のみ配付 2020 年度目標と年間計画配布
2020.5.13	COVID-19 感染対策のため資料のみ配付
2020.6.10	5 月の転倒転落報告と検討 「10 月 10 日転倒予防の日」の企画について討議した
2020.7.8	6 月の転倒転落報告と検討 転倒ラウンドの方法について討議した
2020.8.12	COVID-19 感染対策のため資料のみ配付
2020.9.9	8 月の転倒転落報告と検討 2020 年度「転倒予防の日」の企画は、転倒予防ラウンド結果を報告することとした。 コード類の整理方法について討議した
2020.10.14	9 月の転倒転落報告と検討
2020.11.11	10 月の転倒転落報告と検討 「転倒予防の日」の活動報告
2020.12.9	11 月の転倒転落報告と検討 多職種との情報共有を目的として、離床センサーの表示について討議した
2021.1.13	12 月の転倒転落報告と検討 2020 年度医療安全推進習慣企画「転倒転落ゼロ宣言」の結果報告をした
2021.2.10	1 月の転倒転落報告と検討 離床センサーの表示について決定。4 月から開始予定
2021.3.	COVID-19 感染対策のため開催中止とした

Ⅴ．他　活動内容

1．転倒予防ラウンド

環境による転倒リスク改善のために、毎月第２、第４火曜日に入院病棟のラウンドを実施した。

2．10 月 10 日転倒予防の日の啓蒙活動

転倒予防ラウンドの結果をポスターにし、Web で全職員に回覧し、閲覧率は 92%だった。

回覧期間：10 月 5 日～ 10 月 31 日

［文責：森　純子］

医療放射線管理チーム

Ⅰ．目的及び機能

2020 年 4 月 1 日に医療法施行規則の一部改正に伴い、診療用放射線に係る安全管理体制に関する規定が施行され、エックス線装置を備えている病院の管理者は医療放射線安全管理責任者の配置と医療放射線管理委員会の設置、診療用放射線の安全利用のための指針の策定、職員への研修会の開催、被ばく線量管理などが義務化された。

本チームは診療放射線の安全利用に係る管理を目的とし、医療安全管理委員会の総括のもと診療放射線のプロトコル管理、被ばく線量管理、放射線の過剰被ばく、その他の放射線診療に関する事例発生時の対応並びにこれに付随する業務を行う。組織図では医療安全管理委員会の下部組織として構成され、後日、病院運営管理会議で承認申請された。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：鯨岡　結賀

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	放射線部	4
看護部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

1 回

Ⅳ．協議事項

2020.10.19	医療放射線研修の開催について 被ばく線量の管理と記録、撮影プロトコルの見直し 放射線の過剰被ばくとその他の放射線診療に関する事例発生時の対応 『放射線被ばくの説明』の周知について

［文責：鯨岡結賀］

MRI安全管理チーム

Ⅰ．目的及び機能

本チームは筑波記念病院　管理者の諮問により、MRI検査の安全利用に係る管理体制の構築を目的とする。画像診断管理加算の施設基準により公益社団法人日本医学放射線学会、公益社団法人日本放射線技術学会、及び特定非営利活動法人磁気共鳴専門技術者認定機構の定めるMRI検査の安全管理の指針に基づき、適切な安全管理をする。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：高橋　信幸

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	看護部	1
医療安全管理室	1	放射線部	6

Ⅲ．会議　開催回数

1回

Ⅳ．協議事項

2021.2.16	MRI安全管理研修の開催について MRI検査の安全管理に関する運用マニュアルの見直しについて MRI検査に関する事例発生時の対応 『MRIマニュアル』の周知について

［文責：高橋信幸］

感染対策管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院管理者の諮問に基づき設置され、感染対策上の問題点、緊急的事項、疫学的集計結果などを検討する委員会である。病院として行うべき感染対策上の政策を管理者に答申する、感染対策に関する意思決定機関である。

Ⅱ．構成員

◎委員長：佐藤　祐二

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	4	看護部	1
医療安全管理室	1	薬剤部	1
感染管理室	1	臨床検査部	1

Ⅲ．会議　開催回数

9 回（COVID-19 関連により、4 月は書面報告とした。2 月と 3 月は書面なし）

Ⅳ．協議事項

2020.4.30 （中止）	会議の中止により書面報告とした 入院患者の COVID-19 感染者の経緯報告 面会禁止の継続、発熱外来および接触者外来はクリニック北駐車場のコンテナで行う、すべての PCR 検査は BML で行う
2020.5.27	手術などの侵襲的処置前に PCR 検査を実施する N95 マスクは供給不足により滅菌での再利用とする
2020.6.24	7 月 1 日より面会禁止から面会制限に緩和 COVID 抗原検査の導入
2020.7.29	陽性者のメディカルチェックの開始 1 号棟 2 階の 2 床と ICU1 床に陰圧室設置予定 感染症法届出：結核 3 件、レジオネラ症 1 件
2020.8.26	8 月 8 日より面会禁止 コロナ対策チームの発足
2020.9.30	予約入院に PCR、緊急入院に抗原検査の実施 職員の出勤前の体温測定と体調管理の徹底を強化すること
2020.10.28	更衣室や休憩室の感染対策、手指消毒の徹底をすること インフルエンザ予防接種の実施 感染症法届出：レジオネラ症 1 件
2020.11.25	COVID-19 感染者が急増 年末年始の発熱外来は総合外来で実施 アボット核酸増幅法の導入、インフルエンザと COVID 抗原検査の開始 アンチバイオグラムが 6 か月単位で自動作成可能
2020.12.24	COVID-19 の施設や事業所でのクラスター発生によりメディカルチェック件数が増加 外来診療に携わる職員のサージカルマスクやゴーグルの着用、および入院患者のマスク着用の徹底を周知 陰圧室管理開始：1 号棟 2 階 2 床と ICU1 床
2021.1.27	日帰り手術、付き添い家族に PCR 実施 重点医療機関として COVID 患者 8 床、疑い患者 4 床を申請
2021.2 （中止）	COVID クラスター発生により中止 災害対策本部の設置 感染病棟：2 号棟 3 階、S 棟 3 階西、S 棟 3 階東、S 棟 4 階東
2021.3 （中止）	COVID クラスター発生により中止 COVID ワクチン接種

［文責：佐藤祐二］

感染対策チーム

Ⅰ．目的及び機能

感染対策管理委員会に基づき設置され、病院運営上日常的な感染症に関わる業務を協議、担当する。所属部署職員への情報伝達、指導的立場となり、感染対策チームの活動は感染対策管理委員会に定期的に報告される。

Ⅱ．構成員

◎委員長：佐藤　祐二

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	4	臨床工学課	1
医療安全管理室	1	栄養管理課	1
感染管理室	1	本部・事務部	1
看護部	13	つくばトータルヘルスプラザ	1
薬剤部	1	筑波総合クリニック	1
放射線部	1	つくばケアセンター	1
リハビリテーション部	2	委託業者	3
臨床検査部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

10 回（COVID-19 関連により、5 月と 3 月は書面配布とした）

Ⅳ．協議事項

※毎月、監視対象菌、抗菌薬、手指衛生サーベイランス、院内巡視、COVID-19 対策の報告を行った

2020.4.14	3 月入院患者の COVID-19 感染者の経緯報告 全ての PCR 検査は BML で実施 COVID-19 患者は 1 号棟 2 階での対応とする
2020.5.12 （中止）	会議の中止により書面配布 発熱外来と接触者外来はクリニック北駐車場、コンテナにて開始 N95 マスクは供給不足により滅菌での再利用とする
2020.6.9	茨城県のコロナ Net は Stage1 に緩和された 手術などの侵襲的処置前に PCR 検査を実施する
2020.7.14	7 月 1 日より面会禁止から面会制限に緩和 抗原検査の開始
2020.8.11	茨城県の感染者増加、Stage3 に引き上げられたため、8 月 8 日より面会禁止に変更 コロナ対策チームの発足
2020.9.8	予約入院患者に PCR 検査実施
2020.10.13	インフルエンザ予防接種の開始 インフルエンザと COVID 抗原キッドの導入（1 回採取でできる）
2020.11.10	職務中の咬傷事例が増加 アルコール使用量が少ないことが懸念材料である
2020.12.8	11 月より COVID 感染者が増加しているため、体調管理の徹底と有症状の場合、発熱外来受診するよう周知 年末年始の発熱外来は総合外来で実施
2021.1.12	重点医療機関として COVID 患者 8 床、疑い患者 4 床を申請 1 月になり感染者がさらに急増している。外来診療に携わる職員はサージカルマスクとゴーグル着用を推奨した アボット核酸増幅法の導入
2021.2.9	医療従事者から COVID ワクチン接種開始予定
2021.3.9 （中止）	COVID-19 クラスター発生により会議は中止し、書面配布した 3 月上旬 1 回目のワクチン接種を行った 災害対策本部の発足

Ⅴ．他 活動内容

1．感染防止対策加算 1 に係る感染防止対策加算２の施設との合同カンファレンス

※コロナ禍によりリモート会議とした

開催日：7 月 28 日、10 月 6 日、12 月 15 日、3 月 30 日

参加施設：大圃病院、筑波胃腸病院、筑波中央病院

2．感染防止対策加算に係る年４回の合同カンファレンスへオブザーバーとして参加

※コロナ禍によりリモート会議とした

開催日：6 月 4 日、9 月 3 日、12 月 3 日、3 月 4 日

参加施設：筑波大学附属病院、取手北相馬保健医療センター医師会病院、筑波学園病院、守谷慶友病院

3．感染防止対策加算地域連携加算にかかる相互チェック

コロナ禍により施設間の往来ができず中止とした

4．院内ラウンド

1）週 1 回の環境ラウンド

2）毎週木曜日に感染症サーベイランス・抗菌薬適正使用についてミーティング

5．従業員に対する研修

実　施　日	対　象	内　容	参加人数
2020.7.6 ～ 7.12Web 回覧	全職員	2020 年度前期医療安全管理研修：COVID-19 に関する最近の話題	1,244 名（100%）
2020.9.23、9.25	看護補助者	新型コロナウイルス感染症から学ぶ標準予防策、感染経路別予防策を見直そう	22 名
2021.2.8 ～ 2.28Web 回覧	全職員	2020 年度後期医療安全管理研修：新型コロナウイルス感染症の現状と対策	1,166 名（96.1%）

6．サーベイランスの実施

厚生労働省院内感染対策サーベイランス（JANIS）の全入院患者部門、検査部門、手術部位感染（SSI）部門、集中治療室（ICU）部門に参加

7．感染率　（JANIS の定義に基づく）

感染率＝感染症患者数／総入院患者数× 1000

※感染症患者数＝（新規感染症患者数）＋（継続感染症患者数）

※総入院患者数＝（新規入院患者数）＋（前月からの継続入院患者数）

	MRSA	MDRP
感染症患者数	22 件	0 件
感染率	2.05‰	0‰

検出率＝感染症検出患者数／総入院患者数× 1000

感染症検出患者数＝新規感染症患者数で重複を除く

クロストリジウム・ディフィシルは JANIS 対象病原体でないため保菌を含む検出率とする

	クロストリジウム・ディフィシル
検出患者数	38 件
検出率	3.54‰

［文責：佐藤祐二］

労働安全衛生管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

病院職員の危険又は健康障害を防止するための措置の実現に携わり、労働安全衛生のための教育検討をする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤　俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床工学課	1
看護部	1	本部・事務部	4
薬剤部	1	つくばトータルヘルスプラザ	3
放射線部	1	筑波総合クリニック	1
リハビリテーション部	1	つくばケアセンター	1
臨床検査部	1	臨床心理士	1

Ⅲ．会議　開催回数

11 回（うち書面 2 回）

Ⅳ．協議事項

2020.4（書面）	定例報告、1月残業時間について、人間ドックについて、Covid-19について
2020.5（書面）	定例報告、2月残業時間について、ストレスチェックについて、クールビズについて
2020.6.12	定例報告、3月残業時間について、ストレスチェック実施について、ハラスメント防止について、各部署における残業時間の実績
2020.7.10	定例報告、4月残業時間について、職員健康診断について、ストレスチェック結果報告、機能評価役割分担の確認
2020.8.14	定例報告、5月残業時間について、人間ドック未受診者について、職員満足度調査・喫煙に関するアンケートについて、機能評価役割分担について
2020.9.11	定例報告、6月残業時間について、ストレスチェック統計データについて、良い行動を行った職員への表彰について、部署別時間外勤務について、職場復帰マニュアルについて
2020.10.9	定例報告、7月残業時間について、良い行動を行った職員への表彰制度について、インフルエンザ予防接種について、有給休暇取得について、
2020.11.13	定例報告、8月実施済の健康診断について、良い行動を行った職員への表彰について、機能評価の取り組みについて（不審者訓練の実施）
2020.12.11	定例報告、9月残業時間について、喫煙に関するアンケート結果、茨城県仕事と生活の調和推進計画策定・届出事務所認定について
2021.1.15	定例報告、10月残業時間について、不審者対策訓練について、2月職員健康診断について、令和2年度中における職員交通事故発生状況について、職員満足度調査結果報告
2021.2.12	定例報告、11月残業時間について、医師働き方改革について、職場復帰支援マニュアルの見直しについて

［文責：長澤俊郎］

防火防災管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

人為的原因を含む災害が発生した際に筑波記念会の有する機能をできる限り発揮し、被災対応、救護対応、後方対応を的確に行う。そのためにマニュアルを作成し訓練の実施などを通して強化していく。

Ⅱ．構成員

◎委員長：阿部　智一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	本部・事務部	5
看護部	1	つくばトータルヘルスプラザ	1
薬剤部	1	筑波総合クリニック	1
リハビリテーション部	1	つくばケアセンター	1
栄養管理課	1	地域医療連携部	1

Ⅲ．会議　開催回数

２回

Ⅳ．協議事項

2020.12.16	机上消防訓練（消火設備、使用方法の周知徹底）
2021.2.15	机上消防訓練（火災発生時における職員行動フロー、夜間休日緊急連絡網、避難場所の周知徹底）

［文責：阿部智一］

臨床研修管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

研修医の管理及び採用、中断、修了の際の評価等、臨床研修の実施の統括を行う。研修医の評価を行い管理差に対し、当該研修医の評価を報告する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：小關　剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
筑波記念病院	9	日本医科大学付属病院	1
筑波総合クリニック	1	東京医科大学病院	1
つくばケアセンター	1	東京医科大学茨城医療センター	1
筑波大学附属病院	1	福島県立医科大学附属病院	1
JA とりで総合医療センター	1	小豆畑病院	1
水戸済生会総合病院	1	つくば在宅クリニック	1
茨城県立こども病院	1	こだま在宅クリニック	1
ホスピタル坂東	1	茨城県つくば保健所	1
筑波中央病院	1	たいようクリニック（外部委員）	1

Ⅲ．会議　開催回数

２回

Ⅳ．協議事項

2020.11.21	2021 年度筑波記念病院総合研修プログラムについて 2021 年度採用のマッチング結果について 2020 年度院内教育について 2020 年度採用活動について
2021.3.4	2019 年度及び 2020 年度研修医の研修状況について 2020 年度修了予定者一覧（修了判定） 2021 年度研修医採用結果について

［文責：小關　剛］

臨床研修運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

臨床研修のプログラム、臨床研修医の採用計画、研修課程の評価、臨床研修医の服務等、臨床研修医の研修に関する業務全般を司る。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：小關　剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	20	臨床検査部	1
看護部	1	医療相談室	1
薬剤部	1	本部・事務部	2
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2020.4.22	オリエンテーションについて 処方試験及び SSI 操作について 臨床研修評価（EPOC・EPOC2）について 1 年次日当直について
2020.5.25	本チーム会メンバーの一部変更について（救急科、心臓血管外科） 病院説明会について ローテート変更について 学生実習受入れについて 外来研修について 夏休取得について
2020.6.22	本チーム会メンバーの一部変更について（消化器内科） ローテート変更について 医局勉強会について 水戸医学生セミナー（メディカルラリー）の中止について 研修医日当直体制の見直しについて

2020.7.27	2020 年度マッチングスケジュールについて マッチング試験応募者について 臨床研修医個別面談について 国家試験対策について 研修医日当直体制について
2020.8.24	本チーム会メンバーの一部変更について（呼吸器内科） 初期臨床研修医（マッチング）採用試験について 学生病院実習について たすき掛け研修医について 研修医日当直体制について（9 月より新体制）
2020.9.28	当院におけるマッチング順位登録について マッチング中間公表結果報告 筑波大学学生実習について 院内学術集会の開催について 上半期研修報告
2020.10.26	マッチング最終組合せ結果報告 県内のマッチング状況について オンライン病院説明会参加報告 院内学術集会について 研修医救急日当直について 臨床研修管理委員会の開催について
2020.11.30	臨床研修管理委員会について 日当直時のトリアージについて 2 年次研修医の面談実施について 2021 年度採用専攻医について
2020.12.21	年末年始の体制について 2020 年度ローテーション希望調査について
2021.1.25	筑波記念病院学術集会について 臨床研修管理委員会について 当院プログラムにおける責任診療科について 2020 年度専攻医募集状況について
2021.2.25	ローテート変更について 臨床研修管理委員会について 2020 年度活動報告 2 年次研修医修了判定について 責任診療科について
2021.3.22	2 年次研修医の修了について 医師国家試験結果報告について 2021 年度ローテーションについて 2021 年度・年間スケジュール

V．他 活動内容

2020.10.9	レジナビオンライン 2020 東日本（Web 開催）
2021.3.21	茨城県臨床研修合同説明会（Web 開催）

［文責：小關　剛］

医療従事者研修管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

院内外の医療従事者研修事業の推進を図ることを目的とし、それらに係るチームを統括する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤　俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	本部・事務部	3
看護部	2		

Ⅲ．委員会　開催回数

２回

Ⅳ．協議事項

2020.5.18	2020 年度の全体研修・全体講習の開催について
2020.7.20	職員研修運営チームの報告

［文責：長澤俊郎］

職員研修運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

本委員会は、院長からの諮問に基づき、筑波記念病院及び病院関連施設の全職員を対象とした教育研修を目的として、以下のことについて検討し答申する。

（1）全職員を対象とする教育研修会の立案・企画・評価

（2）院内各部門における研修計画の把握と実施状況への評価

（3）地域医療連携公開講座への評価・提言

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤　俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	リハビリテーション部	1
医療安全管理室	1	臨床検査部	1
看護部	1	本部・事務部	3
薬剤部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

３回

Ⅳ．協議事項

2020.4.14	2020 年度職員研修について 初期研修プログラムについて
2020.7.14	WEB サイトに掲載する初期研修プログラムについて
2021.2.9	職員研修について

［文責：長澤俊郎］

地域医療研修運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

地域医療の中核として地域医療従事者の研修事業を積極的に行い、地域医療従事者の研鑽の場の提供と地域医療の質の向上を目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤　俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床検査部	1
看護部	1	栄養管理課	1
薬剤部	1	地域医療連携部	1
放射線部	1	本部・事務部	1
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

１回

Ⅳ．協議事項

2020.7.14	チーム規約の確認、メンバーの確認、コロナ禍における公開講座の開催の形について

Ⅴ．他 活動内容

コロナ禍のため、地域医療連携公開講座の院内開催ができなかった。

ウェブセミナーとして、１回開催

［文責：長澤俊郎］

診療管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

医事・地域医療連携に係る情報の共有、評価、分析を行うとともに、各運営チームでの決定事項の報告、情報周知を目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤　俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	26	臨床検査部	1
看護部	1	栄養管理課	1
薬剤部	1	地域医療連携部	2
放射線部	1	本部・事務部	1
リハビリテーション部	1	臨床工学課	1
ソーシャルワーカー	1	筑波総合クリニック	1
つくばケアセンター	1	トータルヘルスプラザ	1

Ⅲ．会議　開催回数

年 12 回

Ⅳ．協議事項

・医事報告
・地域医療連携報告
・地域医療患者サポートセンター報告
・施設基準充足状況報告
・各委員会からの報告

［文責：長澤俊郎］

救急診療運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

地域住民が生命の危機に瀕したときや、不慮の怪我や病状悪化により、緊急の対応を要したときに、生命を安心して預けられる病院であるよう、救急患者の受け入れと治療に病院全体で総力を挙げる。

Ⅱ．構成員

◎委員長：榎本　強志

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	8	地域医療連携部	1
看護部	2	本部・事務部	3
放射線部	1	筑波総合クリニック	1

Ⅲ．会議　開催回数

10 回

Ⅳ．協議事項

2020.4.17	コロナ感染拡大に伴い中止
2020.5.15	コロナ感染拡大に伴い中止
2020.6.19	発熱患者の今後の取り扱いについて
2020.7.17	CPA 症例について
2020.8.21	救急内科サポート体制について
2020.9.16	再来院後の入院について
2020.10.16	時間外紹介患者受入について
2020.11.20	救急隊聴取後の受入について
2020.12.18	受入表明後のお断りについて
2021.1.15	高エネルギー外傷受入について
2021.2.19	コロナ感染拡大に伴い資料配付のみ
2021.3.19	コロナ感染拡大に伴い資料配付のみ

［文責：榎本強志］

手術部運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

手術室の円滑な運営ができるよう、関連する事項について協議、検討することを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：田島　啓一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	13	臨床工学課	1
看護部	1	本部・事務部	1

Ⅲ．会議　開催回数

年 4 回

Ⅳ．協議事項

2020.7.1	新任医師紹介、4 月から電子カルテシステム導入しての問題点
2020.9.2	電子カルテシステムの手術申し込みについて
2020.11.4	電子カルテシステムの手術入力について
2021.1.6	年末年始の手術報告について

［文責：田島啓一］

ＩＣＵ運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

ICU 病床の円滑な運営を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：末松　義弘

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	6	臨床工学課	1
看護部	3	本部・事務部	2

Ⅲ．委員会　開催回数

４回

Ⅳ．委員会　協議事項

2020.6.12	ICU ベッドコントロールについて
2020.10.19	ICU 稼働率について
2020.12.14	ICU ベッドコントロールについて
2021.2.8	COVID-19 流行下での ICU 運用について

Ⅴ．他　活動内容

重症患者の治療を要する ICU 病床のベッドコントロール及び運用などを協議する場である。2020 年 4 月よりは救急科医師も加わり、より高度な医療を提供できるよう協議を重ねている。

また COVID-19 流行中であり、重症患者用として 1 床を陰圧室として運用開始。人工呼吸器管理を要する状態でも治療が可能となった。

［文責：末松義弘］

シーティング WG

Ⅰ．目的及び機能

本 WG は、リハビリテーション運営チーム規約にもとづいて設置し、リハビリテーション運営チームの統括のもと、シーティング等に関する機器の整備と供給体制の構築を行い、患者・利用者の診療環境の向上を図ることを目的とし、以下を所掌とする。

（1）シーティングが必要な患者・利用者に対し、担当者・部署とともに評価し、助言を行う。
（2）シーティングに関する機器の調査・管理・運営を行う。
（3）シーティングに関する知識・技術の普及を図る。
（4）シーティングに関する取り決めを制定する。
（5）その他、シーティングに関するすべての事柄に対応する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：伊佐地　隆

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	医療相談室	1
医療安全管理室	1	本部・事務部	1
看護部	9	つくばケアセンター	3
リハビリテーション部	9		

Ⅲ．委員会　開催回数

８回

Ⅳ．委員会　協議事項

2020.6.18	研修会・シーティングクリニックの開催、シーティング関連備品購入・備品管理の電カルシステムの活用に関する各議論。各部署現況報告。
2020.7.16	シーティング関連備品に関する情報共有・点検管理に関する議論。各部署現況報告。
2020.8.20	車いす一覧表の作成、シーティング関連備品の購入に関する各議論。各部署現況報告。
2020.9.20	車いす一覧表の作成、シーティング関連備品の購入、車いす点検に関する各議論。
2020.10.15	車いす一覧表の作成、シーティング関連備品の購入、車いす点検に関する各議論。各部署現況報告。
2020.11.19	車いす一覧表の作成、シーティング関連備品の購入、車いす点検に関する各議論。各部署現況報告。
2020.12.17	車いす一覧表の作成、シーティング関連備品の購入、車いす点検に関する各議論。各部署現況報告。
2021.1.21	シーティング関連備品の購入に関する議論。各部署現況報告。

Ⅴ．他　活動内容

１）車いす一覧表の作成（電カル内保存）

２）シーティングに必要な関連備品の調達活動

［文責：伊佐地隆］

病院機能改善管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

医療の質の要素である、診療の質（技術・能力）、設備・機器の質、付帯サービスの質（接遇・その他）、提供体制の質（制度・組織・運営）に関し、各担当から指標となる項目の報告をもらい、さらにこれらの改善に向けての院内での体制を整える。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：鯨岡　結賀

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	4	つくばトータルヘルスプラザ	1
看護部	4	筑波総合クリニック	1
薬剤部	1	つくばケアセンター	1
リハビリテーション部	1	本部・事務部	6
地域医療連携室	1		

Ⅲ．委員会　開催回数

６回

Ⅳ．協議事項

2020.6.15	『医療情報システム管理チーム』、『医療情報システム管理規程』 『医療放射線管理チーム』の承認報告 ＱＣ活動（2020 年度分）募集中止について
2020.7.20	年報（2019 年度）の作成について QC 活動（2019 年度分）ポスター発表について
2020.9.28	QC 活動（2019 年度分）WEB 配信と投票について 病院機能評価受審に向けて（ワーキングチームの発足）
2020.11.16	年報（2019 年度）の完成、ホームページへの掲載について 電子カルテ部門システムの故障時連絡先の作成について
2020.12.21	QC 活動ポスター発表（2019 活動分）の投票結果の報告 QI 項目（医療の質）の見直しについて 非常時のメーカー連絡先・担当者、病院実務担当者一覧の作成
2021.1.18	病院機能評価の『現状調査書』の作成状況、受審月について 『MRI 安全管理チーム』の承認について

［文責：鯨岡結賀］

医療ガスチーム

Ⅰ．目的及び機能

医療法人社団筑波記念会の運営する各事業所における医療ガス設備の管理を行い、患者の安全と災害の未然防止を目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：神山　幸一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	本部・事務部	4
看護部	2	筑波総合クリニック	1
薬剤部	1	委託業者	1
臨床工学課	1		

Ⅲ．会議　開催回数

２回

Ⅳ．協議事項

2020.9.18	医療ガス配管設備保守点検結果報告 人工空気製造装置定期保守点検結果報告 2020.4 月～ 9 月にかけての修理等報告
2021.3.12	医療ガス配管設備保守点検結果報告 人工空気製造装置定期保守点検結果報告 2020.9 月～ 2021.3 月にかけての修理等報

［文責：神山幸一］

がん化学療法運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院における、がん化学療法剤のレジメンの管理（登録、削除、保留）、施用等の適正化を図る。

検討事項：がん化学療法を行うためのレジメン・手技・医薬品の管理、外来化学療法室の運用、その他

Ⅱ．構成員

◎委員長：添田　敦子

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	6	薬剤部	3
看護部	8	本部・事務部	1

Ⅲ．会議　開催回数

５回

Ⅳ．協議事項

2020.6.11	経口抗がん剤の副作用（手足症候群）対策について。がん化学療法マニュアルについて。電子カルテ移行後の運用状況。インシデント報告の共有。インフューザーポンプの不具合。ベッド予約状況。メンバーの変更
2020.8.6	経口抗がん剤の副作用（手足症候群）対策状況。がん化学療法マニュアルについて。ベルケイド皮下注の投与指示について。電子カルテ移行後の運用状況。化学療法室時間外退室者について。インフューザーポンプの不具合。栄養指導検討。化学療法関係インシデント。日本がん治療認定医機構認定研修施設の更新について
2021.10.8	経口抗がん剤の副作用（手足症候群）対策状況。電子カルテ移行後の運用状況。化学療法室時間外退室者について。インフューザーポンプの不具合。日本がん治療認定医機構認定研修施設の更新について。栄養指導検討。化学療法関係インシデント。今年度採用の新規抗がん剤について。委員長および委員の変更について。委員会開催日の変更について
2020.12.7	化学療法関係インシデント。日本がん治療認定医機構認定研修施設の更新について。栄養指導検討 , 抗がん剤投与速度のラベルへの記入について。調製後に中止となった抗がん剤について
2021.2.1	化学療法室時間外退室者について。日本がん化学療法認定医機構。認定研修施設の更新について。栄養指導の啓蒙について。化学療法関係インシデント

［文責：添田敦子］

輸血運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

院内における輸血が安全かつ円滑に行われるための活動の大網を定める事を目的とする。

管理者の諮問機関として、管理者からの諮問事項、輸血療法上の問題点、緊急的検討事項、疫学的集計結果などを検討するチームで、病院として行うべき輸血療法上の方策を管理者に答申する輸血療法に関する意思決定機関である。

Ⅱ．構成員

◎委員長：佐藤　祐二

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床検査部	3
看護部	3	本部・事務部	1
薬剤部	3	委託業者	1

Ⅲ．会議　開催回数

６回

Ⅳ．協議事項

2020.6.10	電子カルテ移行後の問題点について
2020.8.12	輸血前感染症について
2020.9.9	輸血用血液の取り扱いについて
2020.10.14	輸血療法の指針一部改定について
2020.12.9	病院機能評価に向けて
2021.2.10	病院機能評価に向けて

［文責：佐藤祐二］

診療録チーム

Ⅰ．目的及び機能

診療情報ならびに診療録の管理について、総括的に規定し適切な管理を行い、医療の質を確保する。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：田島　啓一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	8	臨床検査部	2
医療安全管理室	1	栄養管理課	1
看護部	3	地域医療連携室	1
薬剤部	1	医療相談室	1
放射線部	1	本部・事務部	6
リハビリテーション部	1	筑波総合クリニック	1

Ⅲ．会議　開催回数

10 回

Ⅳ．協議事項

2020.4.21	心電図モニターの評価について協議
2020.5.19	文書取り込みについて協議
2020.6.16	文書の変更について協議
2020.7.21	文書の更新時期について協議
2020.8.18	外来カルテの抽出について協議
2020.9.15	外来カルテの抽出について協議
2020.10.20	初期研修医の記事への指導医の確認漏れについて協議
2020.11.17	初期研修医の記事への指導医の確認漏れについて協議
2020.12.15	初期研修医の記事への指導医の確認漏れについて協議
2021.1.19	退院要約完成状況報告

［文責：田島啓一］

臨床検査運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

臨床検査部の効率的かつ円滑な運営、管理を図り、あわせて診療の向上に寄与することを目的とする。また当院では、検体検査を外部委託しており、委託業務の実態を評価し、改善を促進する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：井川　昌幸

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	本部・事務部	2
看護部	3	委託業者	1
臨床検査部	4		

Ⅲ．委員会　開催回数

４回

Ⅳ．委員会　協議事項

2020.6.22	①チームメンバー・チーム規約の確認 ②電子カルテの運用状況を確認 ③４月の診療報酬改訂では、一部検査料の減額がある
2020.8.24	①健診施設の検査管理者として検査部主任が新加入予定 ②血液ガスの結果が電子カルテに反映されるためにはオーダー入力が必要。後日入力だと時系列が維持できない
2020.11.30	①新メンバーの紹介 ②新型コロナに関する検査として抗原迅速キットを使用中だが、今後アボット社の ID NOW（PCR に準ずる）を４台導入予定 ③外部精度管理の成績発表 日本臨床衛生検査技師会　・・・検体、生理、細胞は全て【A】評価
2021.3.1	①院内感染対策の観点から、開催中止

Ⅴ．他　活動内容

医療安全チームと共催で WEB 講習会を実施

2021 年 1 月 4 日～ 10 日　　輸血に関する注意事項

2021 年 1 月 11 日～ 17 日　　生理機能検査と医療安全

［文責：井川昌幸］

栄　養　チ　ー　ム

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院栄養チームは、当院における栄養管理業務の適正化をはかるために行う。栄養管理業務を遂行すると同時に、改善が必要な事項については検討し、さらに検討事項の改善、報告を行う。

Ⅱ．構成員

◎委員長：藤田　利枝

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	本部・事務部	2
看護部	2	委託業者	2
栄養管理課	2		

Ⅲ．会議　開催回数

10 回

Ⅳ．協議事項

2020.5	・チーム規約・構成メンバー変更について ・電子カルテ稼働後の問題点 ・2020 年度診療報酬について
2020.6	・インシデント報告 ・栄養指導件数 ・2020 年度の目標について ・感染症使い捨て食器について ・チームペーパレス開催について
2020.7	・インシデント報告 ・栄養指導件数 ・ICU の早期栄養介入について ・経腸栄養剤の新規採用について ・電子カルテの運用について
2020.8	・インシデント報告 ・加算件数報告 ・オンライン栄養指導開始について ・電子カルテの運用について
2020.9	・インシデント報告 ・加算件数報告 ・経腸栄養剤新規採用について
2020.10	・インシデント報告 ・加算件数報告 ・新規採用の経腸栄養剤について
2020.11	・インシデント報告 ・加算件数の報告 ・下膳の際の私物について
2020.12	・インシデント報告 ・加算件数の報告 ・VF 検査食の内容について
2021.1	・インシデント報告 ・加算件数の報告 ・特別加算食の取り扱いについて

2021.2	・インシデント報告 ・加算件数の報告 ・付加食品の検討

［文責：藤田利枝］

栄養サポートチーム（ＮＳＴ）

Ⅰ．目的及び機能

栄養状態を判定し、その患者に最もふさわしい栄養管理を指導・提言することで、患者の治療・回復・退院及び社会的復帰を図る。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：藤原　淳

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	7	栄養管理課	10
看護部	13	本部・事務部	1
薬剤部	2	リハビリテーション部	1

Ⅲ．会議　開催回数

９回

Ⅳ．協議事項

2020.6	加算報告　チーム振り返り　2020 年度の振り返り　電子カルテの問題点
2020.7	加算報告　各病棟の引き継ぎ　中長期計画　勉強会（NST とは）
2020.8	加算報告　勉強会（経腸栄養剤）今後の勉強会のテーマ　各病棟スクリーニング基準
2020.9	加算報告　勉強会（栄養学の歴史）　栄養サポート研究会　スクリーニング統計
2020.10	加算報告　栄養サポート研究会報告　勉強会（摂食嚥下と NST） 経管チューブ接続部国際基準化
2020.11	加算報告　（臨床に対する評価方法）スクリーニング統計 経管チューブ変更スケジュール
2020.12	加算報告　勉強会（静脈栄養法）スクリーニング統計 経管チューブ変更スケジュール
2021.1	加算報告　勉強会（栄養補助食品）スクリーニング基準と統計 経管チューブ変更スケジュール
2021.2	加算報告　勉強会（重症患者に対する栄養選択）スクリーニング基準と統計

Ⅴ．他 活動内容

１．適切な栄養評価
２．栄養管理の指導・提言
３．栄養管理に伴う合併症の予防・早期発見・治療
４．資源・素材の省力化

5．各チームとの相互協力
6．病院スタッフへの知識の習得
※週６回のカンファレンス
※毎月１回のチーム会議の開催
※ web への参加
※つくば栄養サポート研究会世話人会への参加

［文責：藤原　淳］

摂食嚥下ケアチーム

Ⅰ．目的及び機能

1．各病棟で選出された患者の回診を行い、方向性や検査の必要性を検討し提案する
2．摂食嚥下訓練の指導・助言
3．摂食嚥下障害に伴う合併症の予防・早期発見・治療
4．資源・素材の省力化
5．各委員会との相互協力
6．病院スタッフへの知識の提供

Ⅱ．構成員

◎委員長：海老原　一彰

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	リハビリテーション部	2
看護部	13	栄養管理課	2
薬剤部	3	本部・事務部	1

Ⅲ．会議　開催回数

９回

Ⅳ．協議事項

2020.4	開催なし
2020.5	開催なし
2020.6	今年度のチーム方針について 各部署報告、検討事項提案 摂食嚥下カンファレンス、回診患者スクリーニング
2020.7.10	各部署報告、検討事項提案 各チーム進捗状況報告 摂食嚥下カンファレンス、回診患者スクリーニング
2020.8.14	各部署報告、検討事項提案 各チーム進捗状況報告 摂食嚥下カンファレンス、回診患者スクリーニング

2020.9.11	各部署報告、検討事項提案 各チーム進捗状況報告 摂食嚥下カンファレンス、回診患者スクリーニング
2020.10.9	各部署報告、検討事項提案 各チーム進捗状況報告 摂食嚥下カンファレンス、回診患者スクリーニング
2020.11.13	各部署報告、検討事項提案 各チーム進捗状況報告 摂食嚥下カンファレンス、回診患者スクリーニング
2020.12.11	各部署報告、検討事項提案 各チーム進捗状況報告 摂食嚥下カンファレンス、回診患者スクリーニング
2021.1.8	各部署報告、検討事項提案 各チーム進捗状況報告 摂食嚥下カンファレンス、回診患者スクリーニング
2021.2.12	各部署報告、検討事項提案 各チーム進捗状況報告 摂食嚥下カンファレンス、回診患者スクリーニング
20201.3,12	開催なし

Ⅴ．他 活動内容

・摂食嚥下カンファレンスの必要な患者をスクリーニングし、カンファレンスと回診を行う
・院内の摂食嚥下に関する治療がスムーズに実施できるよう WG の活動を行う
・職員に対し、摂食嚥下の知識や技術の向上を目指した勉強会を開催する
・必要時は、NST、褥瘡チーム、緩和ケアチーム、栄養チームに協力依頼を行う
・嚥下評価者、摂食機能療法算定者の把握をする

［文責：海老原一彰］

褥瘡対策チーム

Ⅰ．目的及び機能

褥瘡対策委員会は、院内における褥瘡予防を周知させることで、褥瘡発生を減少させ、かつ、発生した褥瘡に対しては､的確な対応ができることを目標とする｡医療スタッフが連携し､協力して行う｡チーム医療を基本とし､褥瘡対策の強化と早期治療の促進を図るため病院全体で取り組む。

Ⅱ．構成員

◎委員長：照沼　篤

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	栄養管理課	1
看護部	12	薬剤部	1
リハビリテーション部	2		

Ⅲ．委員会　開催回数

11 回

Ⅳ．委員会　協議事項

2020.4.1	褥瘡回診エアマットの使用状況確認　委員会は開催せず
2020.5.13	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 新人教育について　オスカーの使用について （看護部のみ）
2020.6.3	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 エアマットの使用方法について（スタッフへの知識） （看護部のみ）
2020.7.1	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報 研修について
2020.8.5	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 エアマット「利楽」取り扱いについて
2020.9.2	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 全体研修について　インシデント報告について
2020.10.7	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 エアマット使用時のコード整理について メピレックスボーダーについて
2020.11.4	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・全体研修について ・エアマット管理について
2020.12.2	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告
2021.1.6	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・記録の評価ラウンド ・ブレーデンスケール 12 月 12 点、14 点以下の人数報告
2021.2.3	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・記録の評価ラウンド ・ブレーデンスケール 1 月 12 点、14 点以下の人数報告

Ⅴ．他 活動内容

褥瘡リスク状態の患者に対して予防管理していく。

リスクのある患者に対してチームで関わり、予防策を検討、実施し、NST、シーティングチームと連携し、早期から褥瘡リスク予防を行う。

［文責：照沼　篤］

クリティカルパス・ＤＰＣチーム

Ⅰ．目的及び機能

院内におけるクリティカルパスの普及を目指す。

クリティカルパスの作成方法・運用方法を啓蒙し、指導する。

バリアンス評価の方法を啓蒙し、指導する。

効率のよい標準的治療を目指し、質の高い診療を普及させる。

Ⅱ．構成員

◎委員長：池澤　和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	4	栄養管理課	1
看護部	2	地域医療連携室	1
薬剤部	1	本部・事務部	3
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

４回

Ⅳ．協議事項

2020.6.16	電子パスの変更方法について
2020.8.18	電子パス導入後の運用について
2020.10.20	電子パスの問題点、カルテ開示時の電子パスについて
2020.12.15	病棟・診療科別におけるパス利用率について

［文責：池澤和人］

緩和ケアチーム

Ⅰ．目的及び機能

病気や治療に伴う身体的･精神的苦痛の緩和、家族ケア、療養場の相談、栄養相談について、コンサルテーションと回診を多職種で行い、主治医と病棟スタッフと連携をとり、患者とその家族がよりよい状況で治療を受け、その人らしい生活が送れるよう支援することを目的とする。

（１）外来診療

・毎週木曜日に緩和ケア外来を設ける。

・オピオイドや鎮痛補助薬、制吐薬、向精神薬などの内服の調整、自宅療養においてのアドバイスを行い、症状緩和を図り QOL の向上を図る。

・患者 / 家族とのコミュニケーションを通じて、自宅療養の不安を取り除き、心理精神面、社会的な面を支えていく。

（2）コンサルテーションと回診

・各診療科から、入院患者に関する相談を緩和ケアチームとして受ける。

・毎週木曜日の緩和ケア外来終了後より、緩和ケアチーム回診を実施する。

・疼痛コントロール、精神状態の緩和、家族ケア、療養場の相談、栄養相談、等について回診を行い、主治医、病棟スタッフと連携し、よりよい状況で治療が行えるよう支援する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長岡　広香

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	リハビリテーション部	2
看護部	12	栄養管理課	1
薬剤部	2		

Ⅲ．会議　開催回数

緩和ケア委員会　2ヶ月毎　全3回

Ⅳ．協議事項

2020.5	緩和ケア委員会　開催なし
2020.7.30	緩和ケア委員会　WG話し合い エンゼルケアセットの統一・説明・配布
2020.9.24	緩和ケア委員会　WG話し合い　事例検討
2020.11.26	緩和ケア委員会　WG話し合い　事例検討
2021.1	緩和ケア委員会　開催なし
2021.3	緩和ケア委員会　開催なし

Ⅴ．他 活動内容

1．緩和ケアチーム回診　週1回　病棟回診199件　カルテ回診4件　外来3件

2．緩和ケアマニュアルの見直し

3．より良いエンゼルケアの提供のため、勉強会を開催、エンゼルケアセットを統一し各病棟へ配布

4．新型コロナ感染症患者の看取りのケアについての情報提供

［文責：高橋久美子］

地域医療サービスチーム

Ⅰ．目的及び機能

地域医療展開に関する医療サービスの充実、状況把握の調査・改善、環境整備などを目的に活動する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：谷中　清之

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	臨床工学課	1
看護部	2	栄養管理課	1
薬剤部	1	地域医療連携室	1
放射線部	1	本部・事務部	4
リハビリテーション部	2	筑波総合クリニック	1
臨床検査部	1	委託業者	1

Ⅲ．会議　開催回数

５回

Ⅳ．協議事項

2020.7.17	2020 年度活動予定及び構成員の確認。規約の見直し ご意見箱の投書対応（4 月 10 件、5 月 2 件、6 月 5 件、7 月 3 件）　環境整備の報告
2020.9.17	2020 年度活動予定及び構成員の確認。規約の見直し ご意見箱の投書対応（8 月 3 件、9 月 4 件）　環境整備の報告
2020.10.15	ご意見箱の投書対応（10 月 2 件）　QC 活動報告
2020.11.19	ご意見箱の投書対応（11 月 3 件）　環境整備の報告
2021.1.21	ご意見箱の投書対応（12 月 5 件、1 月 5 件）　環境整備の報告

※投書総数 47 件（ご要望 37 件。その他 10 件。）

Ⅴ．他　活動内容

・患者さんからのご意見（「ご意見箱」投函内容）に対する事実確認と対策協議。（毎月）

・院内巡視報告（奇数月）

2020 年 11 月　傘立て整理、職員駐輪場　放置自転車撤去作業の実施。

2021 年　1 月　S 棟 1 階内視鏡前にカーブミラーを設置。

［文責：谷中清之］

企画広報運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

本チームは、病院長の諮問に基づき、以下のことを検討し答申することを目的とする。

（1）院外広報誌の制作と配布に関すること。

（2）病院パンフレット、入院案内の制作に関すること。

（3）WEB サイトに関すること。

（4）その他、広報活動全般に関すること。

Ⅱ．構成員

◎委員長：池澤　和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	2	本部・事務部	6
看護部	1	つくばトータルヘルスプラザ	1
放射線部	1	つくばケアセンター	1
リハビリテーション部	2		

Ⅲ．会議　開催回数

７回

Ⅳ．協議事項

2020.5.11	チーム規約とメンバー変更について 記念樹つくば Vol62 発行について 記念樹つくば Vol63 企画
2020.6.8	記念樹つくば Vol63 進捗報告 WEB サイトについて
2020.8.17	記念樹つくば Vol63 進捗報告 記念樹つくば Vol64 企画 WEB サイトについて
2020.9.14	記念樹つくば Vol63 進捗報告 記念樹つくば Vol64 企画 WEB サイトについて
2020.10.12	記念樹つくば Vol64 企画 WEB サイトについて
2020.12.14	記念樹つくば Vol64 進捗報告 記念樹つくば Vol65 企画 WEB サイトについて
2021.2.8	記念樹つくば Vol65 企画 40 周年記念誌について WEB サイトについて

Ⅴ．他 活動内容

2020.4	記念樹つくば Vol62 発行
2020.10	記念樹つくば Vol63 発行
2021.1	記念樹つくば Vol64 発行

［文責：池澤和人］

倫　理　委　員　会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院及びその職員が行う臨床研究及び職域内の規制等について、ヘルシンキ宣言の趣旨に沿って審議し、倫理的配慮を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：神山　幸一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	8※	本部・事務部	1
看護部	1	外部委員	1
薬剤部	1		

※診療部の構成員に病院長が含まれるが、病院長は採決評議には参加できない。

Ⅲ．会議　開催回数

通常開催　10 件　　簡易倫理審査（書類審査）　13 件

Ⅳ．協議事項

通常審査

2020.5.22	救急初療室における COVID-19 の診断予測研究
2020.6.2	新型コロナウイルス感染症の遺伝的知見に基づいた COVID-19 ワクチンの開発と評価系の構築
2020.6.2	高齢者施設での新型コロナウイルス感染症の観察研究
2020.7.7	行動変容ステージと自己効力感が栄養食事指導の効果に与える影響
2020.10.14	COVID19 感染症の診療にあたる医療従事者の保護対策の確立に向けた研究 研究 2 医療従事者の精神的ストレス要因解明とストレス軽減方法の開発
2020.10.27	医療従事者の新型コロナウイルス感染抵抗性についての検討
2020.12.9	破裂性腹部大動脈瘤に対する開腹手術とステントグラフト内挿術の治療選択に関する全国多施設観察研究　［登録番号 H30-01-01］一部計画変更
2021.3.5	COVID-19 の院内アウトブレイクに対するワクチン接種による予防効果と安全性の検証
2021.1.26	ウェアラブルデバイスを用いた非心原性脳梗塞患者における生体電位の観察研究
2021.11.20	大規模診療情報データベースを用いた新型コロナウイルス感染症患者の医療実態に関する記述疫学研究

簡易審査

2020.4.7	心臓血管外科領域における睡眠呼吸障害（Sleep Disordered Breathing ; SDB）への新しい治療体型の構築　～持続的抑圧呼吸療法（continuous positive Airway pressure ; CPAP）アドヒアランス不良例に対する側臥位睡眠療法（position therapy ; PT）の有効性の検討～
2020.4.8	「造血細胞移植および細胞治療の全国調査」への症例登録
2020.4.8	COVID-19 に関するレジストリ研究
2020.4.8	ファビピラビル等の抗ウイルス薬が投与された COVID-19 患者の背景因子と治療効果の検討
2020.5.19	C 型肝炎に対するソホスブビル / ベルパタスビル治療の有効性に関する北関東多施設共同研究（2019 年 7 月 11 日承認）の研究計画書の変更
2020.8.18	特発性脳脊髄減少症に対する硬膜外持続生理食塩水注入療法の後方視的解析
2020.8.25	学会報告　第 85 回　日本循環器学会　「凝固線溶系マーカー異常と急性大動脈解離の関係」
2020.9.1	学会報告 121 回　日本外科学会学術総会「B 型大動脈解離の治療時期についての検討」
2020.9.10	学会報告　第 6 回　NP 学会 学術集会　「当院における心臓血管外科 NP 導入によるアウトカムへの影響」

2020.12.1	学術誌発表　学会報告　第６回　NP 学会 学術集会 「当院における心臓血管外科 NP 導入によるアウトカムへの影響」
2021.1.19	学会報告［脳梗塞患者における早期食事開始指示への影響因子：DPC データを用いた xgboost による feature importance 分析］ 論文投稿雑誌「European Journal of Clinical Nutrition」Effect of early nutritional initiation on post-stroke discharge destination: a propensity-matched analysis using a machine learning model
2021.1.19	学会報告［機械学習を用いた傾向マッチング解析による退院後転帰に及ぼす早期栄養の因果検証］ 論文投稿雑誌「European Journal of Clinical Nutrition」Effect of early nutritional initiation on post-stroke discharge destination: a propensity-matched analysis using a machine learning model
2021.2.8	「Japan Atherosclerosis Society Cohort Study　脂質異常症を合併した一次予防患者における動脈硬化性疾患発症に関する観察研究　2016 年の実施計画書から第 2.1 版（2020 年 7 月 28 日）への更新」

［文責：神山幸一］

査定対策委員会

Ⅰ．目的及び機能

医療行為が保険診療に則って適正になされているか把握し指導する。適正な診療報酬請求を遂行すると同時に、改善が必要な事項については検討・改善し報告を行う。

Ⅱ．構成員

◎委員長：飯田　要

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	リハビリテーション部	1
看護部	1	臨床検査部	1
薬剤部	1	栄養管理科	2
放射線部	1	事務部	1

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

1）診療報酬明細書の査定・返戻に関すること。
2）診療報酬改定に関すること。
3）保険医療機関及び保険医療養担当規則に関すること。
4）その他。

［文責：飯田　要］

薬　事　委　員　会

Ⅰ．目的及び機能

医薬品の選定、購入、配布及び施用等の適正化を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：飯田　要

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	4	薬剤部	3
看護部	1	本部・事務部	1

Ⅲ．会議　開催回数

５回

Ⅳ．協議事項

2020.7.6	新規医薬品採用審議　８件 委員の変更について 後発医薬品への切り替えについて
2020.9.7	新規医薬品採用審議　５件 経過措置終了薬剤の対応について
2020.11.2	新規医薬品採用審議　５件 今年度のインフルエンザワクチン接種について
2020.12.7	新規医薬品採用審議　５件 後発医薬品への切り替えについて
2021.2.1	新規医薬品採用審議　４件

Ⅴ．他 活動内容

以下の事項を審議する

１）医薬品採用の可否に関すること

２）医薬品の適正な使用及び管理に関すること

３）陳旧医薬品の取り扱いに関すること

４）医薬品の副作用等の情報に関すること

５）薬局業務に関すること

６）その他薬事に関すること

［文責：垣内祥宏］

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

筑波総合クリニック

【総括】

2020年度は4月からオーダリングシステムに代わり、電子カルテを導入した。大きなトラブルや混乱も無く、各部門の協力を得て比較的スムーズに移行することができた。また、診療報酬改定もあったがクリニックに係る大きな改定は無かった。

新型コロナウイルス感染が拡大し、待合ホール全体や車椅子などの備品に光触媒による除菌・抗菌のコーティングを施工するなどの感染防止対策を実施。また、発熱外来を院外の施設で開始したが、全体的に外来患者数は感染拡大の影響で昨年度に比べ減少に転じた。

2021年度も感染防止を徹底していくとともに、患者さんファーストで対応していきたい。

［文責：大坂恒司］

【業務実績】

外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般内科	147	134	232	209	276	233	180	205	211	193	208	194	2,422
一般外科	1	6	4	5	4	2	3	2	3	7	7	4	48
眼科	734	791	993	982	792	993	985	908	964	861	834	973	10,810
形成外科	157	207	257	272	343	333	297	252	288	274	294	199	3,173
血液内科	178	203	225	199	205	202	216	221	240	219	194	185	2,487
呼吸器内科	312	296	363	397	360	396	412	344	422	395	340	407	4,444
呼吸器外科	96	88	147	121	106	124	142	163	156	131	150	123	1,547
耳鼻咽喉科	595	546	767	855	697	762	781	719	746	693	724	733	8,618
循環器内科	1,947	1,736	2,159	2,201	1,842	2,111	2,023	1,724	2,107	2,025	1,787	2,367	24,029
消化器内科	850	846	1,100	1,189	1,122	1,156	1,206	1,073	1,253	998	1,057	1,050	12,900
消化器外科	313	314	406	392	469	449	455	492	472	428	406	311	4,907
小児科	112	111	209	195	231	254	234	225	247	191	182	221	2,412
神経内科	259	211	263	282	248	270	299	243	320	298	244	290	3,227
心臓血管外科	238	193	276	278	245	292	220	190	237	234	214	236	2,853
腎臓内科	91	85	103	100	96	96	105	89	122	101	71	83	1,142
整形外科	1,484	1,453	1,971	2,006	1,842	1,882	1,900	1,710	1,969	1,852	1,666	1,632	21,367
精神科	377	321	399	371	353	371	342	324	351	301	280	304	4,094
糖尿病・内分泌代謝内科	811	880	1,001	945	1,003	908	1,017	863	1,054	936	846	1,018	11,282
乳腺甲状腺科	203	211	304	310	275	308	360	260	320	274	272	179	3,276
脳神経外科	967	969	1,255	1,181	1,124	1,077	1,229	1,014	1,215	1,086	1,000	1,179	13,296
泌尿器科	293	344	409	377	355	392	409	379	453	403	338	446	4,598
皮膚科	273	315	401	438	453	440	418	387	438	375	330	248	4,516
婦人科	454	579	744	774	703	684	845	731	788	675	701	684	8,362
もの忘れ科	16	25	48	70	65	78	98	76	102	105	98	136	917
リウマチ・アレルギー科	303	302	292	330	311	354	332	297	292	271	224	245	3,553
小児外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6	10	18
合計	11,220	11,195	14,350	14,479	13,520	14,167	14,508	12,891	14,770	13,328	12,473	13,457	160,358

【人事】

氏　名	役　　職	診　療　科	勤　務
小林　栄喜	筑波総合クリニック名誉院長	脳神経外科	常（CL）
飯田　　要	筑波総合クリニック管理者	循環器内科	常（CL）
飯田　啓治	筑波総合クリニック副院長	循環器内科	常（CL）
藤田　利枝		糖尿病・内分泌代謝内科	常（CL）
鯵坂　隆一		循環器内科	非（CL）
戸村　成男		腎臓内科	非（CL）
向井　直樹		整形外科	非（CL）
品川　樹美		眼科	非（CL）
宮川恵美子		小児科	非（CL）
金森　章浩		整形外科	非（CL）
竹越　一博		糖尿病・内分泌代謝内科	非（CL）
佐藤　博明		脳神経外科	非（CL）
三島　　初		整形外科	非（CL）
堀米　ゆみ		小児科	非（CL）
宮内　　卓		循環器内科	非（CL）
竹田　一則		小児科	非（CL）
岩井　武尚		心臓血管外科	非（CL）
原　　尚人		乳腺甲状腺外科	非（CL）
近藤　裕也		リウマチ・アレルギー科	非（CL）
松田ひとみ		糖尿病・内分泌代謝内科	非（CL）
松島　照彦		糖尿病・内分泌代謝内科	非（CL）
石垣　直美		糖尿病・内分泌代謝内科	非（CL）
寺田　　真		神経内科	非（CL）
相吉　悠治		乳腺甲状腺外科	非（CL）
松野　洋輔		呼吸器内科	非（CL）
東田　俊彦	顧問	内科	非（CL）
白岩　伸子		神経内科	非（CL）
下田　　貢		消化器外科	非（CL）
内田　将央		泌尿器科	非（CL）
本田　文香		リウマチ・アレルギー科	非（CL）
橋本　幸枝		乳腺甲状腺外科	非（CL）
井上　堯文		心臓血管外科	非（CL）
兵頭康次郎		整形外科	非（CL）
角田　亮也		腎臓内科	非（CL）
佐藤　允之		脳神経外科	非（CL）
長尾　　剛		泌尿器科	非（CL）
中村　貴之		皮膚科	非（CL）
宮本　信也		小児科	非（CL）
岡田　充生		泌尿器科	非（CL）
戸泉　　篤		消化器外科	非（CL）
松村　　裕		皮膚科	非（CL）
會田　有香		内科	非（CL）
松尾　知平		乳腺甲状腺外科	非（CL）
安部　佳亮		血液内科	非（CL）
三橋　　泉		神経内科	非（CL）
増田　洋亮		脳神経外科	非（CL）
佐々木啓太		乳腺甲状腺外科	非（CL）
松村　文明		血液内科	非（CL）
明星　里沙		形成外科	非（CL）
岡崎　直人		消化器外科	非（CL）
頴川　　晋		泌尿器科	非（CL）
福田　智史		消化器内科	非（CL）
辻　　実季		消化器内科	非（CL）
髙塚　正己		呼吸器外科	非（CL）
高橋　和宏		泌尿器科	非（CL）
樋口　久貴		泌尿器科	非（CL）
田沼光三郎		泌尿器科	非（CL）
髙野　祐樹		消化器外科	非（CL）
福薗　真生		皮膚科	非（CL）
筋野　博喜		消化器外科	非（CL）
占部　文彦		泌尿器科	非（CL）
有働竜太郎		消化器外科	非（CL）
松原　脩也		泌尿器科	非（CL）
熊谷　尚子		糖尿病・内分泌代謝内科	非（CL）

つくばトータルヘルスプラザ

【総括】

1．2020 年度の実績報告

2020 年度は年間を通し新型コロナウイルス感染症の影響が強く、前年度に比べ人間ドック 6.3%、院内健診 2.8%、巡回健診 7.0%、全体で 5.4%の受診者数減少となった。特に 4 月 5 月に発出された緊急事態宣言により 4 月 5 月の受診者数は 73.4%の減少となった。緊急事態宣言後は徹底した感染症予防対策、また、密にならないよう人数をコントロールしながら受診していただくよう心掛け、徐々に受診者数が回復した。呼吸機能検査は感染拡大防止の観点から年間を通し実施することができなかった。

フェニックスにおいては、新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言等の影響により、4 月 5 月の閉館を余儀なくされた。6 月から営業を再スタートさせ、営業時間の短縮、利用時間を最大 75 分とし予約優先制とするなど営業スタイルを変更した。8 月からは利用時間を最大 90 分に拡大させたが来館者数は大幅に減少したまま回復することなく、2019 年度に比べて 83.2%の減少となった。

学会活動については、今年度学会発表することができなかった。講演活動については、例年に比べ回数は減少したものの、医師、理学療法士、トレーナー等が継続して行った。

2．2021 年度の課題・目標

安心安全な人間ドック健康診断を受診していただけるよう引き続き感染症予防対策を徹底して行い、呼吸機能検査も再開実施できるようにしたい。フェニックスでは運動から離れてしまった方々に再度運動を始めてもらえるよう広報活動に力を入れていきたい。学会活動については、日本総合健診医学会または日本人間ドック学会に演題発表を行っていく。講演活動については講演回数を増やしていきたい。

［ 文責：風野和之 ］

【人事】

氏　名	役　　職	診　療　科	勤　務
中原　　朗	つくばトータルヘルスプラザ施設長	消化器内科	常（HP）
山根　一秀	つくばトータルヘルスプラザ顧問	リウマチ・アレルギー科	常（HP）
本橋　　歩	つくばトータルヘルスプラザ副施設長	消化器内科	常（HP）
小松あかね	つくばトータルヘルスプラザ副施設長	婦人科	常（HP）
設楽佐代子		消化器内科	常（HP）
清水　郁子		糖尿病・内分泌代謝内科	常（HP）
岡田　純代		糖尿病・内分泌代謝内科	非（THP）
丸山ゆみ子		血液内科	非（THP）
坪井　宥璃		血液内科	非（THP）
安部　佳亮		血液内科	非（THP）
吉澤　有紀		血液内科	非（THP）
大平　菜月		血液内科	非（THP）
宮内　　卓		循環器内科	非（THP）
芳賀　厚子		循環器内科	非（THP）
一戸　貴子		循環器内科	非（THP）
中森　　容		消化器内科	非（THP）

福田由紀子		消化器内科	非（THP）
岡田　純代		代謝内科	非（THP）
金津　赫生		内科	非（THP）
島　さつき		内科	非（THP）
廣瀬　千尋		内科	非（THP）
柳　　久子		内科	非（THP）
小川　英恵		内科	非（THP）
中村　優子		婦人科	非（THP）
小竹　文雄		放射線科	非（THP）

【業務実績】

人間ドック、健康診断受診者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人間ドック	日帰り	609	382	1,049	1,036	1,116	1,139	1,285	1,084	1,217	944	918	663	11,442
	一泊	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
	脳ドック	3	13	30	24	38	38	51	32	25	30	34	12	330
	レディース	0	5	22	27	28	25	37	24	31	34	30	83	346
ドック		772	612	387	1,078	1,070	1,158	1,176	1,337	1,112	1,258	985	953	747
院　内		454	141	296	1,229	1,538	1,520	1,474	1,755	1,694	1,722	1,553	1,445	1,202
巡　回		4,372	326	774	1,515	2,316	2,134	1,952	2,169	2,469	2,366	293	467	1,092

検査別実施件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
胃内視鏡検査	231	149	284	341	339	336	375	322	356	308	321	308	3,670
乳腺エコー検査	243	118	419	507	567	531	661	560	625	575	559	466	5,831
マンモグラフィ検査	89	68	363	427	427	460	535	460	512	424	405	202	4,372
子宮細胞診検査	163	137	593	733	742	822	929	818	856	748	737	493	7,771

部位別精検指示及び実施者数

		胃部X線	胃内視鏡	胸部X線	心電図	便	腹部超音波	乳房	子宮細胞診
精検指示者数	2019年度	998	145	595	577	1,376	347	345	108
	上半期	297	56	217	253	574	124	150	35
精検実施者数	2019年度	427	107	336	73	667	288	222	85
	上半期	139	47	107	54	293	106	103	30

フェニックス延べ来館者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	322	451	460	508	617	563	505	502	486	440	4,854

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
本橋歩	メンタルヘルス講習会 ～職場におけるパワーハラスメントを考える～	講演（企業）	八千代	2020.6
中原朗	コロナ禍における家庭での注意事項 ・家族感染の注意事項 ・コロナ禍におけるお勧めの食事・運動など	講演（企業）	つくば	2020.10
本橋歩	健康セミナー ・2020年度健康診断結果報告 ・睡眠時無呼吸症候群 ・適正な塩分摂取量	講演（企業）	つくば（現地＋Ｗｅｂ）	2020.11
中原朗	感染症流行情報	講演（企業）	つくば（現地＋Ｗｅｂ）	2021.1
二瓶久美子	ストレッチ、エアロビクス、ピラティス	出張指導（団体）	下妻	2020.6 ～ 2021.3 （計 19 回）
宮原悟、古徳卓也	集団でのボール運動、模倣ゲーム、ストレッチ体操等	出張指導（市町村）	つくば	2020.7 ～ 2021.3 （計 8 回）
宮原悟、雨澤隆穂、二瓶久美子	体力測定　・　20～50歳代	出張指導（企業）	つくば	2020.10（計 2 回）
塚田優子	シルバーリハビリ体操指導士養成講習会	出張指導（団体）	水戸	2020.10（計 3 回）

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

介護老人保健施設　つくばケアセンター

【総括】

1．2020 年度の実績

2020 年度は、当施設では加算型から在宅強化型へ移行することを目標として運営に取り組んできたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、全てのサービスが影響を受けた。利用者数は、前年比で入所では約 1%、ショートステイでは約 30%、通所リハビリテーションでは約 7%、訪問リハビリテーションでは約 8%の減少となった。

2．2021 年度の課題・目標

各サービスとも感染症予防を徹底して行う。入所は、現在もリモートでの面会のみとなっており、ご利用者とご家族のふれあいが絶たれ、絆が薄れてきている。2021 年度は、少しでもご利用者とご家族のふれあいを増やす方法を考えたい。また、97 床～ 98 床の安定的なベッド稼働率を維持し、空きベッドをショートステイで利用して行くこととする。通所では、新規利用者を増やし、利用者数 1 日平均 30 名を目標とする。訪問リハビリでは、リハビリマネジメント加算（A）（B）を 1 件でも多く算定できるようにする、また、医師の診療を増やし、計画診療未実施減算を減らしたい。そして、日々の安全運転を心がける。

［文責：磯山誠次］

【業務実績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
入　　所	98	98	100	100	97	99	100	99	102	98	99	98	1,188
ショートステイ（予防含む）	5	7	10	14	14	14	15	11	14	14	15	14	147
通所リハビリ（予防含む）	57	73	98	99	94	99	96	93	88	87	86	81	1,051
訪問リハビリ（予防含む）	222	242	280	286	288	289	301	300	300	306	303	291	3,408

【資格保有者数】

看護師	12 名
准看護師	4 名
介護福祉士	28 名
社会福祉士	2 名
ケアマネジャー	6 名
ヘルパー 2 級	0 名
理学療法士	27 名
作業療法士	9 名
言語聴覚士	4 名

（2020 年 4 月 1 日現在）

【年間行事】

	行事内容	備　　考
4 月	お花見会	
5 月	母の日会	
6 月	父の日会	
7 月	七夕会	
9 月	祝寿会	
10 月	運動会	
11 月	秋祭り	
12 月	クリスマス会	
1 月	新年会	
2 月	豆まき会	
3 月	ひなまつり会	

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

つくば訪問看護ステーション

【総括】

1．2020 年度の実績報告

2019 年 8 月より桜川出張所新設したが、職員の確保困難、エリアの整備不十分で、効率が良くなく、結果が振るわなかった。看護師 8 名（管理者含む）、作業療法士 2 名（法人内兼務）、事務 1 名（医事課兼務）と職員数減し、実質稼働停止している状態。コロナ禍にて訪問件数が伸び悩む中、職員の育成、エリアの整理、電子端末の整備等の課題を検討しながら、訪問看護事業拡大に向けて積極的に基盤作りを行っている。

病床数の縮小や感染症対策重視の医療情勢の中、在宅医療への転換が提唱され、その中で訪問看護は重要な役割を担っている。地域の方々のニーズに応えるために、今後の訪問看護運営を変革していく必要がある。

2．2021 年度の課題・目標

訪問看護事業拡大に向け、積極的に基盤作りを行う。

その人なりの在宅療養が継続できるよう、自立支援、生活指導、相談を重視し、質の高い訪問看護を実践する。

主治医、地域の医療福祉関係者との連携を密にしていく。

レスパイト入院等、介護者の負担軽減に努め、地域包括ケア病棟と密接な連携を図る。

訪問件数の目標は 6,500 件以上を目指す。

［文責：市川理恵子］

【業務実績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2019 年度延べ訪問件数	448	476	461	510	496	476	553	520	522	525	509	506	6,002
2020 年度延べ訪問件数	455	472	542	598	584	587	598	579	607	550	485	577	6,634
2019 年度利用者実数	95	90	93	92	96	95	103	103	102	107	109	110	1,195
2020 年度利用者実数	86	98	113	116	118	119	116	118	115	107	106	96	1,308

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

大穂豊里地域包括支援センター

【総括】

1．2020 年度の実績

2019 年 4 月に開設以降、大穂豊里地区の地域住民、民生委員、地域の関係機関からの相談件数は徐々に増えており、少しずつ地域の周知度も上がっている。2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、地域へ出向いて活動を行うことは少なかったが、「大穂豊里地域包括支援センターだより」を民生委員や継続相談者宅に届け、介護予防・消費者被害防止・各種相談窓口等の周知を図った。

総合相談ではコロナ禍で閉じこもりがちの高齢者が増えている影響か、精神疾患の顕在化、認知症の進行による日常生活の変化が生じているといった相談が多かった。電話による状況確認や、感染防止対策を十分にとった訪問相談などを実施し対応した。

つくば市より「認知症カフェ」の事業委託を受け『オレンジカフェ in おおほ～カフェ･フルール～』を開催した。感染症拡大の影響で中止の月も多かったものの、6 回開催で 50 名が参加された。

2．2021 年度の課題・目標

コロナ禍における地域の新たな課題も浮き彫りとなり、個々の相談対応に加え、地域全体の課題解決に取り組む必要がある。つくば市地域保健福祉計画に沿い、各保健福祉事業の関係機関や専門職とのネットワークの強化を図り、個々のケースへの対応を通して地域全体の課題解決に取り組むことができるよう態勢を強化していく。

［文責：井ノ口美樹子］

【業務実績】

相談件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	実件数	22	42	45	52	42	81	81	83	60	69	60	73	688
	延件数	38	69	66	83	57	138	138	149	107	143	93	101	1,118
2021年度	実件数	38	53	73	73	73	75	76	57	63	55	64	70	770
	延件数	62	101	132	147	155	149	128	124	143	111	144	166	1,562

（単位：件）

相談内容（延件数）

介護・日常生活に関する相談	1,253
サービス利用に関する相談	835
医療に関する相談	352
所得・家庭生活に関する相談	222
権利擁護に関する相談	65
苦情相談	7
その他	111
合計	2,845

参加した主な会議等（一部）

つくば市地域包括支援センター・在宅介護支援センター定例会
つくば市地域包括支援センター運営協議会
つくば市地域ケア会議・生活支援体制整備事業運営協議会
つくば市在宅医療・介護連携推進事業運営協議会
大穂豊里圏域生活支援体制整備事業第２層協議体会議
大穂豊里圏域ケア会議開催
認知症疾患医療センター運営協議会
つくば市民生委員児童委員連絡協議会
つくば市虐待防止ネットワーク実務者会議
つくば市主任介護支援専門員連絡会
つくば市地域見守りネットワーク推進事業　地域支えあい会議

※概ね Web 会議

介護予防ケアマネジメント請求件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度	123	129	134	140	132	140	140	147	152	150	152	153	1,695
2020年度	139	128	139	144	147	150	158	154	152	148	141	148	1,748

認知症カフェ『オレンジカフェ in おおほ～カフェ・フルール～』

実施月	7月	8月	9月	10月	11月	3月	計
参加人数	9人	10人	11人	10人	6人	4人	50人

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で４・５・６・12・１・２月は中止とした。

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

筑波記念病院　統　計

患　者　統　計

科別外来患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2019	224	249	239	212	232	216	237	238	300	309	218	178	2,852
	2020	72	107	148	151	177	179	205	137	164	147	98	63	1,648
消化器内科	2019	778	744	826	879	916	874	872	804	840	844	783	738	9,898
	2020	483	493	659	754	786	816	856	818	802	695	647	317	8,126
血液内科	2019	573	583	580	597	628	577	620	615	621	590	536	504	7,024
	2020	491	529	614	628	595	579	603	563	595	581	507	595	6,880
神経内科	2019	64	80	93	100	90	79	79	84	77	94	83	70	993
	2020	9	4	8	6	12	17	24	20	20	27	9	11	167
代謝内科	2019	82	70	80	80	66	66	67	87	98	133	65	71	965
	2020	14	41	69	66	78	44	65	54	57	45	26	18	577
呼吸器内科	2019	68	64	56	71	82	54	62	64	59	124	94	78	876
	2020	35	51	29	41	59	55	63	42	84	96	42	28	625
消化器外科	2019	88	100	131	120	108	111	107	93	116	100	92	99	1,265
	2020	63	92	113	115	86	112	142	105	144	133	89	52	1,246
呼吸器外科	2019	52	67	69	83	82	88	186	182	141	172	134	152	1,408
	2020	91	51	44	64	61	45	43	63	58	74	23	15	632
心臓血管外科	2019	138	128	124	167	148	163	206	134	194	170	146	110	1,828
	2020	72	98	153	131	127	157	170	157	179	174	116	100	1,634
脳神経外科	2019	116	93	101	115	118	100	140	116	177	119	119	112	1,426
	2020	28	80	82	78	63	96	101	105	86	85	51	42	897
整形外科	2019	628	651	629	602	631	532	523	540	545	555	509	466	6,811
	2020	62	77	106	129	126	97	162	99	121	134	124	43	1,280
婦 人 科	2019	33	25	24	25	30	24	24	34	26	22	30	28	325
	2020	20	17	20	20	27	19	28	25	24	12	25	29	266
眼　　科	2019	17	20	16	23	10	14	13	15	16	15	8	18	185
	2020	2	2	13	11	9	16	18	13	12	7	8	1	112
耳鼻咽喉科	2019	46	38	63	60	40	49	46	46	56	38	50	33	565
	2020	14	32	39	47	30	30	44	39	39	24	28	11	377
皮 膚 科	2019	2	1	1	1	3	2	2	0	2	0	2	4	20
	2020	2	0	0	0	0	0	4	2	0	2	0	1	11
小 児 科	2019	611	586	613	680	709	629	665	692	654	683	625	545	7,692
	2020	58	111	187	235	323	194	327	279	263	265	284	196	2,722
小児外科	2019	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2020	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	6
精 神 科	2019	329	326	339	339	357	334	355	94	106	96	99	105	2,879
	2020	64	69	64	89	75	71	100	75	68	72	75	49	871
麻 酔 科	2019	34	37	40	43	29	27	37	38	47	42	36	55	465
	2020	26	37	61	59	55	51	59	61	57	55	77	13	611
放射線科	2019	37	52	59	54	45	38	41	48	52	38	33	35	532
	2020	23	22	51	27	40	44	45	44	52	35	28	23	434
リハビリテーション科	2019	96	87	76	96	83	75	95	86	117	96	93	63	1,063
	2020	475	589	883	923	939	1,072	1,041	993	1,017	1,005	939	512	10,388

リウマチ・アレルギー科	2019	7	5	5	5	4	5	4	3	6	3	1	1	49
	2020	1	4	2	6	6	6	6	1	2	4	3	2	43
形成外科	2019	8	10	6	7	19	17	16	19	15	18	17	9	161
	2020	1	4	11	9	21	6	8	14	11	20	12	7	124
腎臓内科	2019	6	3	10	8	11	12	2	10	8	6	7	3	86
	2020	8	5	6	7	10	3	6	5	12	9	5	5	81
乳腺甲状腺外科	2019	162	146	150	169	181	162	184	173	153	150	130	130	1,890
	2020	93	77	134	149	130	133	172	149	144	119	134	81	1,515
泌尿器科	2019	36	26	31	34	21	22	20	28	36	29	31	22	336
	2020	28	20	24	16	15	20	23	35	23	19	19	27	269
内　　科	2019	51	34	42	16	33	27	28	35	30	36	27	25	384
	2020	1	3	11	7	7	4	8	4	6	9	3	2	65
一般外科	2019	2	3	5	3	3	2	1	1	16	1	2	0	39
	2020	83	172	179	231	231	227	254	214	212	145	95	111	2,154
救　　急	2019	196	169	178	233	236	196	221	121	226	292	154	192	2,414
	2020	60	54	117	148	163	89	176	99	94	67	74	18	1,159
合　　計	2019	4,484	4,397	4,586	4,822	4,915	4,495	4,853	4,400	4,734	4,775	4,124	3,846	54,431
	2020	2,379	2,841	3,827	4,147	4,251	4,182	4,753	4,215	4,346	4,060	3,543	2,376	44,920

救急車搬送患者記録

		年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
患者数（搬送台数）		2019	233名	224名	197名	242名	261名	229名	206名	216名	249名	257名	221名	174名	2,709名
			231台	222台	196台	241台	258台	229台	206台	216台	248台	251台	221台	169台	2,688台
		2020	160名	201名	246名	242名	288名	287名	267名	255名	285名	288名	184名	0名	2,703名
			160台	199台	242台	237台	287台	287台	265台	253台	284台	287台	183台	0台	2,684台
症度別	入　院	2019	118名	113名	100名	110名	109名	122名	111名	111名	139名	126名	111名	73名	1,343名
			50.6%	50.4%	50.8%	45.5%	41.8%	53.3%	53.9%	51.4%	55.8%	49.0%	50.2%	42.0%	49.6%
	外　来		115名	111名	97名	132名	152名	107名	95名	105名	110名	131名	110名	101名	1,366名
			49.4%	49.6%	49.2%	54.5%	58.2%	46.7%	46.1%	48.6%	44.2%	51.0%	49.8%	58.0%	50.4%
	入　院	2020	73名	107名	137名	124名	138名	152名	153名	134名	135名	149名	63名	0名	1,365名
			45.6%	53.2%	55.7%	51.2%	47.9%	53.0%	57.3%	52.5%	47.4%	51.7%	34.2%	#####	50.5%
	外　来		87名	94名	109名	118名	150名	135名	114名	121名	150名	139名	93名	0名	1,310名
			54.4%	46.8%	44.3%	48.8%	52.1%	47.0%	42.7%	47.5%	52.6%	48.3%	50.5%	#####	48.5%
診療科別	内科系	2019	105名	112名	104名	113名	131名	109名	96名	112名	122名	123名	115名	78名	1,320名
			45.1%	50.0%	52.8%	46.7%	50.2%	47.6%	46.6%	51.9%	49.0%	47.9%	52.0%	44.8%	48.7%
	外科系		87名	66名	50名	84名	64名	79名	67名	60名	89名	85名	62名	52名	845名
			37.3%	29.5%	25.4%	34.7%	24.5%	34.5%	32.5%	27.8%	35.7%	33.1%	28.1%	29.9%	31.2%
	救急科		41名	46名	43名	45名	66名	37名	43名	44名	38名	49名	44名	44名	540名
			17.6%	20.5%	21.8%	18.6%	25.3%	16.2%	20.9%	20.4%	15.3%	19.1%	19.9%	25.3%	19.9%
	内科系	2020	69名	81名	96名	91名	129名	125名	109名	112名	122名	121名	75名	0名	1,130名
			43.1%	40.3%	39.0%	37.6%	44.8%	43.6%	40.8%	43.9%	42.8%	42.0%	40.8%	#####	41.8%
	外科系		38名	70名	69名	81名	65名	70名	85名	79名	80名	101名	28名	0名	766名
			23.8%	34.8%	28.0%	33.5%	22.6%	24.4%	31.8%	31.0%	28.1%	35.1%	15.2%	#####	28.3%
	救急科		53名	50名	81名	70名	94名	92名	73名	64名	83名	66名	53名	0名	779名
			33.1%	24.9%	32.9%	28.9%	32.6%	32.1%	27.3%	25.1%	29.1%	22.9%	28.8%	#####	28.8%
交通事故		2019	24名	14名	10名	17名	15名	12名	17名	12名	18名	26名	12名	17名	194名
			10.3%	6.3%	5.1%	7.0%	5.7%	5.2%	8.3%	5.6%	7.2%	10.1%	5.4%	9.8%	7%
		2020	11名	18名	14名	23名	18名	39名	23名	24名	17名	22名	9名	0名	218名
			6.9%	9.0%	5.7%	9.5%	6.3%	13.6%	8.6%	9.4%	6.0%	7.6%	4.9%	#####	8.1%

ドクターヘリ搬送患者数

年　度	合　計
2019	6名
2020	5名

平均在院日数（一般病床）

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平　均
循環器内科	2019	13.2	14.9	15.0	12.8	11.6	12.4	12.6	13.9	13.5	11.8	13.1	16.5	13.4
	2020	19.6	14.9	10.8	10.6	12.8	11.7	10.2	10.1	10.4	14.0	16.2	52.9	16.2
消化器内科	2019	14.6	16.4	14.4	15.9	15.4	13.5	13.1	13.5	12.6	15.6	14.0	15.6	14.6
	2020	14.9	14.3	13.2	14.0	16.0	14.3	14.3	13.3	12.1	12.2	14.3	18.7	14.3
血液内科	2019	17.9	20.6	24.5	23.5	23.8	23.0	23.3	21.5	19.2	18.0	23.9	20.7	21.7
	2020	19.7	18.2	19.4	16.9	20.7	18.4	25.9	23.2	21.1	18.2	27.7	54.1	23.6
神経内科	2019			17.4			13.0	94.0	43.0	8.0	16.0	42.0	13.0	30.8
	2020	30.0	35.0	23.0	30.0	23.5	24.8	23.0	10.5	10.3	26.0	10.0	28.0	22.8
代謝内科	2019	13.0	13.3	10.2	14.6	10.5	9.7	15.6	10.3	17.7	13.3	9.9	8.4	12.2
	2020	11.7	18.5	12.6	11.6	15.2	12.4	10.9	15.7	13.2	30.9	18.0	124.0	24.6
呼吸器内科	2019	17.0	14.9	14.7	16.8	17.2	15.2	17.2	18.0	18.0	21.3	17.3	21.2	17.4
	2020	30.4	24.7	13.4	14.4	16.7	19.9	15.5	23.2	15.4	14.9	17.6	23.8	19.2
消化器外科	2019	13.0	13.2	17.1	13.4	12.8	15.6	15.8	15.7	12.8	14.3	11.9	15.2	14.2
	2020	12.0	12.9	14.6	16.4	14.4	15.1	18.8	14.4	14.9	15.9	12.4	47.7	17.5
呼吸器外科	2019	16.6	18.4	17.2	12.3	12.9	12.6	12.2	11.7	12.8	18.9	14.0	19.8	15.0
	2020	16.9	13.7	9.8	9.0	9.0	13.4	10.7	12.5	11.9	12.3	14.9		12.2
心臓血管外科	2019	11.1	14.8	12.7	10.0	9.2	9.5	10.0	9.8	14.4	14.7	14.7	13.1	12.0
	2020	13.3	11.7	9.9	10.2	12.9	15.0	13.9	17.7	17.8	13.9	11.3	21.8	14.1
脳神経外科	2019	21.5	26.9	21.5	19.3	20.3	20.6	24.2	23.5	19.7	24.1	25.9	25.6	22.8
	2020	27.9	24.1	26.0	23.6	22.3	18.9	19.6	22.8	22.6	19.7	25.9	64.5	26.5
整形外科	2019	19.7	23.0	18.9	21.9	18.2	22.0	19.5	22.1	20.6	21.3	22.0	18.8	20.7
	2020	19.5	17.8	18.2	18.3	16.8	18.0	20.2	19.2	21.4	18.0	20.9	30.9	19.9
婦 人 科	2019	6.2	6.7	8.7	3.4	5.1	9.5	8.7	6.2	6.2	5.7	8.3	4.4	6.6
	2020	4.6	6.4	10.4	6.7	6.7	7.6	11.6	11.8	6.8	5.8	10.0		8.0
眼　　科	2019	2.7	4.5	2.3	1.5	2.5	1.0	1.7	1.3	1.0	1.2	1.0	1.2	1.8
	2020	3.0	1.3	3.3	1.0	3.3	1.2	1.3	1.0	1.0	1.3	1.2		1.7
耳鼻咽喉科	2019	6.7	6.2	4.5	6.4	7.1	4.3	5.1	4.8	5.5	6.7	6.8	5.1	5.8
	2020		4.0	6.0	5.2	5.8	6.8	8.4	6.7	5.5	5.5	5.2		5.9
皮 膚 科	2019				22.0							26.0	6.0	18.0
	2020													
リハビリテーション科	2019	7.6	15.5	15.4	8.6	8.6	12.5	9.3	19.5	16.4	10.9	18.5	24.0	13.9
	2020	33.0	24.0	12.4	9.0	16.8	12.5	12.6	15.2	13.6	18.7	19.4	150.0	28.1
形成外科	2019													
	2020	4.7	12.3	11.6	12.7	10.0	14.5	6.6	8.8	10.5	11.8	24.3	155.4	23.6
合　　計	2019	15.0	17.2	15.6	15.6	14.8	15.4	15.7	15.9	15.2	16.2	16.7	17.2	15.9
	2020	17.9	16.3	15.0	14.4	15.6	15.3	15.5	16.2	15.6	15.4	17.8	43.4	18.2

※回復期リハ、療養病棟を除く

入院延べ患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2019	1,561	1,879	1,943	1,668	1,688	1,567	1,377	1,474	1,466	1,407	1,440	1,349	18,819
	2020	976	1,103	1,145	1,321	1,462	1,526	1,434	931	1,009	1,357	1,033	521	13,818
消化器内科	2019	1,567	1,502	1,392	1,799	1,665	1,699	1,400	1,298	1,220	1,338	1,317	1,196	17,393
	2020	1,086	1,076	1,081	1,086	1,580	1,520	1,519	1,552	1,418	1,202	1,361	679	15,160
血液内科	2019	1,273	1,296	1,263	1,363	1,503	1,356	1,753	1,545	1,300	1,368	1,607	1,479	17,106
	2020	1,088	1,107	1,182	1,349	1,374	1,194	1,215	1,279	1,019	1,030	1,134	679	13,650
神経内科	2019	96	84	154	147	112	169	109	119	79	70	79	82	1,300
	2020	75	82	146	253	148	108	106	36	43	34	58	16	1,105
代謝内科	2019	294	299	223	273	350	260	246	251	703	687	299	171	4,056
	2020	70	138	184	312	378	262	245	248	207	164	176	102	2,486
呼吸器内科	2019	681	490	579	519	582	465	596	750	679	962	1,190	1,038	8,531
	2020	640	681	553	524	628	647	790	790	742	1,058	798	248	8,099
消化器外科	2019	565	545	674	610	638	573	747	640	742	658	509	582	7,483
	2020	527	458	659	494	478	655	731	727	744	639	564	221	6,897
呼吸器外科	2019	321	380	443	318	257	152	194	251	279	375	276	223	3,469
	2020	198	250	169	130	76	164	217	278	270	184	179	180	2,295
心臓血管外科	2019	598	658	508	340	448	414	368	484	715	702	544	377	6,156
	2020	266	405	447	499	407	429	599	654	582	419	296	89	5,092
脳神経外科	2019	1,862	1,827	1,697	1,760	1,695	1,682	1,742	1,610	1,698	1,594	1,413	1,681	20,261
	2020	1,305	1,386	1,479	1,293	1,359	1,581	1,800	1,898	1,788	1,712	1,569	1,244	18,414
整形外科	2019	2,199	2,313	2,199	2,508	2,081	2,199	2,248	2,392	2,540	2,593	2,590	2,558	28,420
	2020	1,617	1,472	1,737	2,330	2,203	2,084	2,271	2,425	2,660	2,305	2,413	792	24,309
婦 人 科	2019	49	30	78	20	51	33	56	37	67	34	33	28	516
	2020	16	17	59	69	52	50	82	54	55	22	17	0	493
眼　　科	2019	54	125	68	45	41	49	53	65	41	46	17	37	641
	2020	13	29	30	52	59	46	53	50	37	60	57	0	486
耳鼻咽喉科	2019	159	71	98	111	131	59	106	83	107	123	131	125	1,304
	2020	30	57	81	75	108	134	136	92	82	76	44	0	915
皮 膚 科	2019	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	13	3	27
	2020	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	2019	878	898	788	700	746	781	882	755	735	636	613	662	9,074
	2020	619	813	1,139	1,180	994	875	969	885	1,010	1,048	918	802	11,252
形成外科	2019	25	119	82	128	130	162	144	175	114	138	177	221	1,615
	2020	207	198	141	146	180	141	161	164	179	170	143	132	1,962
一般外科	2019	116	151	72	65	87	81	95	77	90	108	93	89	1,124
	2020	88	230	329	310	337	250	227	193	279	170	172	87	2,672
救 急 科	2019	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2020	7	109	264	229	241	228	103	133	172	251	264	233	2,234
合　　計	2019	12,298	12,667	12,261	12,385	12,205	11,701	12,116	12,006	12,575	12,839	12,341	11,901	147,295
	2020	8,828	9,611	10,825	11,652	12,064	11,894	12,658	12,389	12,296	11,901	11,196	6,025	131,339

入院患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2019	89	94	96	79	87	78	80	79	84	87	81	51	985
	2020	25	48	70	82	78	87	96	59	75	80	51	3	754
消化器内科	2019	90	79	72	91	85	99	79	82	75	78	73	63	966
	2020	66	69	77	70	95	90	86	105	83	72	74	3	890
血液内科	2019	60	48	51	51	59	54	55	62	57	67	61	50	675
	2020	44	51	61	76	58	63	44	58	32	63	44	2	596
神経内科	2019	1	2	2	1	0	4	0	3	2	1	0	2	18
	2020	1	3	6	5	3	3	5	3	5	3	3	0	40
代謝内科	2019	12	19	17	12	19	15	14	21	28	35	12	13	217
	2020	5	8	14	27	17	12	19	15	13	5	6	0	141
呼吸器内科	2019	30	25	31	27	30	27	36	33	26	43	45	27	380
	2020	12	20	24	23	27	31	35	26	36	64	23	2	323
消化器外科	2019	43	44	36	45	41	38	40	44	42	46	34	38	491
	2020	36	33	40	24	34	42	34	34	46	39	39	1	402
呼吸器外科	2019	15	24	20	18	15	14	17	15	18	21	13	8	198
	2020	9	15	11	10	8	9	13	16	12	10	7	0	120
心臓血管外科	2019	59	59	47	47	57	55	33	59	54	53	38	32	593
	2020	22	39	43	48	30	37	49	40	31	30	19	2	390
脳神経外科	2019	54	40	43	50	43	38	41	38	45	31	42	30	495
	2020	25	38	37	32	25	46	49	58	38	37	28	4	417
整形外科	2019	85	69	77	79	79	82	78	70	83	84	69	77	932
	2020	37	57	78	95	80	74	89	96	76	104	72	1	859
婦 人 科	2019	7	5	10	4	11	4	5	7	10	7	3	6	79
	2020	4	3	7	12	9	7	8	5	11	5	3	0	74
眼　　科	2019	19	19	28	21	14	23	20	25	17	19	10	18	233
	2020	5	13	9	21	21	15	20	20	12	21	23	0	180
耳鼻咽喉科	2019	21	8	24	16	15	12	21	17	17	20	14	17	202
	2020	0	6	10	11	16	16	10	12	6	7	7	0	101
皮 膚 科	2019	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	2020	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	2019	1	5	4	5	1	4	2	4	3	3	4	2	38
	2020	6	14	12	7	3	6	9	13	8	9	5	0	92
形成外科	2019	3	8	4	16	11	11	14	8	5	10	9	7	106
	2020	3	5	10	12	11	7	10	7	6	5	4	0	80
一般外科	2019	1	7	4	1	4	4	2	0	7	3	4	2	39
	2020	3	15	7	12	11	8	14	11	5	5	5	0	96
救 急 科	2019	1	0	2	1	2	3	1	1	1	0	0	2	14
	2020	7	11	32	22	33	19	17	18	17	26	14	0	216
合　　計	2019	591	555	568	565	573	565	538	568	574	608	513	445	6,663
	2020	310	448	548	589	559	572	607	596	512	585	427	18	5,771

手術件数（入院・外来）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	入院	10	17	25	40	19	27	37	32	30	39	16	0	292
	外来	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
消化器内科	入院	30	27	34	44	40	41	52	41	40	38	46	1	434
	外来	47	34	55	61	65	69	55	59	64	53	50	0	612
消化器外科	入院	30	31	38	35	27	39	36	39	44	47	37	1	404
	外来	3	4	2	8	4	1	6	5	5	6	0	0	44
呼吸器外科	入院	2	6	7	5	5	3	5	9	2	1	5	0	50
	外来	3	5	5	5	4	1	5	4	5	5	2	1	45
心臓血管外科	入院	15	33	29	39	18	22	43	30	36	20	5	0	290
	外来	5	3	8	3	8	3	4	8	5	4	2	0	53
脳神経外科	入院	9	10	18	13	6	10	16	14	13	10	14	0	133
	外来	0	1	2	4	2	4	0	2	3	4	0	0	22
整形外科	入院	33	71	88	81	89	80	79	86	85	89	76	2	859
	外来	8	7	6	10	4	4	8	6	8	7	6	0	74
婦 人 科	入院	2	4	5	11	12	6	5	5	9	5	3	0	67
	外来	2	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	6
眼　　科	入院	7	15	13	21	24	21	23	21	20	23	27	0	215
	外来	2	1	13	11	9	14	17	12	9	6	7	0	101
耳鼻咽喉科	入院	0	1	3	4	6	11	13	6	2	2	5	0	53
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
皮 膚 科	入院	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	外来	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
形成外科	入院	7	9	8	13	9	8	14	8	8	7	4	0	95
	外来	2	0	2	1	2	2	1	3	2	1	2	1	19
そ の 他	入院	0	2	7	3	3	6	3	5	2	2	4	0	37
	外来	6	2	3	6	3	5	7	3	2	2	7	0	46
合　　計	入院	145	226	275	309	258	274	327	296	291	283	242	4	2,930
	外来	78	59	96	109	101	105	104	103	103	88	77	2	1,025

※手術室・血管造影室・内視鏡・救急処置室で行ったもの全て

手術件数（入院のみ・時間帯別）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	日勤	10	17	24	36	18	25	36	32	26	37	16	0	277
	緊急	0	0	1	4	1	2	1	0	4	2	0	0	15
消化器内科	日勤	28	26	32	43	39	38	46	39	35	36	43	1	406
	緊急	2	1	2	1	1	3	6	2	5	2	3	0	28
消化器外科	日勤	30	30	37	34	27	37	35	36	42	47	37	1	393
	緊急	0	1	1	1	0	2	1	3	2	0	0	0	11
呼吸器外科	日勤	2	6	7	5	5	3	4	8	2	1	5	0	48
	緊急	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
心臓血管外科	日勤	15	26	26	34	18	21	38	24	31	20	5	0	258
	緊急	0	7	3	5	0	1	5	6	5	0	0	0	32
脳神経外科	日勤	7	9	15	10	4	9	11	10	13	9	14	0	111
	緊急	2	1	3	3	2	1	5	4	0	1	0	0	22
整形外科	日勤	33	68	88	80	87	80	78	86	84	88	76	2	850
	緊急	0	3	0	1	2	0	1	0	1	1	0	0	9
婦 人 科	日勤	2	4	5	11	12	6	5	5	9	5	3	0	67
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼　　科	日勤	7	15	13	21	24	21	23	21	20	23	27	0	215
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	日勤	0	1	3	4	6	10	13	6	2	2	5	0	52
	緊急	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
皮 膚 科	日勤	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
形成外科	日勤	7	9	8	13	9	8	14	8	8	7	4	0	95
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	日勤	0	2	7	3	3	6	3	5	2	2	4	0	37
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　　計	日勤	141	213	265	294	252	264	307	280	274	277	239	4	2,810
	緊急	4	13	10	15	6	10	20	16	17	6	3	0	120

病床利用率

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般病棟	2019	86.8%	85.7%	88.1%	84.1%	82.4%	79.7%	82.3%	85.7%	86.6%	87.1%	89.8%	79.2%
	2020	58.0%	64.8%	77.9%	78.4%	83.2%	84.7%	88.0%	90.6%	84.0%	80.3%	83.6%	31.8%
特定集中	2019	72.9%	87.5%	77.9%	62.1%	62.9%	53.8%	63.7%	70.0%	83.9%	87.1%	66.8%	53.6%
	2020	27.5%	66.1%	77.6%	78.2%	82.5%	84.4%	87.8%	90.2%	83.7%	80.2%	83.5%	31.7%
回復期リハ	2019	99.8%	101.2%	100.7%	100.7%	99.5%	100.1%	99.9%	99.5%	100.4%	99.5%	100.1%	99.4%
	2020	89.9%	80.5%	96.0%	99.8%	100.6%	100.3%	100.4%	98.8%	101.0%	100.6%	98.1%	62.6%
地域包括ケア	2019	74.1%	75.6%	69.1%	71.0%	74.6%	80.3%	68.7%	64.1%	73.4%	83.3%	83.7%	71.0%
	2020	50.5%	41.9%	56.9%	74.3%	71.2%	71.6%	69.0%	71.3%	77.2%	72.9%	85.1%	40.6%
療養病棟	2019	97.8%	95.2%	92.7%	96.1%	95.1%	97.1%	92.3%	94.7%	93.2%	92.5%	98.2%	96.2%
	2020	87.6%	84.4%	76.6%	82.1%	85.5%	89.2%	94.0%	84.8%	88.9%	86.3%	89.3%	80.5%
合　　計	2019	88.0%	87.4%	88.0%	85.8%	84.8%	83.8%	83.9%	86.0%	87.4%	88.6%	91.2%	82.3%
	2020	62.8%	65.9%	78.0%	81.3%	83.9%	85.0%	87.8%	88.2%	85.0%	81.7%	85.2%	40.8%

主な指導料・管理料

		点数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
1	救急医療管理加算1，2	350～950	838	1,231	1,451	1,357	1,515	1,387	1,543	1,522	1,375	1,503	1,095	32	1,237
2	夜間休日緊急搬送医学管理料	600＋400	46	86	93	104	103	104	109	118	126	127	65	0	90
3	特定集中治療室管理料3（最大14日）	6,286～7,865	61	159	140	172	132	156	169	161	168	176	145	18	138
4	麻酔管理料1	250～1,050	38	47	60	70	64	47	72	84	78	87	65	0	59
5	病理組織標本作製	860	172	207	312	345	338	314	322	319	353	302	273	22	273
6	ＭＲＩ撮影加算（5月～算定開始）	100～600	0	93	118	109	79	113	137	110	130	96	83	58	102
7	外来化学療法加算2（ベルケイド含む）	370･470	156	158	173	203	168	196	198	170	159	150	132	190	171
8	外来栄養食事指導料　初回・2回目（クリニック実施分）	260･200	34	35	60	51	63	67	59	60	77	75	71	77	61
9	入院栄養食事指導料1　初回・2回目	260･200	57	66	77	73	64	75	96	107	103	97	64	5	74
10	集団栄養食事指導料	80	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
11	薬剤管理指導料　※1･2含む	325・380	473	539	851	883	856	904	962	898	925	841	810	115	755
12	無菌治療室管理加算（S5西クリーンルーム）	3,000	134	112	167	208	208	145	234	163	126	141	210	97	162
13	無菌製剤処理料1，2	40～180	229	294	331	413	408	376	424	332	301	345	291	235	332
14	リハビリ総合計画評価料	240・300	444	542	681	674	734	689	747	747	765	728	633	282	639
15	退院時リハビリテーション指導料	300	143	132	189	208	202	210	212	228	236	205	177	17	180
16	在宅患者訪問リハビリ指導料	300	24	42	58	65	44	33	30	27	30	53	51	56	43
17	初診料	288	202	339	388	413	455	432	433	412	492	476	262	41	362
18	診療情報提供料（Ⅰ）（Ⅱ）	250～500	82	112	183	172	177	184	209	173	196	176	137	76	156
19	肺血栓塞栓症予防管理料	305	67	91	92	116	87	101	106	127	121	108	89	1	92
20	栄養サポートチーム加算	200	66	61	113	134	111	101	166	154	178	161	143	0	116
21	入退院支援加算1　イ　一般病棟	600	60	69	103	99	100	99	99	98	106	104	98	56	91
22	入退院支援加算1　ロ　療養病棟	1,200	2	1	3	0	4	2	5	5	4	3	3	2	3
23	急性期患者支援病床初期加算（地域包括・療養）	150・300	253	225	449	485	465	472	485	513	473	428	448	53	396
24	認知症ケア加算1（5月～算定開始）	18～160	0	242	258	420	280	301	343	353	592	546	514	257	373
25	ＩＣＵ早期栄養介入管理加算（7月～算定開始）	400	0	0	0	43	32	54	44	42	41	42	34	0	37
26	一般名処方加算1・2（9月～算定開始）	5～7	0	0	0	0	0	2,924	4,762	4,303	4,942	4,621	4,397	3,927	4,268
27	せん妄ハイリスク患者ケア加算（11月～算定開始）	100	0	0	0	0	0	0	0	83	173	183	178	15	126

地域がん登録部位別件数

部位名	第１段階　ICD-O-2　形態コード	第１段階　ICD-O-2　形態コード	件数
口腔・咽頭		C00-14	1
食道		C15	18
胃		C16	91
小腸		C17	3
結腸		C18	83
直腸		C19	47
肝臓		C22	10
胆嚢・胆管		C23-24	14
膵臓		C25	20
喉頭		C32	
肺		C33-34	34
骨・軟部		C40	
皮膚（黒色腫含む）		C44	
乳房		C50	1
子宮頚部		C53	
子宮体部		C54	
子宮		C55	
卵巣		C56	
前立腺		C61	
膀胱		C67	
腎・他の尿路		C67,C64-66,C68	
脳・中枢神経系		C700,C71,C722-C729,C751-753	
甲状腺		C73	
悪性リンパ腫	959-972/974-975	リンパ腫	27
多発性骨髄腫	973,976	骨髄腫	9
白血病	980-994	白血病	29
他の造血器腫瘍	995-998	造血器腫瘍	9
その他（原発不明）		その他	10
			406

院内・院外　研修・講演会一覧

医局（内科カンファレンス）

内　　容	発　表　者	場　　所	年　月　日	参加者数
症例報告「低血糖で救急搬送の既往のある症例 .」	日浦とき雄	筑波記念病院	2020.5.27	14
抄読会「Association of Cardiac Injury With Mortality in Hospitalized Patients With COVID-19 in Wuhan, China」	知覧佑樹	筑波記念病院	2020.6.3	27
症例報告「腹痛と下痢を繰り返し、小腸膿瘍をきたしたクローン病の一例」	吉田エリン唯	筑波記念病院		
抄読会「Pulmonary Vascular Endothelialitis, Thrombosis, and Angiogenesis in Covid-19 」	西田康孝	筑波記念病院	2020.6.10	16
症例報告「膵十二指腸動脈瘤破裂後 十二指腸狭窄を生じた１例 」	金澤卓也	筑波記念病院		
症例報告「両側性声帯麻痺に対して 気管切開を行なった一例」	丸山夏樹	筑波記念病院	2020.6.29	11
抄読会「A Comparison of Two LDL Cholesterol Targets after Ischemic Stroke」	松本佳奈	筑波記念病院	2020.7.8	21
症例報告「急激な血圧上昇により 慢性心不全の急性増悪を繰り返す一例」	日浦とき雄	筑波記念病院		
CPC「胃癌内視鏡切除 , 左乳癌術後 , 肺癌放射線治療後に汎血球減少を来した悪性リンパ腫疑いの症例 」	臨床側：宝田亜矢子 病理側：臺勇一	筑波記念病院	2020.7.29	15
抄読会「Effect of C-Reactive Protein-Guided Antibiotic Treatment Durationm, 7-Day Treatment, or 14-Day Treatment on 30-Day Clinical Failure Rate in Patients with Uncomplicated Gram-Negative Bacteremia A Randomized Clinical Trial」	田島聖也	筑波記念病院	2020.9.9	16
症例報告「 たこつぼ型心筋症と虚血性心疾患の鑑別を要した１例」	日浦とき雄	筑波記念病院		
抄読会「Prevention of Upper Respiratory Tract Infections by Gargling A Randomized Trial」	坂本勇志	筑波記念病院	2020.9.23	13
症例報告「Kytococcus sedentarius による遅発性 Ommaya reservoir 感染の一例」	知覧佑樹	筑波記念病院		
抄読会「Ticagrelor and Aspirin or Aspirin Alone in Acute Ischemic Stroke or TIA」	日浦とき雄	筑波記念病院	2020.10.28	12
症例報告「腎後性腎不全から可逆性後頭葉白質脳症 (PRES) を引き起こした一例」	西田康孝	筑波記念病院		
抄読会「Triple Inhaled Therapy at Two Glucocorticoid Doses in Moderate-to-Very Serve COPD」	小林崇久	筑波記念病院	2020.11.11	9
症例報告「冠動脈疾患に合併する 閉塞性動脈硬化症に対して 血管内治療を行った一例 」	谷中夏海	筑波記念病院		
CPC「多発性骨髄腫の経過中に原因不明の肝障害、腎障害を来し、救急搬送となり当日死亡した一例」	臨床側：梅山翔平 病理側：大和万里子	筑波記念病院	2020.11.25	19
抄読会「Chest CT finding in cases from the cruise ship Diamond Princess Disease」	堀井裕司	筑波記念病院	2020.12.2	9

学術集会「代謝性アシドーシスを合併した グリホサート中毒から 救命し得た１例」	金澤卓也	筑波記念病院	2021.1.13	47
学術集会「破裂性腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術後腹部コンパートメント症候群をきたし救命しえた１例」	松本佳奈	筑波記念病院		
学術集会「止血と血栓の間」	日浦とき雄	筑波記念病院		
学術集会「持続皮下インスリン注入療法（CSII）を 導入した１型糖尿病の一例」	小林崇久	筑波記念病院		
学術集会「腰椎椎間板嚢腫に対し顕微鏡下椎間板嚢腫切除術を行った１例」	丸山夏樹	筑波記念病院		
学術集会「腹腔鏡下胃切除術中、頸部まで皮下気腫を認めた一例」	吉田エリン唯	筑波記念病院		
学術集会「心電図変化を伴わない 不安定狭心症の一例」	谷中夏海	筑波記念病院		
学術集会「腎後性腎不全から可逆性後頭葉白質脳症（PRES）を引き起こした一例」	西田康孝	筑波記念病院		
抄 読 会「Initial Invasive or Conservative Strategy for Stable Coronary Disease」	谷中夏海	筑波記念病院	2021.1.27	7
CPC「左胸膜肥厚と著明な胸水貯留を認め、左肺悪性腫瘍、中皮腫疑いで死亡した一例 」	臨床側：金澤卓也 病理側：大和万里子	筑波記念病院	2021.2.3	19
症例報告「気管支肺炎を契機として発症したCOPDの急性増悪」	小林崇久	筑波記念病院	2021.2.10	9

地域医療連携部（地域医療連携公開講座）

内　　容	講　　師	場　　所	年　月　日
かかりつけ医における上部内視鏡診療	すぎやま内科皮フ科クリニック 杉山　弘明	ホテル日航つくば（WEB 講習）	2020.12.1
膵癌の予後改善を目指して～発癌モデルから見た膵癌の制御～	東京大学医学部附属病院 伊地知　秀明		

茨城県指定地域リハ・ステーション

内　　容	場　　所	年　月　日
つくば地域リハ・セミナー　第 30 回症例検討会	オンライン	2021.3.17 ～ 19

医療法人社団 筑波記念会 2020年度年報

発行者：医療法人社団 筑波記念会
〒 300-2622　茨城県つくば市要 1187-299
TEL 029-864-1212
FAX 029-864-8135
https://tsukuba-kinen.or.jp/

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL